

介護現場の生産性向上に向けた
介護ロボットの開発・実証・普及広報のプラットフォーム事業

事業報告書

令和7年3月

厚生労働省

目次

第1章	事業概要	1
第1節	背景と目的	1
第2節	事業概要	1
第3節	実行体制	2
第2章	相談窓口における取組について	5
第1節	相談窓口設置の目的	5
第2節	相談窓口における取組	5
第3節	各相談窓口の概要	6
第4節	各取組について	8
第3章	リビングラボにおける取組について	70
第1節	リビングラボ設置の目的	70
第2節	リビングラボにおける取組	71
第3節	各リビングラボの概要	72
第4節	各取組について	81
第4章	ニーズ・シーズマッチング支援事業について	93
第1節	マッチング支援事業の目的と支援内容	93
第2節	事業ホームページの更新	96
第3節	ニーズリストの公開	97
第4節	マッチング支援の実績	101
第5節	マッチング検討会	111
第6節	介護分野の歩き方	113
第5章	地域における生産性向上の取組に関する支援事業	116
第1節	地域における生産性向上の取組に関する支援事業(中央管理事業)について	116
第2節	ワンストップ窓口の設置促進等に関する取組	124
第3節	ワンストップ窓口の支援の実施に関する取組	134
第6章	相談窓口・リビングラボネットワーク連絡会議について	138
第1節	目的	138
第2節	実施内容	138
第7章	周知活動	143
第1節	ホームページの設置・運用	143
第2節	事業パンフレットの作成・配布	153
第3節	国際福祉機器展への出展	155
第4節	ニーズ・シーズマッチングセミナーの開催	165
第5節	セミナー・メディア等における当事業の周知実績	167

第8章	まとめ	169
第1節	事業成果	169
第2節	今後必要と考えられる取組	174

第1章 事業概要

第1節 背景と目的

日本の高齢化は、世界に例を見ない速度で進行しており、介護ニーズが増加する一方、労働力人口が減少する状況下で、介護サービスの質の確保を図りながら、介護職員の働く環境改善を推進することは重要である。

このような中、昨年10月から開催されている政府のデジタル行財政改革会議においては、介護分野のデジタル化が重点事項の1つとされており、年末に決定された中間取りまとめでは、介護現場のデジタル化に向けた財政支援や生産性向上の取組を推進するための人員配置基準の特例的な柔軟化、生産性向上を着実に進めていくためのKPIを設定すること等が取りまとめられた。また、「介護職員の働く待遇改善に向けた政策パッケージ」(令和4年12月23日厚生労働省策定・全世代型社会保障構築会議決定)においても、総合的・横断的な支援策が述べられている。

現在、介護ロボットやICT等のテクノロジーの活用は、生産性向上の取組における効果的な手段として、様々な主体により取り組まれており、今後さらにその活用を推進するためには、介護現場のニーズをふまえた技術開発、介護現場へのテクノロジーの周知・体験機会の創出、テクノロジーを活用した介護技術・業務改善方法の構築等、開発・導入・普及広報・活用それぞれの段階で必要な取組を実施していくことが重要である。

本事業では、地域における介護ロボットの開発から活用までの相談窓口(地域拠点)を設置するほか、介護ロボットの製品化にあたっての評価・効果検証を実施するリビングラボのネットワークを形成するとともに、実証フィールドを整備することにより、介護ロボット等の開発・実証・普及広報のプラットフォームを構築し、企業による技術開発の促進を目的に、エビデンスデータを蓄積するとともに、周知を図り、介護ロボットの開発・普及を加速化する。

また、併せて、令和6年度当初予算において別途調達を行う、地域医療介護総合確保基金を活用した「介護生産性向上推進総合事業」等、都道府県が主体となった介護現場の生産性向上の取組について、支援を実施する。

第2節 事業概要

本事業の事業内容を以下に示す。

- ・ 相談窓口
 - ① 相談窓口の設置
 - ② 介護ロボットの体験展示
 - ③ 介護ロボットの試用貸出
 - ④ 介護ロボットの導入支援活動
 - ⑤ 担当区域内でのネットワーク構築(協議会)
- ・ リビングラボネットワーク
 - ① 介護ロボットの製品評価・効果検証
 - ② 介護ロボットの効果検証に係る助言

③ 効果測定事業に係る助言

・ 事務局

① 相談窓口、リビングラボネットワークの活動支援

② ニーズ・シーズマッチング支援事業の実施

③ 地域における生産性向上の取組に関する支援(中央管理事業)

第3節 実行体制

本事業の実施体制は、全国 11 か所の相談窓口、全国 8 か所の基幹型リビングラボおよび 7 か所の支援型リビングラボ、厚生労働省および事務局からなる。

(1)相談窓口

本事業にて設置した相談窓口は下記 11 か所である。

名称	所在地
公益財団法人 いきいき岩手支援財団 岩手県高齢者総合支援センター	〒020-0015 岩手県盛岡市本町通 3 丁目 19-1 岩手県福祉総合相談センター3 階
公益財団法人 介護労働安定センター 茨城支部 介護ロボット・ICT 相談窓口	〒310-0021 茨城県水戸市南町 3 丁目 4 番 10 号 水戸 FF センタービル
とちぎ福祉プラザモデルルーム 福祉用具・介護ロボット相談・活用センター	〒320-0072 栃木県宇都宮市若草 1-10-6 とちぎ福祉プラザ1階
社会福祉法人 埼玉県社会福祉協議会 介護すまいる館	〒330-8529 埼玉県さいたま市浦和区針ヶ 谷 4-2-65
介護テクノロジー・業務改善支援センター福井・ 石川	〒910-0006 福井県福井市中央 1 丁目 3- 1 加藤ビル 6 階
公益財団法人 介護労働安定センター 奈良支部 介護ロボット・ICT 相談窓口	〒630-8115 奈良県奈良市大宮町 4-266- 1 三和大宮ビル 2 階
公益財団法人 介護労働安定センター 鳥取支部 介護ロボット・ICT 相談窓口	〒680-0846 鳥取県鳥取市扇町116田中 ビル2号館2階
公益財団法人 介護労働安定センター 山口支部 介護ロボット・ICT 相談窓口	〒753-0824 山口県山口市穂積町 1-2 リバーサイドマンション山陽Ⅱ 2F
公益財団法人 介護労働安定センター 香川支部 介護ロボット・ICT 相談窓口	〒760-0023 香川県高松市寿町 1 丁目 3 番 2 号 日進高松ビル 6 階
公益財団法人 介護労働安定センター 佐賀支部 介護ロボット・ICT 相談窓口	〒840-0816 佐賀県佐賀市駅南本町 6-4 佐賀中央第一生命ビル 8F
公益財団法人 介護労働安定センター 熊本支部 介護ロボット・ICT 相談窓口	〒860-0806 熊本県熊本市中央区花畑町 1-1 大樹生命熊本ビル2F

(2)リビングラボ

本事業で選定した基幹型リビングラボは以下8か所である。

名称	所在地
東北大学青葉山リビングラボ	〒980-0845 宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉 6-6-01 東北大学大学院工学研究科機械系共同棟5階
Care Tech Lab (株式会社善光総合研究所)	〒144-0033 東京都大田区東糀谷六丁目4番17号
Future Care Lab in Japan (SOMPO ケア(株))	〒140-0002 東京都品川区東品川 4-13-14 グラスキューブ品川10階
柏リビングラボ (国立研究開発法人産業技術総合研究所)	〒277-0882 千葉県柏市柏の葉 6-2-3 東京大学柏IIキャンパス内 社会イノベーション棟
藤田医科大学 ロボティクススマートホーム・活動支援機器研究実証センター	〒470-1192 愛知県豊明市沓掛町田楽ヶ窪1番地98 藤田医科大学病院内
国立研究開発法人 国立長寿医療研究センター 健康長寿支援ロボットセンター	〒474-8511 愛知県大府市森岡町7-430
ロボット活動支援機器実証センター (吉備高原医療リハビリテーションセンター)	〒716-1241 岡山県加賀郡吉備中央町吉川7511
スマートライフケア共創工房 (国立大学法人 九州工業大学)	〒808-0135 福岡県北九州市若松区ひびきの2-5 情報技術高度化センター

また、支援型リビングラボは以下7か所である。

名称	所在地
社会福祉法人 孝徳会 特別養護老人ホーム サポートセンター門司	〒800-0064 福岡県北九州市門司区松原1丁目3-8
社会福祉法人 こうほうえん	〒683-0853 鳥取県米子市両三柳1400
公益社団法人 全国老人保健施設協会	〒105-0011 東京都港区芝公園2-6-15 黒龍芝公園ビル6階
東北福祉大学	〒981-8522 宮城県仙台市青葉区国見1-8-1
社会福祉法人東北福祉会 せんだんの杜	〒989-3201 宮城県仙台市青葉区国見ヶ丘七丁目141番地9
徳島文理大学	〒769-2193 香川県さぬき市志度1314-1
北陸大学	〒920-1180 石川県金沢市太陽が丘1-1
株式会社 ベネッセスタイルケア	〒160-0023 東京都新宿区西新宿2-3-1 新宿モリスビル5F

(3)厚生労働省

本事業における厚生労働省担当者は以下の通りである。

氏名	所属
佐藤 修一	厚生労働省 老健局高齢者支援課 介護業務効率化・生産性向上推進室 介護ロボット政策調整官
早川 慎	厚生労働省 老健局高齢者支援課 介護業務効率化・生産性向上推進室 介護ロボット専門官
兼子 雄	厚生労働省 老健局高齢者支援課 介護業務効率化・生産性向上推進室 主査

(4)事務局担当者

本事業における事務局担当者は以下の通りである。

氏名	所属・役職
足立 圭司	株式会社エヌ・ティ・ティ・データ経営研究所 ライフ・バリュー・クリエイションユニット アソシエイトパートナー
片岡 眞一郎	同 マネージャー
北野 知裕	同 マネージャー
山内 勇輝	同 マネージャー
池永 藍	同 シニアコンサルタント
石川 理華	同 シニアコンサルタント
小松 夢希子	同 シニアコンサルタント
斉藤 壮希	同 シニアコンサルタント
平良 未来	同 シニアコンサルタント
太刀川 遼	同 シニアコンサルタント
永田 拓磨	同 シニアコンサルタント
保坂 真名	同 シニアコンサルタント
芦澤 佐紀	同 コンサルタント
石橋 真聖	同 コンサルタント
大塚 正博	同 コンサルタント
大塚 梨紗	同 コンサルタント
田中 拓樹	同 コンサルタント
山中 信	同 コンサルタント

第2章 相談窓口における取組について

第1節 相談窓口設置の目的

介護ロボット等の開発及び普及に関する課題解決を目的として、各地域において、介護現場と開発企業双方が抱える課題についての相談を受け付ける窓口を全国に11か所設置した。

第2節 相談窓口における取組

相談窓口では、相談業務、体験展示、試用貸出の3つの取組に加え、介護ロボット等の効果的な導入・活用に関する研修会、介護ロボット等を導入しようとする介護施設への伴走支援や地域のネットワーク構築を図る協議会について実施した。また、各地域の実情に応じ、各相談窓口において、介護ロボット等の普及促進を図るための取組を実施した。

(1)相談業務

介護現場(ニーズ)と開発企業(シーズ)の双方が抱える、介護ロボット等の開発・実証・普及広報に関する課題が十分に解決されるよう、各種相談に応じるとともに、必要に応じてリビングラボへの取次を行う等の相談対応を実施した。

(2)体験展示

介護現場や一般の方に介護ロボット等を周知することを目的に、体験展示場を整備した。

なお、介護現場の方が現場での活用場面をイメージできるよう、介護ロボット等を展示するだけでなく、実際に触れて使用できる環境を整備した。

(3)試用貸出

介護ロボット等を導入する前に、介護現場における使用感を確認してもらうことを目的として介護現場への試用貸出を実施した。

(4)介護ロボット等の効果的な導入・活用に関する研修会

「令和3年度介護ロボット等の効果測定事業一式」(厚生労働省委託事業)において作成され、「令和5年度介護ロボット等による生産性向上の取組に関する効果測定事業」(厚生労働省委託事業)において改訂された「介護ロボット等のパッケージ導入モデル」(以下、「パッケージモデル」という。)の普及等を目的とした研修会を実施し、パッケージモデルでまとめられた現場の課題と、それに応じた介護ロボット等の選定・導入時の留意事項・導入効果等について説明した。

(5)介護ロボット等を導入しようとする介護施設への伴走支援

各相談窓口の担当区域内の介護ロボット等を導入しようとする介護施設に対し、当該施設における課題を踏まえた適切な介護ロボット等の選定に関する助言、介護ロボット等の導入に伴う施設内のオペレーション変更に関する助言、職員に対する研修等の実施に関する助言、介護ロボット

等の導入効果の把握、取組の見直しに関する助言等の伴走支援を行った。

(6)地域のネットワーク構築を図る協議会

各相談窓口が担当する都道府県の担当部署や当該都道府県において介護ロボット等の導入に先進的に取り組んでいる介護施設、地域の関係業界団体を構成員とした協議会を各相談窓口1回以上開催し、各構成員の取組、地域の状況等に関する情報の共有、本事業への要望等に関する意見聴取等を行い、地域のネットワークの構築を図った。なお、担当する都道府県において、介護現場革新会議に相当する会議を実施している場合は、相談窓口主催の協議会は実施していない。

第3節 各相談窓口の概要

(1)相談窓口の設置

下表の通り全国11か所に相談窓口を設置した。

図表 2-1 各相談窓口の所在地と担当エリア

相談窓口名	所在地	担当エリア
(公財)いきいき岩手支援財団 岩手県高齢者総合支援センター	岩手県盛岡市本町通3丁目19-1 岩手県福祉総合相談センター3階	岩手県
(公財)介護労働安定センター 茨城支部 介護ロボット・ICT 相談窓口	茨城県水戸市南町3丁目4番10号 水戸FFセンタービル	茨城県
とちぎ福祉プラザモデルルーム 福祉用具・介護ロボット相談・活用センター	栃木県宇都宮市若草1-10-6 とちぎ福祉プラザ1階	栃木県
(福)埼玉県社会福祉協議会 介護すまいる館	埼玉県さいたま市浦和区針ヶ谷4-2-65	埼玉県、群馬県、静岡県
介護テクノロジー・業務改善支援センター福井・石川	福井県福井市中央1丁目3-1 加藤ビル6階	福井県、石川県
(公財)介護労働安定センター奈良支部 介護ロボット・ICT 相談窓口	奈良県奈良市大宮町4-266-1 三和大宮ビル2階	奈良県、京都府
(公財)介護労働安定センター鳥取支部 介護ロボット・ICT 相談窓口	鳥取県鳥取市扇町116田中ビル2号館2階	鳥取県、島根県
(公財)介護労働安定センター山口支部 介護ロボット・ICT 相談窓口	山口県山口市穂積町1-2 リバーサイドマンション山陽II 2F	山口県
(公財)介護労働安定センター香川支部 介護ロボット・ICT 相談窓口	香川県高松市寿町1丁目3番2号 日進高松ビル6階	香川県
(公財)介護労働安定センター佐賀支部 介護ロボット・ICT 相談窓口	佐賀県佐賀市駅南本町6-4 佐賀中央第一生命ビル8F	佐賀県
(公財)介護労働安定センター熊本支部 介護ロボット・ICT 相談窓口	熊本県熊本市中央区花畑町1-1 大樹生命熊本ビル2F	熊本県

(2)業務アドバイザーの選定

各相談窓口において、より専門的な相談に対応できる体制を整えるため、全ての相談窓口に介護ロボットに関する専門的知見を有する業務アドバイザーを配置した。

図表 2-2 各相談窓口の業務アドバイザー(敬称略)

相談窓口名	業務アドバイザー
(公財)いきいき岩手支援財団 岩手県高齢者総合支援センター	<ul style="list-style-type: none"> ➤ (株)TRAPE 林 一美 ➤ (公財)いきいき岩手支援財団 及川 友美
(公財)介護労働安定センター 茨城支部 介護ロボット・ICT 相談窓口	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 株式会社 TRAPE 鎌田 大啓 チェリーエンジェラー未来
とちぎ福祉プラザモデルルーム 福祉用具・介護ロボット相談・活用センター	<ul style="list-style-type: none"> ➤ とちぎノーマライゼーション研究会 理事長 伊藤 勝規 ➤ 安全なケア研究所 上田 喜敏
(福)埼玉県社会福祉協議会 介護すまいる館	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 株式会社シェアサポート 大内 英之
介護テクノロジー・業務改善支援センター 福井・石川	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 株式会社 TRAPE 鎌田 大啓 林 一美
(公財)介護労働安定センター 奈良支部 介護ロボット・ICT 相談窓口	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 株式会社 TRAPE 鎌田 大啓 廣瀬 瑠華
(公財)介護労働安定センター 鳥取支部 介護ロボット・ICT 相談窓口	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 株式会社 TRAPE 鎌田 大啓 南本 健吾
(公財)介護労働安定センター 山口支部 介護ロボット・ICT 相談窓口	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 株式会社 TRAPE 鎌田 大啓 園田 康訓
(公財)介護労働安定センター 香川支部 介護ロボット・ICT 相談窓口	<ul style="list-style-type: none"> ➤ & Consulting Firm 代表 沖本 崇 ➤ ビットコミュニケーションズ代表取締役社長 川西 健雄
(公財)介護労働安定センター	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 株式会社 TRAPE

相談窓口名	業務アドバイザー
佐賀支部 介護ロボット・ICT 相談窓口	鎌田 大啓 大山 治朗
(公財)介護労働安定センター 熊本支部 介護ロボット・ICT 相談窓口	<ul style="list-style-type: none"> ➤ & Consulting Firm 代表 沖本 崇 ➤ 合同会社サイモンファンクル 代表 原口 耕作

第4節 各取組について

第1項 相談業務

(1)介護現場(ニーズ側)への介護ロボットの導入方法や活用方法の紹介及び助言

図表 2-3 介護現場(ニーズ側)相談で使用した資料

#	資料名	紹介内容
介護ロボット導入方法全般の紹介		
1	介護ロボットの効果的な活用のための手引き	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 厚生労働省による事業で作成された手引き ➤ 介護ロボットの説明や、介護ロボット導入にあたっての基本的な考え方が記されている。 <p>https://www.mhlw.go.jp/content/12300000/H30_100_3_handbook.pdf</p>
2	生産性向上に資するガイドライン	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 厚生労働省による事業で作成されたガイドライン ➤ 業務改善の考え方、業務改善に向けた標準ステップ・ツール等が示されている。(施設サービス分/居宅サービス分/医療系サービス分の3パターン存在) <p>https://www.mhlw.go.jp/stf/kaigo-seisansei-information.html</p>
3	介護ロボット等のパッケージ導入モデル	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 厚生労働省による事業で作成された介護ロボット取組事例集 ➤ 各施設・事業所が抱える課題を抽出し、「改善策の取組」の手段(ツール)として介護ロボットの導入・活用を通じて得られた効果等を取組事例としてまとめている。 <p>https://www.mhlw.go.jp/content/12300000/001254648.pdf</p>
4	(経営者層向け)職員がいきいきと働く職場に向けた取組み-生産性向上に取り組む経営者の声-	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 厚生労働省による事業で作成され、生産性向上に取り組む経営者をまとめた資料。経営者の目線で見ると生産性向上の取組み事例や、テクノロジーを導入したことによる成果が紹介されている。 <p>https://www.mhlw.go.jp/content/12300000/R4_keieisou_leaflet.pdf</p>
5	介護分野における	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 厚生労働省により作成された、生産性向上に関する取組に活用

	生産性向上ポータルサイト	可能な各種ツールや、業務の改善活動の支援・促し役、取組事例等を紹介するポータルサイト。 https://www.mhlw.go.jp/kaigoseisansei/index.html
介護ロボット具体例の紹介		
6	ロボット介護機器開発・導入促進事業製品化機器一覧	<ul style="list-style-type: none"> ➤ AMED によるロボット介護機器の開発・導入促進事業 ➤ 開発企業等に対して補助を行うとともに、介護現場への導入に必要な基準作成等の環境整備を行うことが目的 ➤ 製品化機器一覧には、6 分野 20 事例が紹介されている。 https://robotcare.jp/data/news/list2019_10ver1.pdf
7	介護ロボット導入活用事例集 2017～2022	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 厚生労働省による事業で作成された事例集 ➤ 介護ロボットの概要、導入事例、機器導入による介護業務の変化等、6 年分で約 70 以上の事例が掲載されている。 https://www.techno-aids.or.jp/robot/file04/jirei2022.pdf https://www.mhlw.go.jp/content/12300000/000928395.pdf http://www.techno-aids.or.jp/robot/file02/jirei2020.pdf http://www.techno-aids.or.jp/robot/file01/jirei2019.pdf http://www.techno-aids.or.jp/robot/file30/jirei2018.pdf http://www.techno-aids.or.jp/robot/file29/jirei2017.pdf
8	介護現場で活用されるテクノロジー便覧	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 厚生労働省による事業で作成された介護ロボットをはじめとする様々な製品に関する便覧 ➤ 介護現場がテクノロジーの導入活用を検討する際に参考となる、国内で活用される介護テクノロジー102 製品を掲載している。 https://www.nttdata-strategy.com/services/lifevalue/docs/r05_105_02jigyohokokusho.pdf
9	体験展示施設一覧	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 担当エリア内の介護ロボットの体験展示が可能な施設の整理収集を行い一覧化 ※各相談窓口にて作成
介護ロボット導入に関する補助金等の紹介		
10	購入補助金/基金等の一覧	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 介護ロボットの導入において利用可能な補助金、基金等の一覧 https://www.techno-aids.or.jp/robot/file06/result-donyu.pdf
11	福祉貸与事業融資のご案内	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 福祉貸与事業概要、融資対象、融資の流れ、等 https://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/kashitsuke/
モデル事業/モデル施設の紹介		
12	介護技術開発支援モデル事業成果報告書 H27-	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 厚生労働省によるモデル事業として介護ロボットを導入した施設の、介護ロボット導入における取組が紹介されている。 ➤ 2 カ年分で 10 施設

	H28	http://www.techno-aids.or.jp/robot/file28/04modelwork27hosei.pdf http://www.techno-aids.or.jp/robot/file28/05modelwork28.pdf
13	見学可能モデル施設情報一覧	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 各地域のモデル施設の整理収集を行い、一覧化 ▶ 一覧を基に、見学できるよう取り次ぐ。 ※各相談窓口にて作成
内閣総理大臣表彰・厚生労働大臣表彰の事例紹介		
14	令和5年度介護職員の働きやすい職場環境づくり内閣総理大臣表彰・厚生労働大臣表彰 取組事例集	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 令和5年度「介護職員の働きやすい職場環境づくり内閣総理大臣表彰・厚生労働大臣表彰(優良賞)」を受賞した事業所の取組みが紹介されている。 ▶ 働きやすい環境づくりに取り組む際に『取り入れやすい・参考にできるヒント』が数多く紹介されている。 https://www.mhlw.go.jp/content/12300000/R5_hyousyou_jireisyu.pdf
本事業の紹介		
15	事業紹介パンフレット	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 本事業概要、相談窓口の取組、リビングラボの取組 ▶ 相談にあたってのQ&A、成果紹介等 ※事務局にて取りまとめの上、展開
16	リビングラボの活動	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 各リビングラボのホームページ・パンフレット等 ※事務局にて取りまとめの上、展開

(2)開発企業(シーズ側)への開発・実証・普及方法の紹介

図表 2-4 開発企業(シーズ側)相談で使用した資料

#	資料名	紹介内容
介護ロボットの開発方法に関する紹介		
1	ニーズ・シーズマッチング支援事業ホームページ	<ul style="list-style-type: none"> ▶ ニーズ・シーズマッチング支援事業では、全国の介護現場が抱えている課題(ニーズ)と、開発企業が保有する製品や要素技術等とのマッチングの支援を行っている。 ▶ ホームページには、介護現場の様々な課題が公開されている。また、介護ロボット業界への参入に向けて知っておきたい介護業界の特徴や動向等を専門家が解説する動画も紹介されている。 https://www.kaigo-ns-plat.com/

2	介護テクノロジー開発ガイドブック	<ul style="list-style-type: none"> 厚生労働省の補助事業で作成された、開発企業が製品開発するために必要なフレームワーク及びこれを活用した開発支援の方策がまとめられたもの。
		令和5年度老人保健健康増進等事業(老人保健事業推進費等補助金)報告書を公開しました - 社会福祉法人 善光会 (zenkoukai.jp)
3	介護ロボット開発への補助金・ファンド一覧	<ul style="list-style-type: none"> 助成制度名、助成対象、助成額、問い合わせ先等
		https://www.techno-aids.or.jp/robot/file06/result-kaihatsu.pdf
介護ロボットの実証方法に関する紹介		
4	リビングラボ対応可能事項	<ul style="list-style-type: none"> リビングラボ名称、対応可能内容等
		<ul style="list-style-type: none"> ※事務局にて取りまとめの上、展開
5	試作機器へのアドバイス支援事業	<ul style="list-style-type: none"> テクノエイドが実施する試作機器のアドバイス事業へ取り次ぐ。
		https://www.techno-aids.or.jp/robot/jigyo.shtml#tab22_detail
介護ロボットの普及方法に関する紹介		
6	介護ロボット地域フォーラムパンフレット/ホームページ等	<ul style="list-style-type: none"> 当フォーラムへの出展方法 当フォーラムの実施スケジュール 等
		https://www.techno-aids.or.jp/robot/jigyo.shtml#tab41_detail
7	SNS活用	<ul style="list-style-type: none"> 相談窓口で企画した SNS 上での介護ロボット等の PR
本事業の紹介		
8	事業紹介パンフレット	<ul style="list-style-type: none"> 本事業概要、相談窓口の取組、リビングラボの取組 相談にあたっての Q&A、成果紹介 等
9	リビングラボの活動	<ul style="list-style-type: none"> 各リビングラボのホームページ・パンフレット等

(3)製品評価・効果検証に係る相談のリビングラボへの取次
開発企業から、リビングラボでの製品評価・効果検証の実施に関する依頼や助言の要望を受けた場合、内容に応じて必要な設備や知見を有するリビングラボへ取り次いだ。

(4)実績

1)相談窓口の相談受付件数

全相談窓口における相談受付件数は以下の通りであった。

図表 2-5 相談対応数

介護現場からの相談対応数	376 件
開発企業からの相談対応数	180 件

2)相談概要及び相談後アンケートの結果

相談業務においては、相談者が希望する相談内容をヒアリングの上、必要な情報の提供や助言

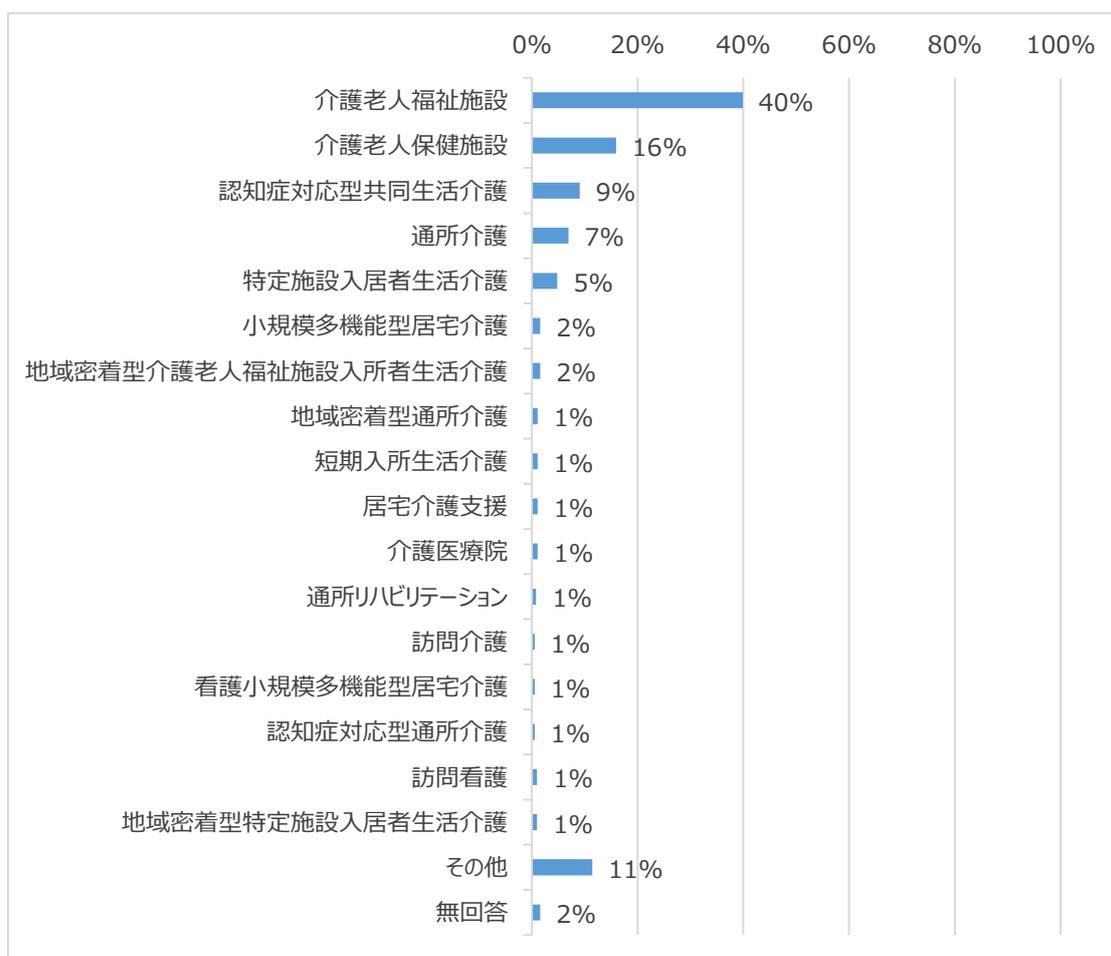
を行った。また、相談後には相談者に対して相談対応等に関するアンケートを実施した。以下、相談者の属性、相談内容及び相談後アンケートの結果を示す。

a) 介護現場からの相談概要及び相談後アンケートの結果

➤ 相談者が所属する介護サービス事業所の種別

図表 2-6 相談者が所属する介護サービス事業所の種別

n=376



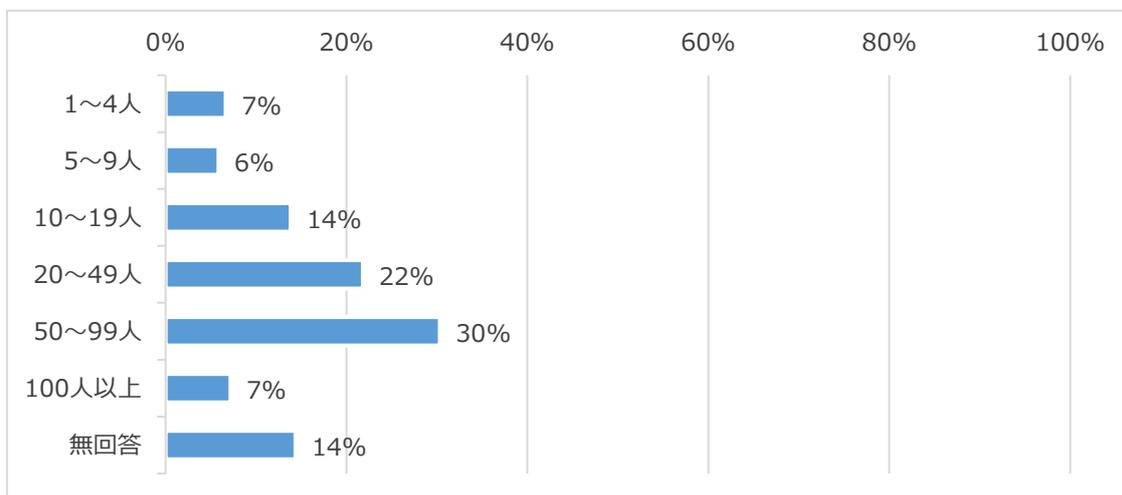
「その他」の内容(抜粋)

- ・ 介護付き有料老人ホーム
- ・ サービス付き高齢者住宅
- ・ 障害者施設
- ・ 病院

➤ 相談者が所属する介護サービス事業所の従事者数(常勤換算人数)

図表 2-7 従事者数(常勤換算人数)

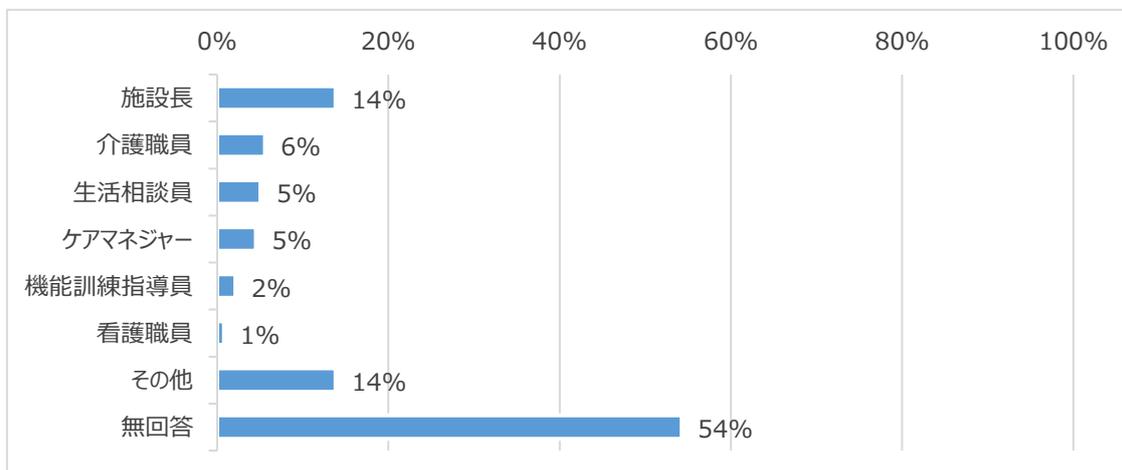
n=376



➤ 相談者の職種

図表 2-8 相談者の職種

n=376



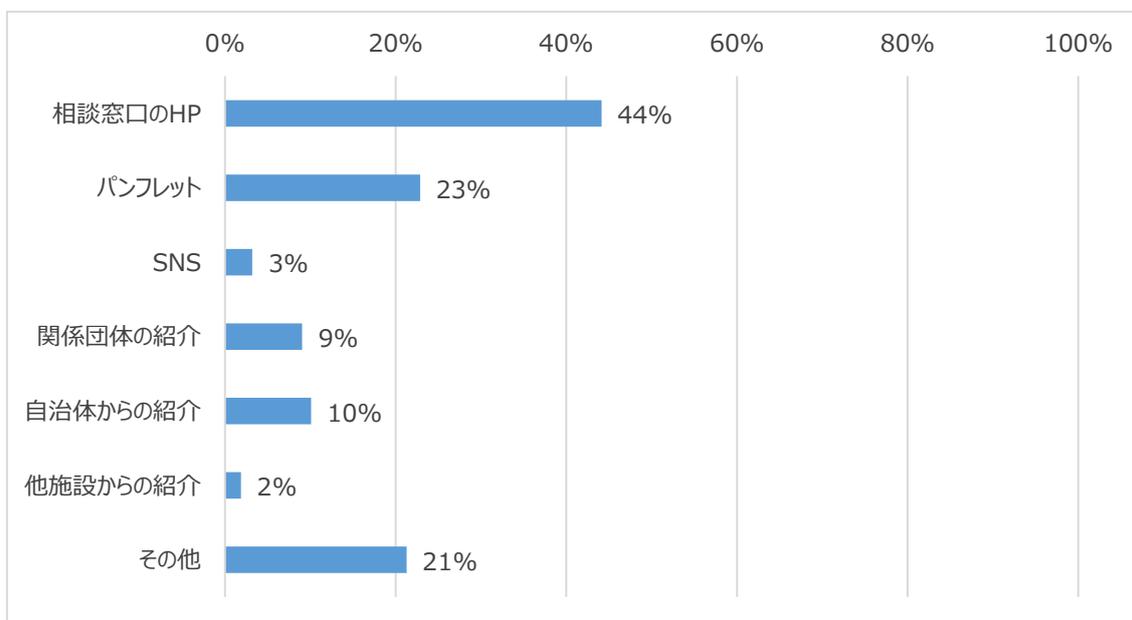
「その他」の内容(抜粋)

- ・ 代表取締役
- ・ 理学療法士
- ・ 事務員

➤ 相談者の窓口利用契機

図表 2-9 利用契機

n=376(複数回答)



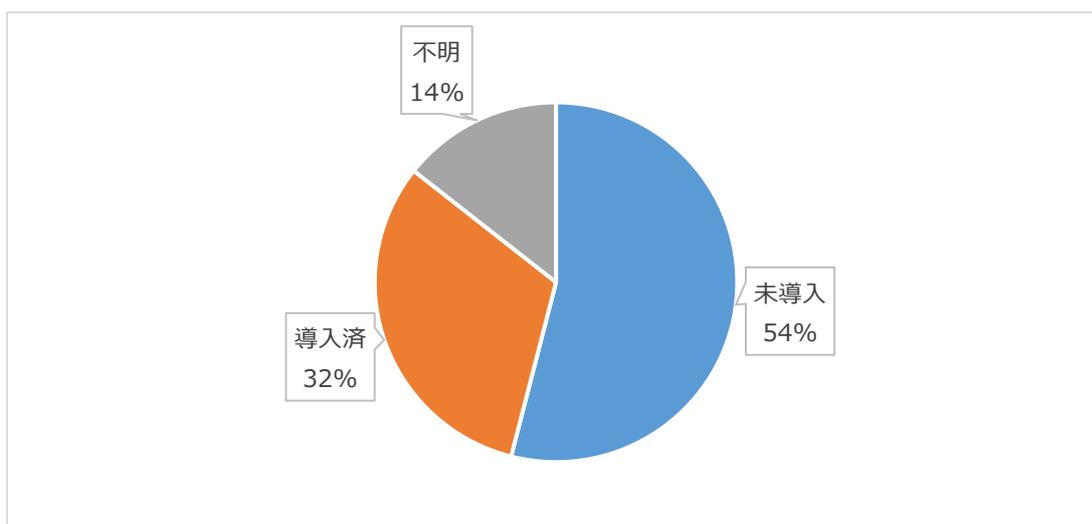
「その他」の内容(抜粋)

- ・ 研修会
- ・ 介護ロボット開発企業からの紹介

➤ 相談者の介護ロボット・ICTの導入状況

図表 2-10 介護ロボット・ICTの導入状況

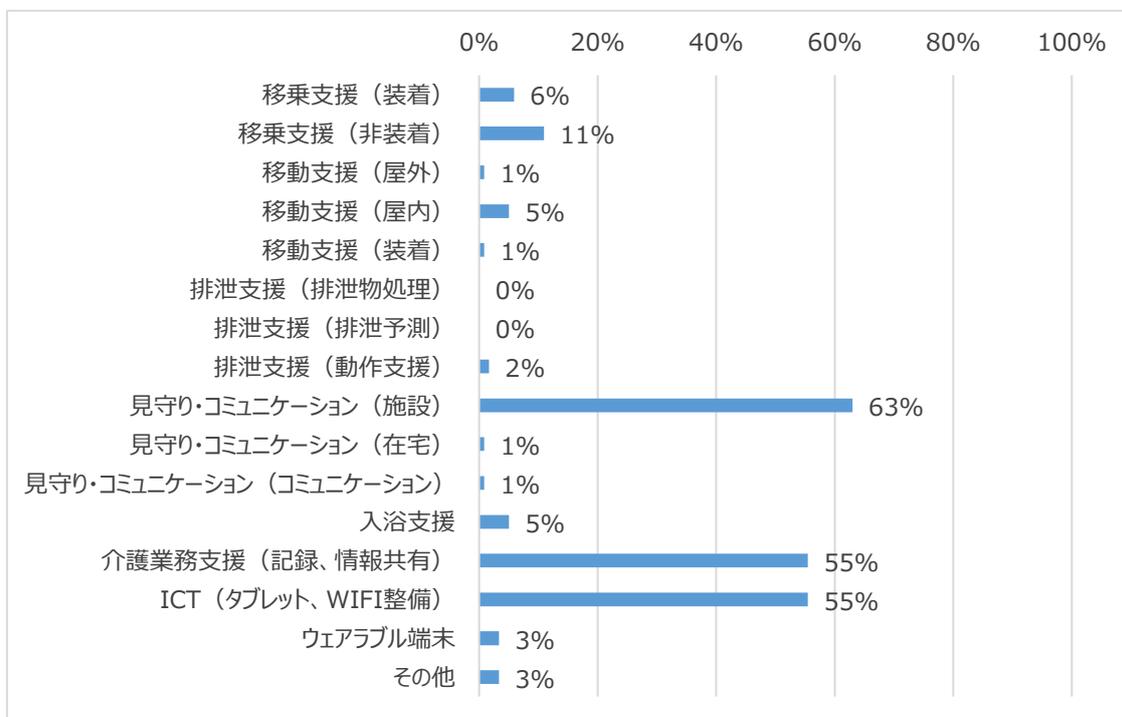
n=376



➤ 相談者が導入している介護ロボット・ICT の分野

図表 2-11 導入している介護ロボット・ICT の分野

n=119(複数回答)



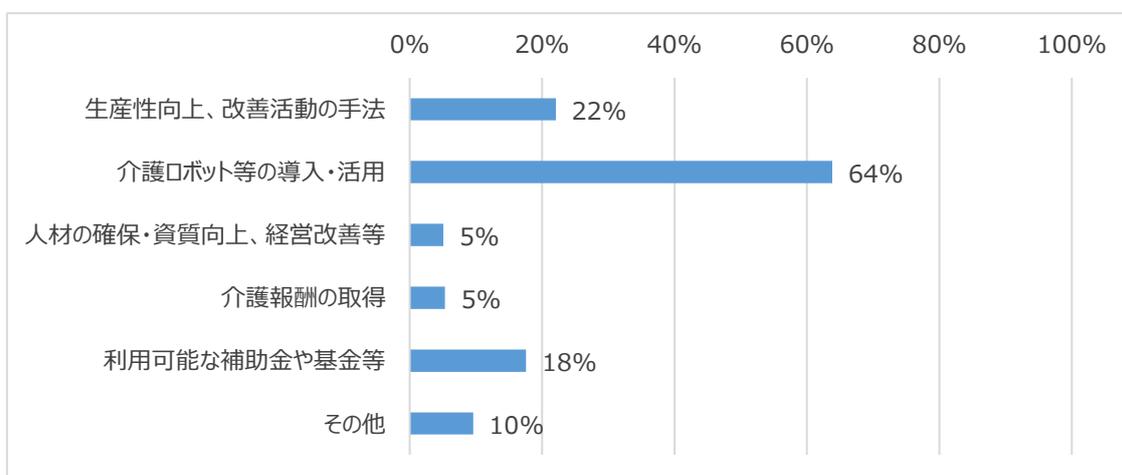
「その他」の内容(抜粋)

- ・ ナースコール

➤ 相談内容

図表 2-12 相談内容

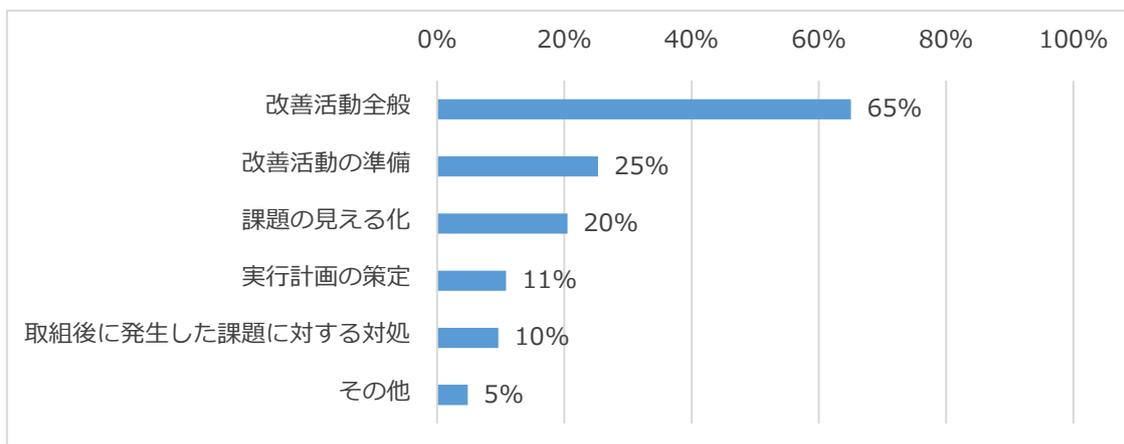
n=376(複数回答)



- 相談内容:「生産性向上、改善活動の手法」に関する相談内容

図表 2-13 「生産性向上、改善活動の手法」に関する相談内容

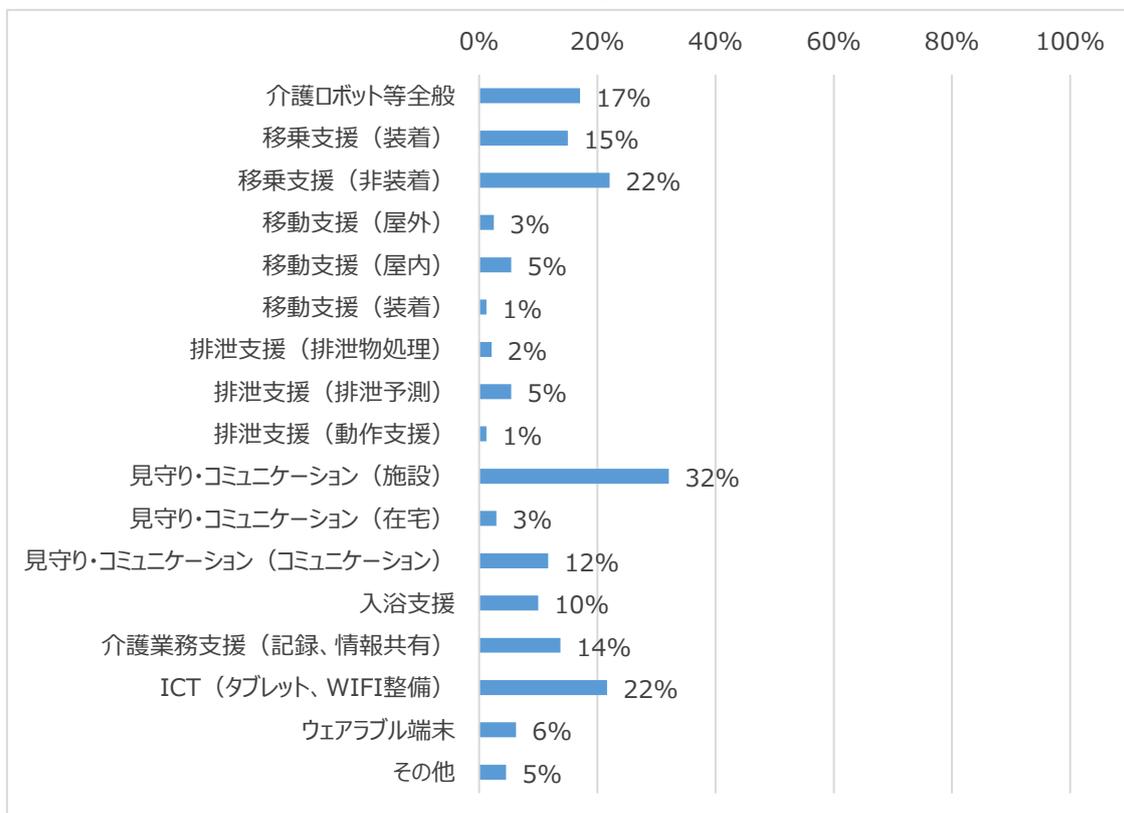
n=83(複数回答)※「生産性向上、改善活動の手法」に関する相談を行った方のみが対象



- 相談内容:相談したい介護ロボット・ICT の分野

図表 2-14 相談したい介護ロボット・ICT の分野

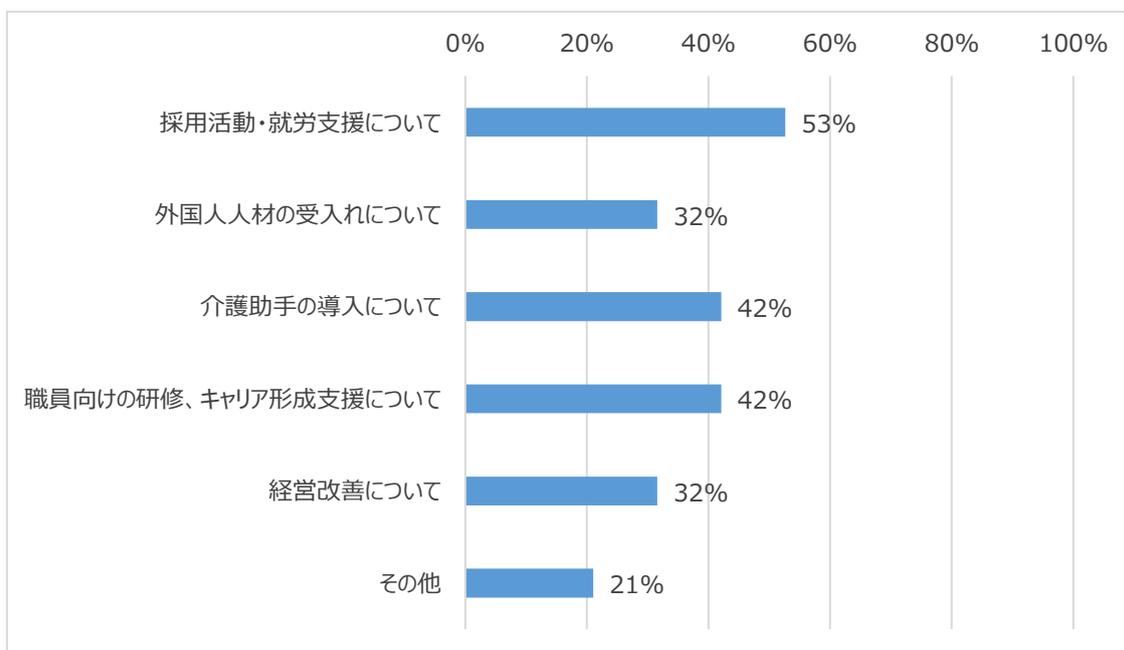
n=240(複数回答)※「介護ロボット等の導入・活用」に関する相談を行った方のみが対象



- 相談内容:「人材の確保・資質向上、経営改善等」に関する相談内容

図表 2-15 「人材の確保・資質向上、経営改善等」に関する相談内容

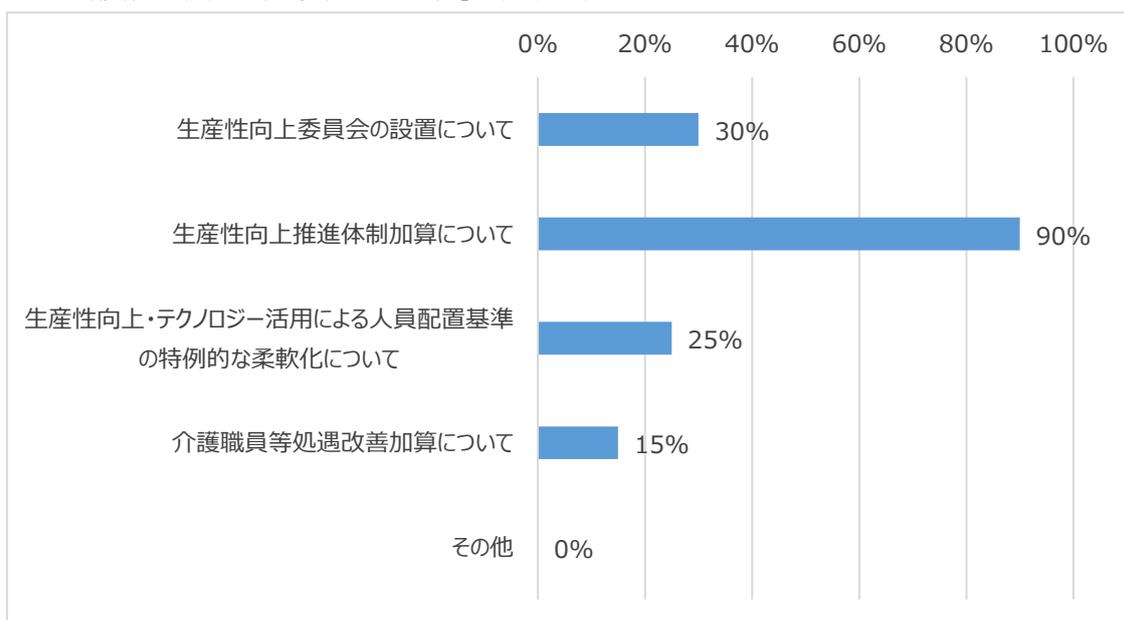
n=19(複数回答)※「人材の確保・資質向上、経営改善等」に関する相談を行った方のみが対象



- 相談内容:「介護報酬の取得」に関する相談内容

図表 2-16 「介護報酬の取得」に関する相談内容

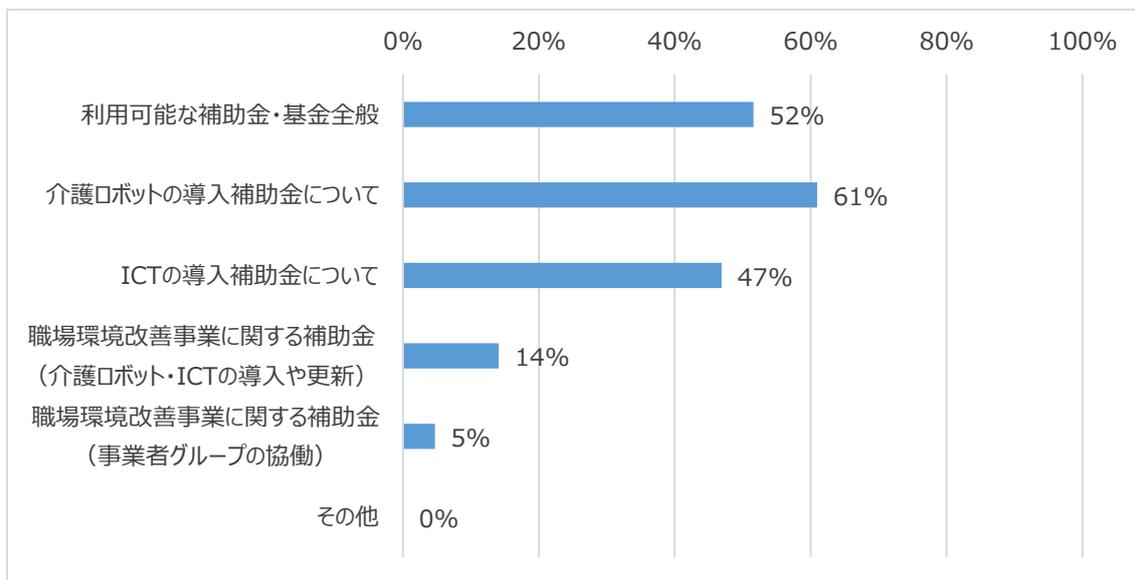
n=20(複数回答)※「介護報酬の取得」に関する相談を行った方のみが対象



- 相談内容:「利用可能な補助金や基金等」に関する相談内容

図表 2-17 「利用可能な補助金や基金等」に関する相談内容

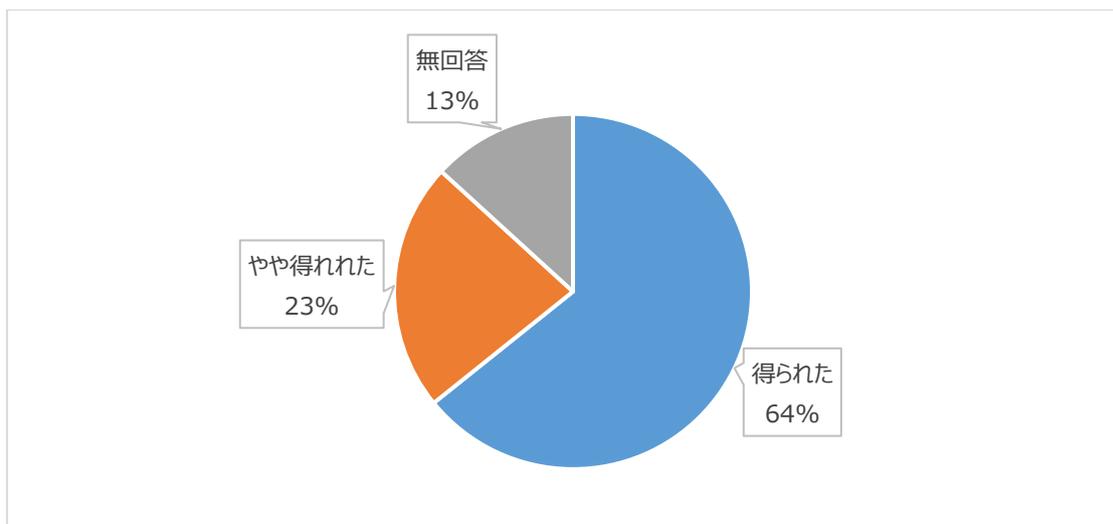
n=66(複数回答)※「利用可能な補助金や基金等」に関する相談を行った方のみが対象



- 相談後アンケートの結果:課題の解決に資する支援が得られたか

図表 2-18 課題解決に資する支援得られたか

n=243



上記回答の理由(抜粋)

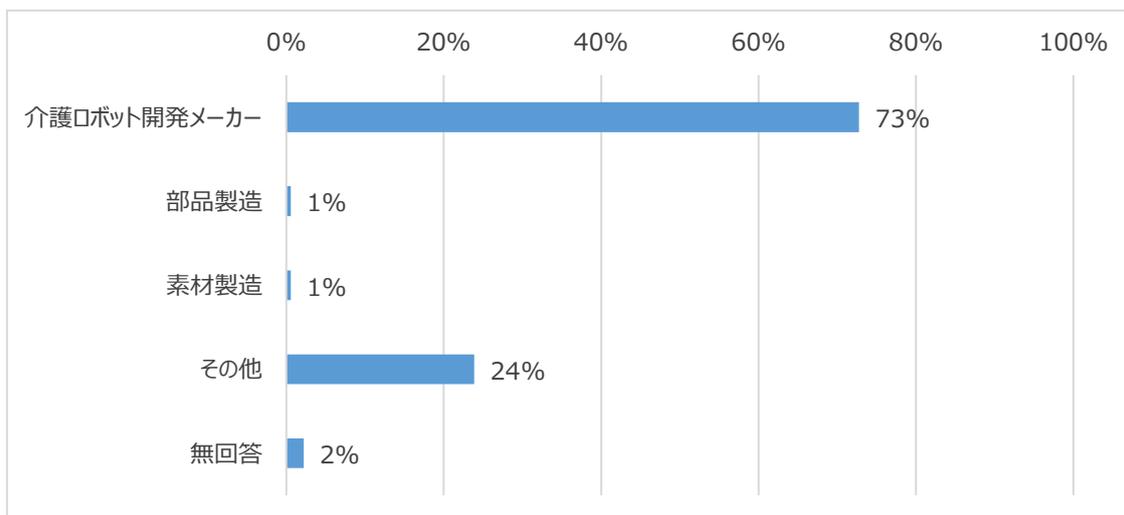
- ・ 現状に対しての課題が見つかり、何から着手すれば良いかが理解できたから
- ・ 県の補助金情報の進捗について情報を得られたから

b)開発現場からの相談概要及び相談後アンケートの結果

➤ 相談者の種別

図表 2-19 相談者の種別

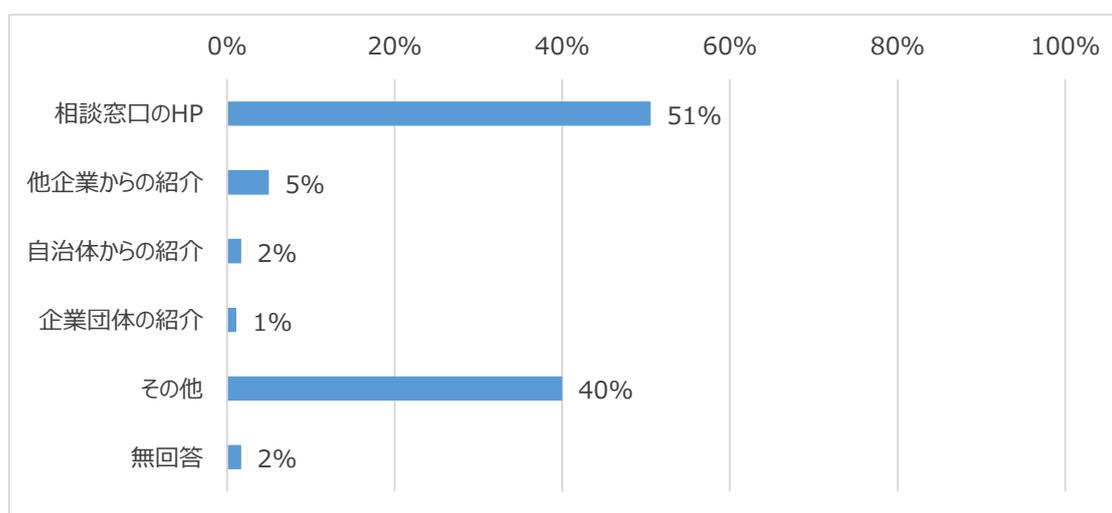
n=180



➤ 相談者の窓口利用契機

図表 2-20 利用契機

n=180(複数回答)



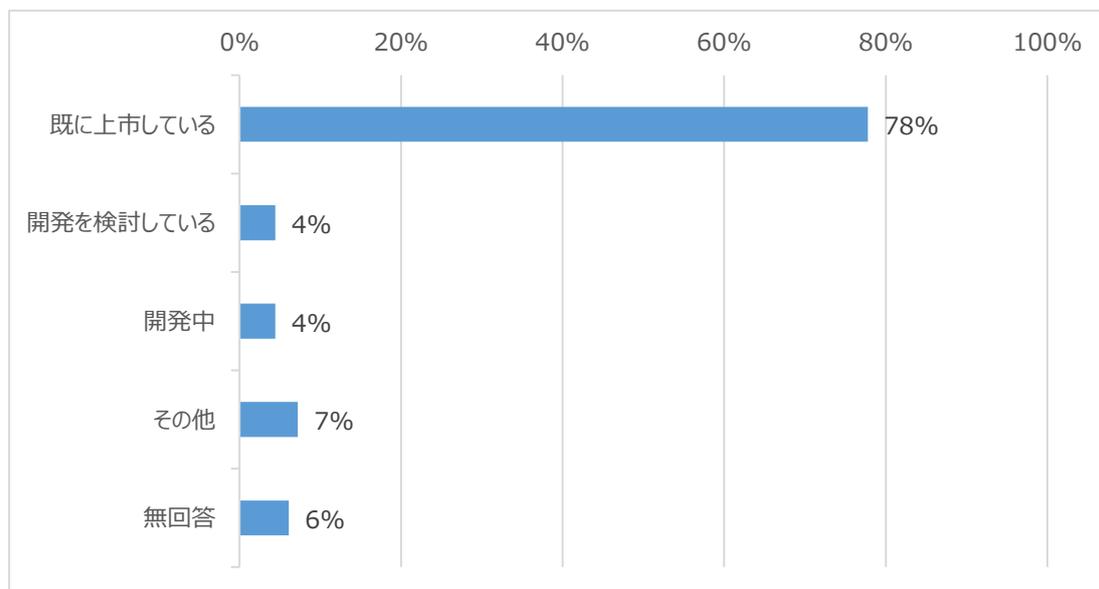
「その他」の内容(抜粋)

- ・ 以前から相談している
- ・ 他事業で参加した会議での案内
- ・ 事務局からの案内

➤ 相談者の機器の開発フェーズ

図表 2-21 開発フェーズ

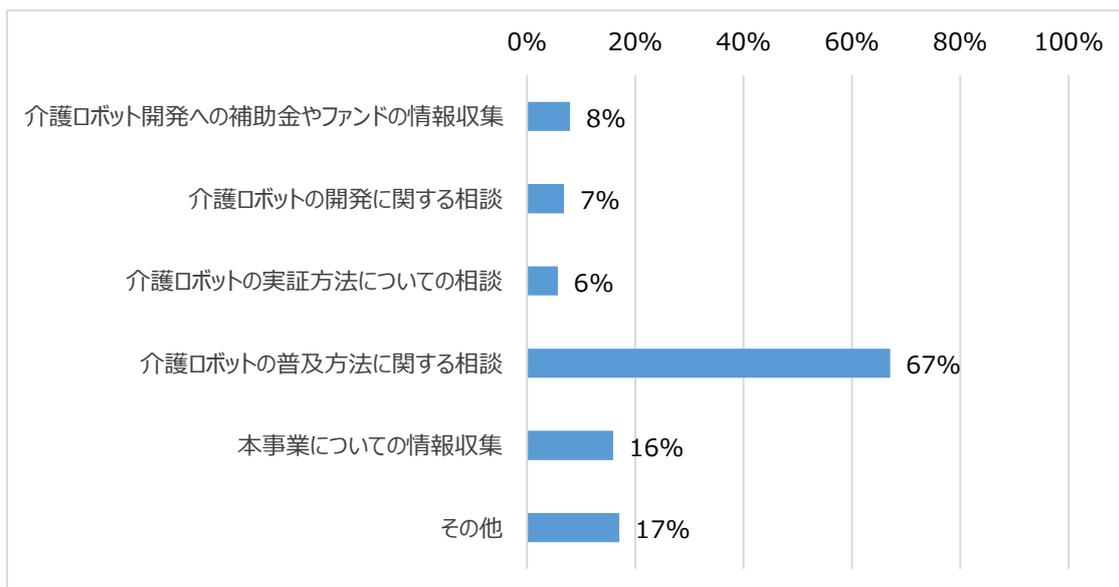
n=180



➤ 相談内容

図表 2-22 相談内容

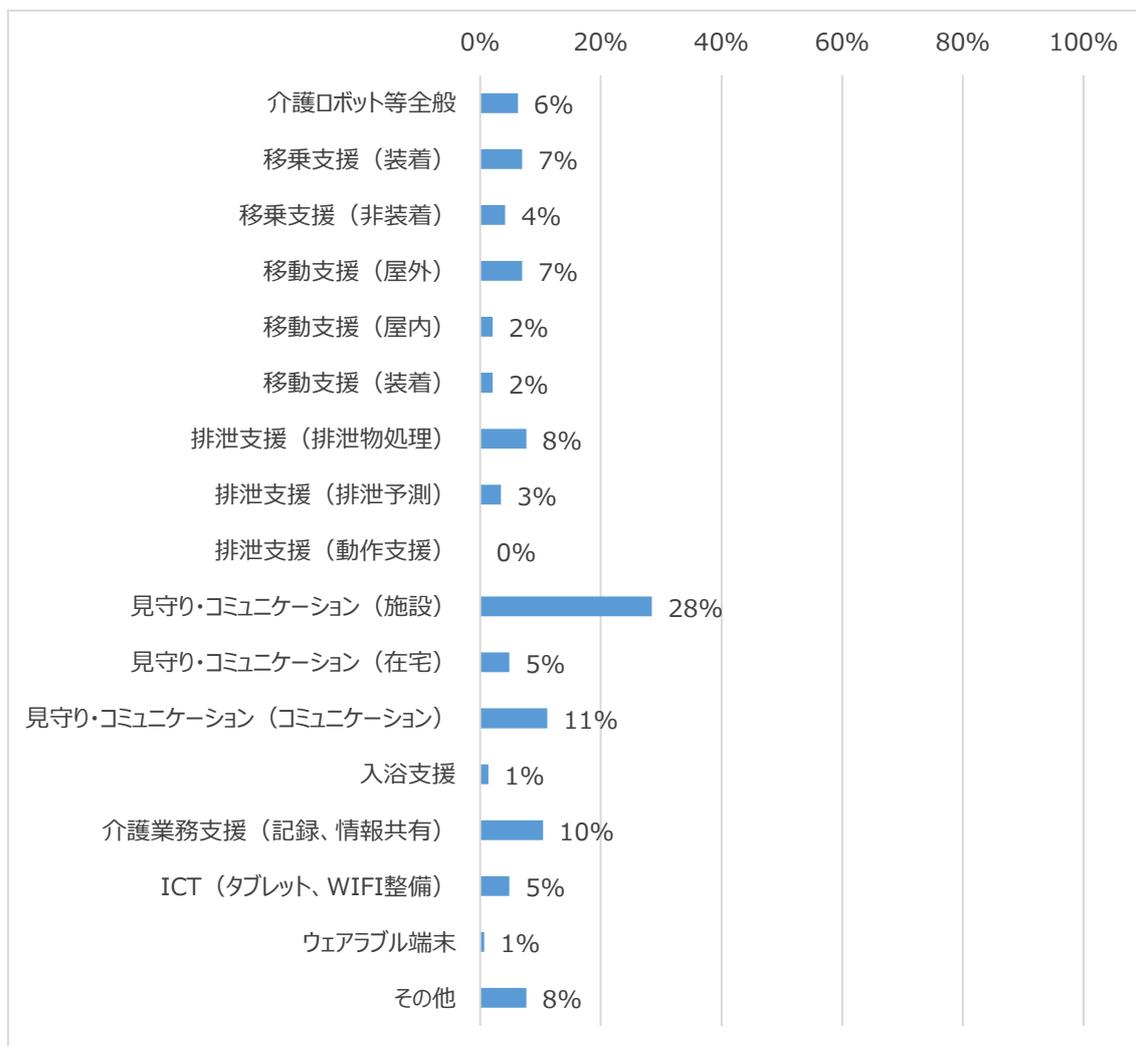
n=180(複数回答)



➤ 相談内容:相談したい介護ロボット・ICT の分野

図表 2-23 相談したい介護ロボット・ICT の分野

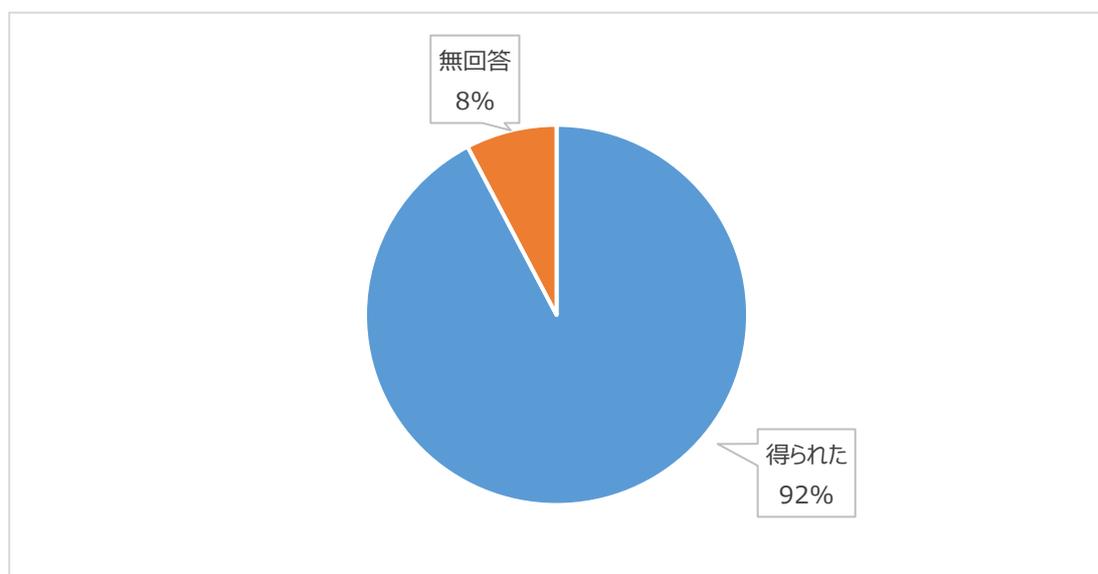
n=144(複数回答)※「本事業についての情報収集」または「その他」以外に関する相談を行った方のみが対象



- 相談後アンケートの結果:課題の解決に資する支援が得られたか

図表 2-24 課題の解決に資する支援が得られたか

n=13



上記回答の理由(抜粋)

- ・ コンセプトの説明に対しての助言と今後の方針をいただいたため
- ・ 機器に対してのフィードバックを複数いただいたため

3)各相談窓口における事例の紹介

①介護現場からの相談事例

- 岩手相談窓口

相談内容種別	ICT の導入
テクノロジー分野	介護ソフト
相談内容詳細	記録業務が多く、残業等が発生している。また、記録内容もバラバラで、見ても理解できなく直接聞くことがある。食事や排泄等の記録を手書きで記入し、後からの詰所にある PC に内容を入力するため二重記載や残業が発生している。
対応内容・結果	<p>【相談内容】</p> <p>どのようにすれば記録の二重記載が減るか、残業が減り職員の負担をなくせるようになるのか教えてほしい。</p> <p>【相談結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 二重記載が発生し、記録内容がバラバラで残業が発生している中、介護

	<p>ソフトのメーカーを変更すると現場がさらに混乱することを説明。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 介護ソフトメーカーを変更したい理由は、担当者が担当する委員会でヒヤリ・ハットの集計が可能だからである。しかし、これは現場の課題として上がってきたものではないため、まずは現場の課題について対話を通して深堀することが重要で、その後でも変更は遅くないことを説明。 ・ 担当者の了解を得た上で現在の介護ソフトメーカーに連絡し、使用期間が残っていることを確認。同メーカーのタブレットはオフラインでも使用できるため、現時点で Wi-Fi 環境が整っていない施設でも使用可能なことを説明。使用期間中にタブレットを導入して二重記載を減らす提案をした。 ・ 施設長・事務長・担当者・現場職員で話し合う機会を持ち、経営陣からの後押しがあることでタブレット導入に踏み込めた。 ・ メーカーにご協力いただき、施設が購入したタブレットに試用のものを入れ、全職員がまずは入力に慣れてもらう間に業務アドバイザーのアドバイスにより、マニュアルの作成とマスターライン作成を同時進行に行い、その後本格導入となった。
相談者の声	<p>タブレットを導入することで二重記載が減り、大幅に記録にかかる時間が減った。記録の基準・ルールが見える化し整理されたため、業務中の手書きは残ったものの、同じ情報の転記量が減り、何を記入し、どう表現するのか共通認識を持てたため迷いが減った。</p>
工夫点・気づき	<ul style="list-style-type: none"> ・ メーカーと施設の課題を共有することでメーカーから具体的な提案を受けられることができ、スムーズにタブレット導入、試用や本格導入後のフォローまでつなげることができた。 ・ Wi-Fi環境でしか使用できないもの、同期のみ Wi-Fi 環境があれば良いもの、タブレットのみ、スマホでも可能なもの等、メーカーにより様々なので、自分たちの知識も深まったので今後の対応に活かしていきたい。

➤ 岩手相談窓口

相談内容種別	インカム・ICT の導入・活用
テクノロジー分野	インカム導入と ICT 機器の統合
相談内容詳細	<p>来年度、施設の改修に向けて準備を進めており、先日すでに導入済の介護記録ソフトの企業に相談しているところである。おおよその見積もりや計画書ももらい進めるところだが、生産性向上推進体制加算要件の1つであるインカムも導入したい考えがあるものの、導入した企業が別だったため、これを機に統合</p>

	<p>させたい。また、導入にあたって職員の得意、不得意もあることから、具体的にどのように進めていけばいいか教えてほしい。</p>
対応内容・結果	<p>【相談内容】 複数の ICT 機器(センサー、記録、ナースコール等)の統合について</p> <p>【相談結果】 施設に訪問し、介護ロボットプラットフォーム事業の説明を行い、改善準備、課題の見える化等順を追って説明した。また、介護サービス事業における生産性向上に資するガイドラインや介護ロボットのパッケージ導入モデルの資料を提供し、詳しく説明を行った。その際は、各部署からなる委員会を組織すること等、具体的方法を説明した。すでに企業から導入計画資料が届いていることから、施設に了解をとり企業担当者に連絡し、今後の具体的導入計画についてヒアリングを行った。</p> <p>これまでの経緯から、導入への不安が多くあると思われたことから、今後の導入に向け、相談窓口を活用いただき、顔の見える関係づくり、一緒に考えていくことで不安の解消に努めた。</p>
相談者の声	<p>介護ロボット・ICT 機器に長けている職員が多くなく、詳しい資料を提供いただきとても助かった。また、導入に向けた不安が多々あったが、1 回きりでない相談対応はとても安心感がある。</p>
工夫点・気づき	<p>今回の相談は、具体的な導入支援というより、導入に向けての不安解消のため、相談後も定期的に連絡をとり、進捗状況を確認しながら対応している。本来であれば、スケジュールを確認しながら進めるのがベストだと感じた。</p> <p>これまで培ってきた企業との連携・協力が図れてきたことが相談窓口の強みと感じた。</p>

➤ 埼玉相談窓口

相談内容種別	生産性向上の取組み
テクノロジー分野	なし
相談内容詳細	<p>生産性向上に向けて取り組む必要性は認識しており、運営幹部クラスが中心となって生産性向上委員会を立ち上げたが具体的な進展が見られないので進め方について相談したい。</p>
対応内容・結果	<p>【相談内容】 生産性向上の必要性を感じ、現場職員も交えたメンバーで生産性向上委員</p>

	<p>会を立ち上げたが、正直どこから手を付けたら良いのか分からない。</p> <p>【相談結果】</p> <p>“生産性向上とは何か”ということを職員全員が理解することが継続的に取り組んでいくためには重要であることを説明し、原則全職員参加の生産性向上を理解することを目的としたオンラインセミナーを業務アドバイザーが実施した。</p>
相談者の声	<p>セミナー後に施設長から参加職員に対して取り組んでいく必要性の説明があったとのこと。過去にそういった場がなかったので前に進めるきっかけになったとの話をいただいた。</p>
工夫点・気づき	<p>近隣の他事業所にも案内を行い、生産性向上の基礎を理解する場を設けることが可能であるように感じた。</p>

②開発企業からの相談事例

➤ 埼玉相談窓口

相談内容種別	介護ロボット開発相談
テクノロジー分野	排泄支援
相談内容詳細	<p>自社で排泄支援の介護ロボットを開発・販売しているが、同じ排泄支援部門において新たな商品(介護ロボット・ICT アプリ)の開発に着手しようとしている。コンセプトが現場ニーズにマッチしているか、受け入れられるか等を教えていただきたい。</p>
対応結果	<p>【1回目の相談結果】</p> <p>業務アドバイザー以外に埼玉県内の社会福祉法人理事長1名と特別養護老人ホーム施設長3名にも協力いただき、企業側との打合せの場を設け、企業から商品開発目的、コンセプト説明を受け、その後忌憚のない意見交換会を行った。</p> <p>その後、「何を解決したいのか明確でない」、「実際に現場で使っているイメージがわからない」といった指摘事項を改良した商品コンセプトや機能について、再度面談の要望があったため、2度目の意見交換会を実施した。</p> <p>【2回目の相談結果】</p> <p>1回目での指摘事項を受け、コンセプト、本体の大きさ、使用方法を明確にした上での相談実施となった。参加者からは高い評価を得たが、何でも AI で分析できるのでは職員が“考える”ということをしなくなるので、あくまでも AI 分析情報は“判断材料”としてという意味合いにしておく必要があるとの指摘があった。</p>

相談者の声	日々、現場で活躍している理事長及び施設長の意見は大変勉強になったとの話をいただいた。
工夫点・気づき	特養以外のサービス種別からの意見もあると検討及び開発する幅が広がった可能性がある。

第2項 体験展示

介護現場や一般の方に介護ロボット等を周知することを目的に、体験展示場を整備した。

なお、介護現場の方が現場での活用場面をイメージできるよう、介護ロボット等を展示するだけでなく、実際に触れて使用できる環境を整備した。各相談窓口で体験展示した介護ロボットは下表の通りである。

(1)各相談窓口の展示ロボット一覧

相談窓口名	展示介護ロボット	
	分野	ロボット名
(公財)いきいき岩手支援財団 岩手県高齢者総合支援センター	移乗支援	ROBOHELPER SASUKE
	移乗支援	介護作業専用アシストスーツ J-PAS fleairy
	移乗支援	移乗用介護ロボット「移乗です」
	移乗支援	移乗サポートロボット Hug L1
	移乗支援	移乗・移動ロボット Keipu-Sb
	移動支援	ロボットアシストウォーカーRT.2
	移動支援	ロボットアシストウォーカーRT.3
	排泄支援	ラップポン・ブリート(S)
	見守り・コミュニケーション	Chapit(チャピット)
	見守り・コミュニケーション	スマイビS
	見守り・コミュニケーション	シルエット見守りセンサ
	見守り・コミュニケーション	ペイシエントウォッシャープラス
	見守り・コミュニケーション	e伝之介くん
	見守り・コミュニケーション	HitomeQ
見守り・コミュニケーション	安心ひつじα	
その他	TANO	
(公財)介護労働安定センター茨城支部 介護ロボ	移乗支援	マッスルスーツ Every
	移乗支援	ROBOHELPER SASUKE
	移乗支援	移乗支援介護ロボット「移乗です」
	移動支援	ロボットアシストウォーカー RT.3

相談窓口名	展示介護ロボット	
	分野	ロボット名
ット・ICT 相談 窓口	排泄支援	DFree
	排泄支援	Helppad 2
	排泄支援	おむつナビ
	見守り・コミュニケーション	眠り SCAN
	見守り・コミュニケーション	ペイシエントウォッチャー
	見守り・コミュニケーション	睡眠！いきいきセンサー
	見守り・コミュニケーション	安心ひつじ@
	見守り・コミュニケーション	ロボシルバーパーク
	入浴支援	バスリフト
	入浴支援	バスキャリー
	介護業務支援	クリアトークカム
	介護業務支援	ハカルト
	機能訓練支援	Arbre(アルブル)
	とちぎ福祉ブ ラザモデルル ーム 福祉用 具・介護ロボ ット相談・活 用センター	移乗支援
移乗支援		介護・看護用アシストスーツ J-PAS fleairy(ジェイパスフレアリー)
移乗支援		ROBOHELPER SASUKE
移乗支援		移乗支援介護ロボット「移乗です」
移乗支援		移乗・移動ロボット Keipu-Sb
移乗支援		介護リフトつるべ Y6 セット Li-PINK Safety Robo
移動支援		ロボットアシストウォーカー RT.2 ロボットアシストウォーカー RT.3
排泄支援		ラップポン・プリート(S) 普通便座(ベージュ)
排泄支援		排尿予測デバイス 「DFree」professional ※モックアップ展示
入浴支援		ミクニマイティエースII 浴室セット ROBO
見守り・コミュニケーション		見守りセンサー「ANSIEL」

相談窓口名	展示介護ロボット	
	分野	ロボット名
	見守り・コミュニケーション	見守りシステム Neos+Care(ネオスケア)
	見守り・コミュニケーション	眠りSCAN
	見守り・コミュニケーション	aams. 介護
	見守り・コミュニケーション	安心ひつじ α
	見守り・コミュニケーション	iTSUMO 2
	見守り・コミュニケーション	うららかGPSウォーク
	見守り・コミュニケーション	【睡眠！ケア】いきいきセンサー
	見守り・コミュニケーション	認知症コミュニケーションロボット「だいちゃん」
	見守り・コミュニケーション	音声認識コミュニケーションロボット『Chapit』(チャピット)
(福)埼玉県 社会福祉協 議会 介護す まいる館	移乗支援	DARWING Hakobelude (2024 年バージョン)
	移乗支援	介護・看護用アシストスーツ J-PAS fleairy(ジェイパスフレアリー)
	移乗支援	レイボエクソスケルトン
	移乗支援	ROBOHELPER SASUKE
	移乗支援	移乗・移動ロボット Keipu-Sb
	移動支援	ロボットアシストウォーカー RT.3
	移動支援	体感型歩行自立支援システム Arbre
	排泄支援	排尿予測デバイス「DFree」professional
	見守り・コミュニケーション	音声認識コミュニケーションロボット『Chapit』(チャピット)
	見守り・コミュニケーション	PALRO 高齢者福祉施設向けモデルⅢ
見守り・コミュニケーション	見守りシステム Neos+Care(ネオスケア)	

相談窓口名	展示介護ロボット	
	分野	ロボット名
	見守り・コミュニケーション	e 伝之助くん
	見守り・コミュニケーション	見守りケアシステムM2
	見守り・コミュニケーション	見守り支援システム「いまイルモ」
	見守り・コミュニケーション	LASHIC care (ラシクケア)
	見守り・コミュニケーション	見守りセンサー「ANSIEL」
	見守り・コミュニケーション	ペイシエントウォッチャープラス
	見守り・コミュニケーション	みまもり CUBE-システム Light
	見守り・コミュニケーション	介護施設向けレクリエーションロボット「ロボシルバーパーク Lite」
	見守り・コミュニケーション	うららかGPSウォーク
介護テクノロジー・業務改善支援センター 福井・石川	移乗支援	ジェイパスフレアリー
	移乗支援	マッスルスーツ
	移乗支援	SASUKE
	移動支援	ロボットアシストウオーアカ R-RT.3
	排泄支援(トイレ誘導)	DFree
	見守り・コミュニケーション	眠り SCAN
	見守り・コミュニケーション	aams. 介護
	見守り・コミュニケーション	ネオスケア
	見守り・コミュニケーション	まもる～の ONE
	見守り・コミュニケーション	ライフリズムナビ+Dr.

相談窓口名	展示介護ロボット	
	分野	ロボット名
	ケーション	
	見守り・コミュニケーション ケーション	Araibre
	見守り・コミュニケーション ケーション	BONX
	排泄支援	Helppad
(公財)介護 労働安定セ ンター奈良支 部 介護ロボ ット・ICT相談 窓口	移乗支援	マッスルスーツ
	移乗支援	ジェイパスフレアリー
	移乗支援	Keipu-Sb
	移動支援	ロボットアシストウォーカーRT.3
	見守り・コミュニケーション ケーション	眠りSCAN
	見守り・コミュニケーション ケーション	見守り介護ロボット aams
	見守り・コミュニケーション ケーション	まもるへの ONE
	見守り・コミュニケーション ケーション	見守りシステム Neos+Care
	排泄支援	HelpPad
	排泄支援	DFree
(公財)介護 労働安定セ ンター鳥取支 部 介護ロボ ット・ICT相談 窓口	移乗支援	エレベオ
	移乗支援	マッスルスーツ
	見守り・コミュニケーション ケーション	眠りSCAN
	見守り・コミュニケーション ケーション	家族コール 3C・スマート
	排泄支援	スカットクリーン(自動排泄処理装置)
	入浴支援	バスリフト(移動用リフト)
	移動支援	ロボットアシストウォーカーRT.3
	生活支援	LOVOT(らぼっと)
	移乗支援	Hug
	(公財)介護 労働安定セ	移乗支援
移乗支援		移乗サポートロボット HugL1

相談窓口名	展示介護ロボット	
	分野	ロボット名
ンター山口支 部 介護ロボ ット・ICT 相談 窓口	移乗支援	スカイリフト
	移動支援	ロボットアシストウォーカーRT-3
	見守り・コミュニ ケーション	眠り SCAN
	見守り・コミュニ ケーション	ライフリズムナビ+Dr.
	見守り・コミュニ ケーション	みまもり CUBE
	見守り・コミュニ ケーション	うららか GPS ウォーク
	排泄支援	ラップボン・プリオ
その他	コミュニケーション	
(公財)介護 労働安定セ ンター香川支 部 介護ロボ ット・ICT 相談 窓口	移乗支援	マッスルスーツ
	移乗支援	ROBOHELPER SASUKE
	移動支援	ロボットアシストウォーカーRT.3
	移動支援	Keipu Sb
	見守り・コミュニ ケーション	aams. 介護
	見守り・コミュニ ケーション	ネオスケア
	見守り・コミュニ ケーション	リコー見守り ベッドセンサーシステム
	排泄支援	ラップボン・プリオ
介護業務支援	ハカルト	
(公財)介護 労働安定セ ンター佐賀支 部 介護ロボ ット・ICT 相談 窓口	移乗支援	ジェイパスフレアリー
	移乗支援	マッスルスーツ
	見守り・コミュニ ケーション	眠り SCAN
	見守り・コミュニ ケーション	aams. 介護
	介護業務支援	ほのぼの NEXT
	移動支援	Walk training robo
	排泄支援	DFree

相談窓口名	展示介護ロボット	
	分野	ロボット名
	入浴支援	バスアシスト
(公財)介護 労働安定セ ンター熊本支 部 介護ロボ ット・ICT相談 窓口	移乗支援	介護・看護用アシストスーツ J-PAS fleairy(ジェイパスフレアリー)
	移乗支援	移乗サポートロボット Hug T1
	移乗支援	マッスルスーツ Every
	移乗支援	ROBOHELPER SASUKE
	移動支援	ロボットアシストウォーカー RT.3
	見守り・コミュニケーション	まもるへの SHIP
	見守り・コミュニケーション	見守りシステム Neos+Care(ネオスケア)
	見守り・コミュニケーション	眠りSCAN
	見守り・コミュニケーション	aams. 介護
	見守り・コミュニケーション	家族コールワイド
	見守り・コミュニケーション	RoBoHoN(ロボホン)
	見守り・コミュニケーション	Monira(モニラ)
	介護業務支援	ケアデータコネク

(2)実績

1)体験展示の来場者数 4,569 人

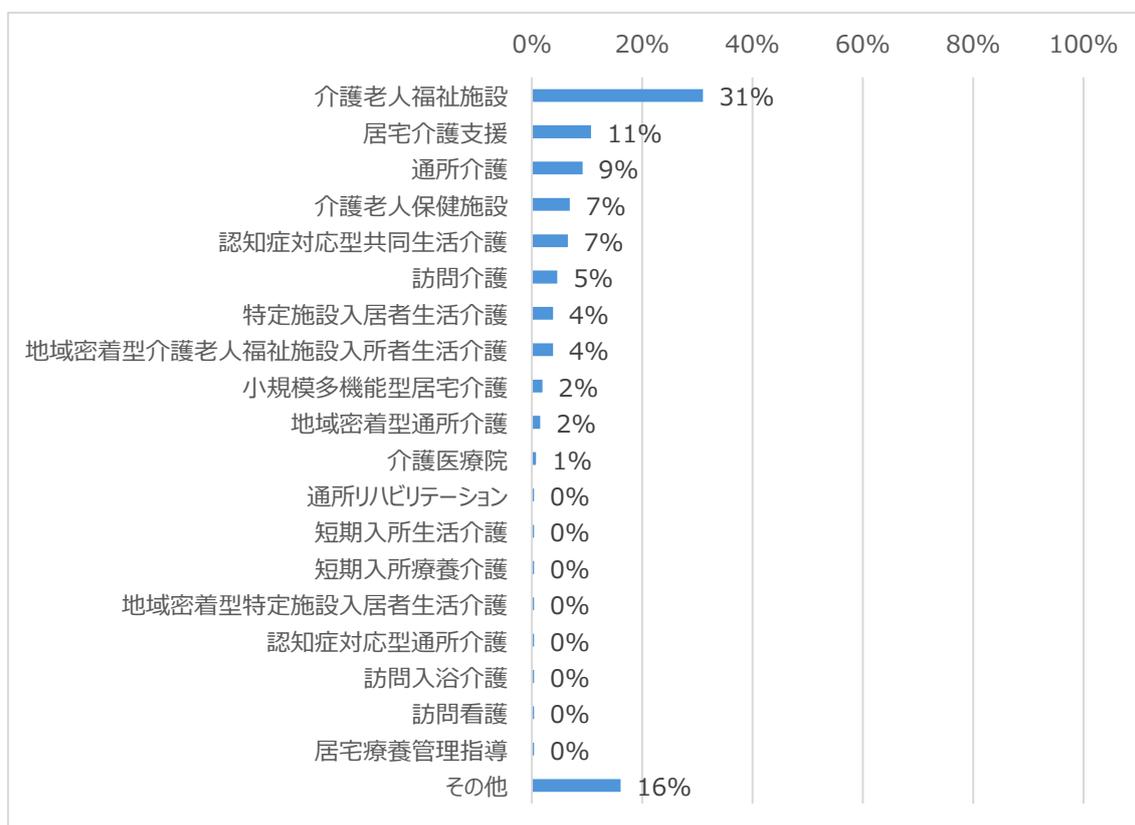
2)体験展示来場者の属性及び体験内容等

体験展示においては、体験後に来場者を対象としたアンケートを実施した。以下、アンケートの集計結果を示す。

➤ 来場者が所属する介護サービス事業所・施設の種別

図表 2-25 来場者が所属する介護サービス事業所・施設の種別

n=261※来場者が介護サービス事業所に所属している場合のみ集計



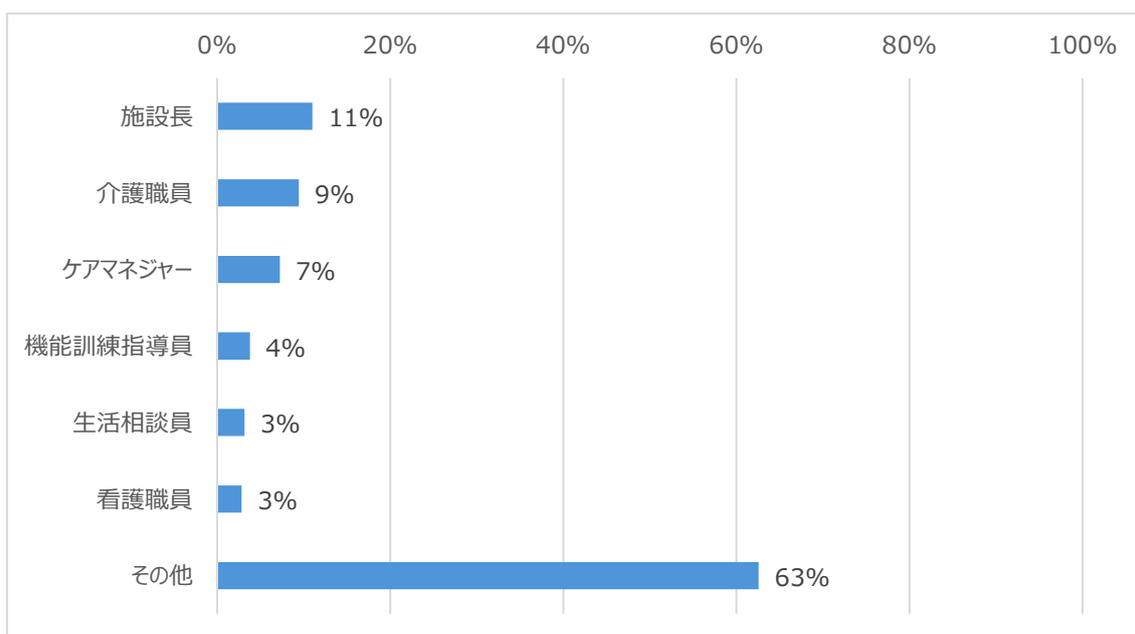
「その他」の内容(抜粋)

- ・ 有料老人ホーム、地域包括支援センター、病院、障害福祉サービス

➤ 来場者の職種

図表 2-26 来場者の職種

n=753



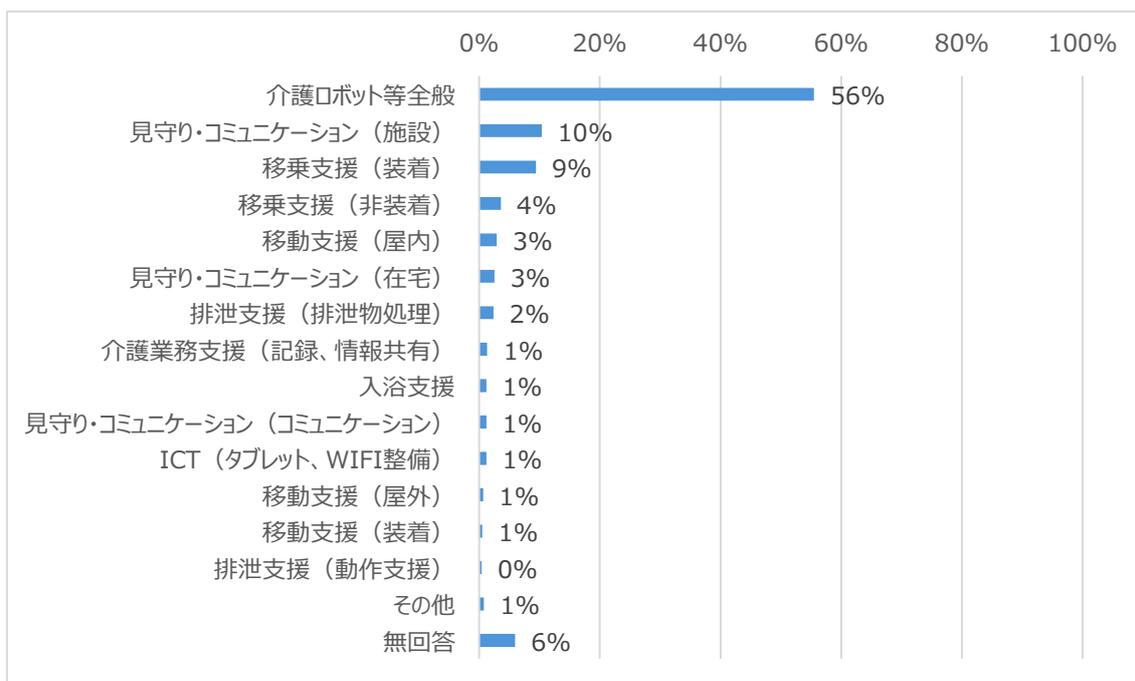
「その他」の内容(抜粋)

- ・ 学生、看護学生、介護労働講習生、理学療法士、民生委員、営業、事務

➤ 重点的に情報収集した機器の分野

図表 2-27 重点的に情報収集した機器の分野

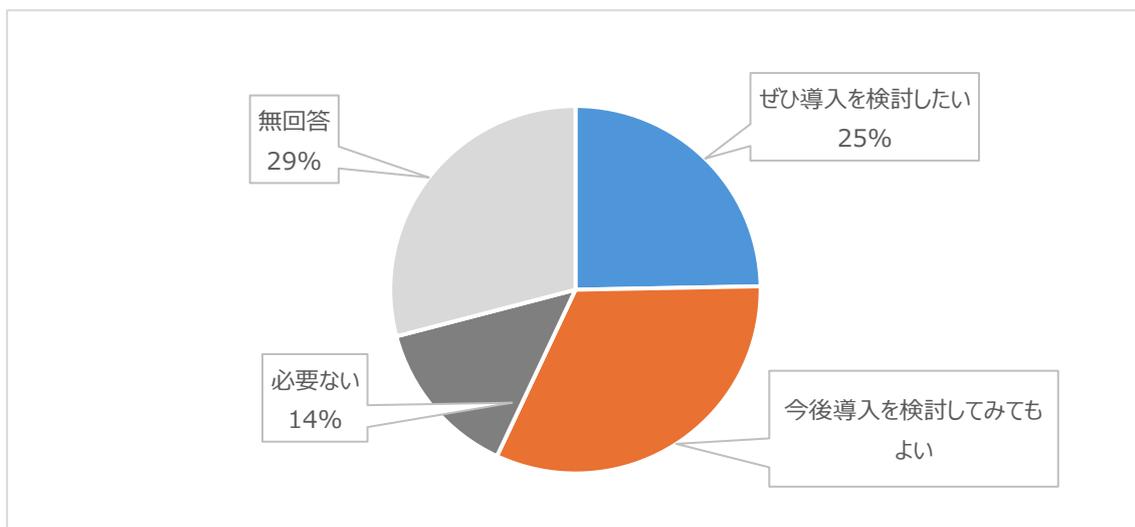
n=753



➤ 体験後の所感:介護ロボットの今後の導入意向

図表 2-28 導入意向

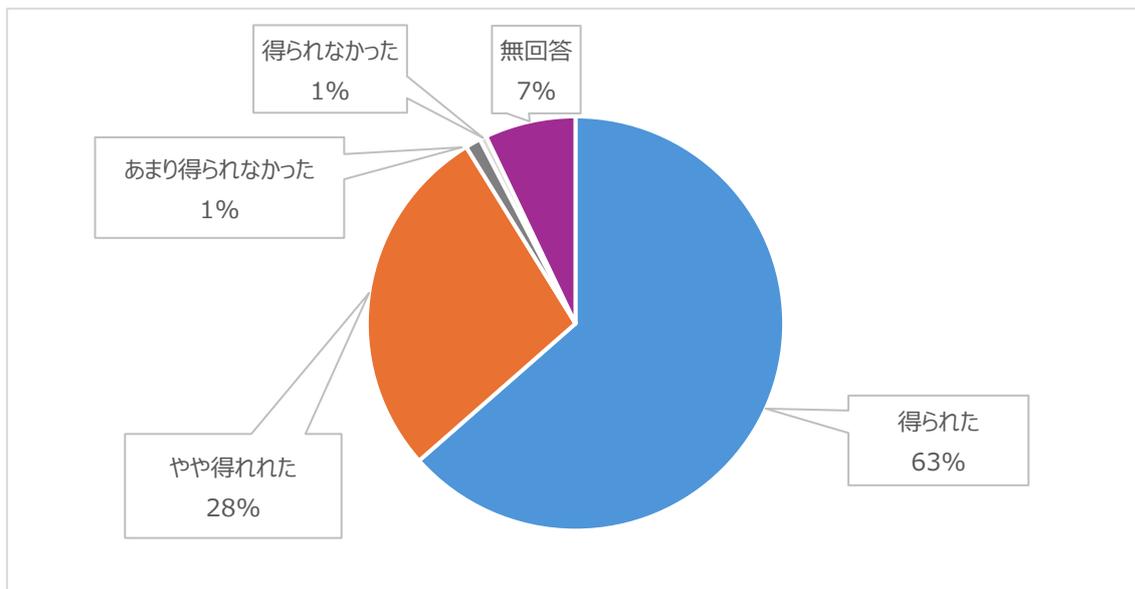
n=753



➤ 体験後の所感:課題解決に資する支援が得られたか

図表 2-29 課題解決に資する支援が得られたか

n=753



上記回答の理由(抜粋)

- ・ 様々な機器の情報を得ることができた
- ・ 介護ロボットプラットフォーム事業について情報を得ることができた
- ・ 介護ロボットを実際に見学・体験することができた
- ・ 実際に体験することでサイズ感、装着感、使用感等が分かった

3) 体験展示における事例の紹介

➤ 岩手相談窓口

取組背景	介護施設・介護サービス事業所が業務改善・生産性向上を図り、効率的にケアを提供することで「働きやすい職場の創出」「職員のモチベーションの向上」、そして介護人材の確保・定着につなげることができる。介護現場で働く職員が生産性向上のための知識を習得するとともに、働きやすい職場環境を自分たちでつくるためのヒントを得ることを目的に開催した。
取組内容詳細	<p>【実施内容】</p> <p>令和6年度いわて働きやすい介護現場サポートセミナー&介護ロボット等展示会 開催日:令和7年2月 18日(火)11:00~16:00</p> <p>【機器一覧】</p>

	<p>22 企業(見守り支援 12・移乗支援1・移動支援 1・コミュニケーション 1・介護ソフト 4・ICT3)、26 点展示</p> <p>【開催場所】 ホテルメトロポリタン盛岡 本館4階(岩手県盛岡市)</p> <p>【来場者数】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ セミナー:64 事業所/104 名 オンライン:59 事業所/77 名 ・ 展示会 :70 事業所/119 名 ・ 相談会 :3事業所 ・ 報道関係:民放 4 社、新聞社 1 社
取組結果	<p>冬季期間であり足元の悪い中、補助金申請の要件ではないセミナー・展示会にも関わらず多くの方に来場いただき、関心の高さを感じた。展示会とセミナーの同時開催、周知活動により参加者数が多かった。参加者からは、伴走支援施設の取組がとても参考になったとの声が多数あり、今後の生産性向上の取組に向けてとても参考になったと感じた。</p>
工夫点・気づき	<ul style="list-style-type: none"> ・ セミナーでは、全国各地で生産性向上の取組の推進役となっている講師を招いたこと、岩手県からの導入補助金等の行政説明、働きやすい職場環境づくり厚生労働大臣奨励賞を受賞した施設や今年度の伴走支援3施設から取組の発表を行った。施設の取組発表は関心が非常に高いため、会場がすぐに満席となる。セミナーと同時開催したため展示会にも来場しやすくなる。 ・ 岩手県は面積が広いので、公共交通機関でも車でもアクセスしやすい会場を選定した。展示する企業にとっても駅直結の会場のため遠方からでも出展できるようにした。 ・ 展示会場のレイアウトは、出展ブースを分野別にし、他企業の製品と比較検討できるよう配慮した。高等専門学校発の学生ベンチャー企業は、上市前のデータ収集の段階ということで、他企業との連携を図ることができてよかったという声を聞く等、今後の展示会開催の参考としたい。

図表 2-30 体験展示会のチラシ

令和6年度
**いわて働きやすい介護現場
 サポートセミナー&
 介護ロボット等展示会** 参加
無料

介護現場における生産性向上や職場環境改善の取組について、岩手県内の4事業所からの実践報告・好事例の発表を通じ、明日からすぐに実践できる具体的な方法を一緒に考え、学びます。
 当日は介護ロボット・ICTの展示会と各種相談会も開催します。

- 開催日時 令和7年 2月18日(木) 11:00~16:00
- 開催場所 ホテルメトロポリタン盛岡 本館4階
- 対象 介護事業所の職員で生産性向上に意欲のある方、介護ロボット等のテクノロジーに関心のある方
- 定員 現地参加:100名
オンライン参加:100名

●展示会 介護ロボット・ICT展示会 11:00~16:00

●セミナー 行政説明・実践報告・講演・実践事例発表 12:20~16:00 受付開始(12:00~)

●相談会 各種相談への対応(生産性向上等) 11:00~12:00

講師：ファシリテーター
鎌田 大啓 氏
 株式会社 TRAPE 代表取締役
 厚生労働省「生産性向上ガイドライン」の作成に深く関わり、黎明期より介護現場の存在支援(ICT導入含む)の多くの実績がある。令和4年度・令和5年度・令和6年度岩手県業務アドバイザー。

申込みURL / <https://forms.gle/qv8hDUXthTQZ5cYe7> 申込み用QRコード

●お問い合わせ先 / (公財) いさいき岩手支援財団 岩手県高齢者総合支援センター TEL019-625-7490

●主催 / 岩手県保健福祉部長寿社会課、(公財) いさいき岩手支援財団 岩手県高齢者総合支援センター

図表 2-31 体験展示会の様子



第3項 試用貸出

介護ロボットの普及を促進するため、介護施設等への試用貸出業務を実施した。試用貸出機器については、テクノエイド協会が厚生労働省から委託を受けて実施している「福祉用具・介護ロボット実用化支援事業」(以下、「実用化支援事業」という。)と連携し、実用化支援事業の一環として実施されている「介護ロボット等試用貸出事業」の試用貸出機器リストを本事業においても使用した。試用貸出リストは図表 2-32 のとおり。

図表 2-32 試用貸出リスト

介護ロボットの種類	企業名	介護ロボットの名称
移乗支援	株式会社ジェイテクト	介護・看護用アシストスーツ J-PAS fleairy (ジェイパスフレアリー)
	ユーピーアール株式会社	サポートジャケット Ep+ROBO
	株式会社イノフィス	マッスルスーツ Every
	株式会社コガネイ	Assist Lumbar (アシストランバー)
	CYBERDYNE 株式会社	HAL® 腰タイプ
	ダイヤ工業株式会社	DARWING Hakobelude (2024 年バージョン)
	株式会社加地	レイボエクソスケルトン
	株式会社 F U J I	移乗サポートロボット Hug T1
	マッスル株式会社	ROBOHELPER SASUKE
	アイ・ソネックス株式会社	スカイリフト iR
	株式会社アイザック	移乗・移動ロボット Keipu-Sb
	株式会社あかね福祉	移乗支援介護ロボット 「移乗です」
	株式会社いうら	排泄サポートリフト 「onbu (おんぶ)」
	株式会社モリトー	介護リフトつるべー Y6 セット Li-PINK Safety Robo
	アルジョ・ジャパン株式会社	サラフレックス

介護ロボットの種類	企業名	介護ロボットの名称
	日本ケアリフトサービス株式会社	SOEL® MX-Air ソエル エムエックス エア
移動支援	R T. ワークス株式会社	ロボットアシストウォーカー RT. 3
	パナソニック株式会社	Walk training robo
	AssistMotion 株式会社	curara
	株式会社スペース・バイオ・ラボラトリーズ	RE-Gait®
	株式会社 INOWA	体感型歩行自立支援システム Arbre
排泄支援	株式会社アム	水洗式ポータブルトイレ「流せるポータくん」3号洗浄便座付き
	日本セイフティー株式会社	ラップポン・プリート (S) 普通便座 (ベージュ)
	D F r e e 株式会社	排尿予測デバイス 「DFree」 professional
	株式会社リリアム大塚	リリアムスポット 2
	富士フイルムメディカル株式会社	iViz air
	パシフィックサプライ株式会社	クイックレイザー 2
見守り・コミュニケーション	パラマウントベッド株式会社	眠り SCAN
	コニカミノルタ QOL ソリューションズ株式会社	HitomeQ ケアサポート (ヒトメク ケアサポート)
	エコナビスタ株式会社	ライフリズムナビ ® +Dr.
	株式会社ツカモトコーポレーション	アルゴスリープ (AlgoSleep) 介護用見守りセンサー

介護ロボットの種類	企業名	介護ロボットの名称
	トーテックアメニティ株式会社	見守りライフ
	キング通信工業株式会社	シルエット見守りセンサ
	株式会社ラムロック	みまもり CUBE- システム Light-
	エイアイビューライフ株式会社	A. I. Viewlife
	株式会社T A O S 研究所	睡眠見守りセンサー AiSleep
	TOPPAN 株式会社	SensingWave® 介護・睡眠見守りシステム
	ノーリツプレシジョン株式会社	見守りシステム Neos+Care (ネオスケア)
	株式会社メティスコム	見守りサービス “ ヴェスタ ”
	株式会社 Z-Works	ライブコネクト
	株式会社ソルクシーズ	見守り支援システム 「いまイルモ」
	フランスベッド株式会社	見守りケアシステム M-2
	株式会社バイオシルバー	aams. 介護
	株式会社エイビス	エイビスみまもりシステム
	ミネベアミツミ株式会社	ベッドセンサーシステムベーシック
	株式会社 FEN	どこでもナースコール・見守りセンサー
	積水化学工業株式会社	見守りセンサー 「ANSIEL」
	株式会社アルコ・イーエックス	ペイシエントウォッチャープラス
	ドーンコーラス合同会社	高齢者・障害者支援施設向け 見守り支援システム 「もりん2」

介護ロボットの種類	企業名	介護ロボットの名称
	竹中エンジニアリング株式会社	サーバー内蔵予測型見守りセンサー
	シーホネンス株式会社	ベッド内蔵型見守りセンサー「iサポート」搭載 Xシリーズ
	システムファイブ株式会社	介護施設向け見守りシステム「すいすいケア」
	三昌商事株式会社	見守りシステム “CareBird”
	株式会社ハピネスコーポレーション Iot	Iot 見守りシステム Happiness 絆
	株式会社コンフォート	エンジェルアイ
	アールジービー株式会社	つながROOM 「テンシル」
	株式会社インフィック・コミュニケーションズ	LASHIC care (ラシクケア)
	株式会社マクニカ	AttentiveConnect (アテンティブコネクト)
	株式会社フォーエヴァー	【睡眠！ケア】いきいきセンサー
	新生電子株式会社	サーモカメラによる見守りシステム pakemo (パケモ)
	ジーコム株式会社	ココヘルパ
	株式会社エヌジェイアイ	安心ひつじ α
	ヒューメトリクス	iCue Smart Mat
	株式会社バイタルヴォイス	VitalVoice オンライン 自動モニタリングシステム
	エニーシステム株式会社	パルスハートバンド (Pulseheart-band)
	加藤電機株式会社	見守りシステム SANフラワーXヘルシーライフ
	株式会社メディカルスイッチ	見守り機能付き服薬支援ロボット「FUKU助」

介護ロボットの種類	企業名	介護ロボットの名称
	株式会社レイトロン	音声認識コミュニケーションロボット 『Chapit』 (チャピット)
	株式会社 ZIPCARE	まもるへの ONE
	株式会社フューチャーインク	Vital Beats 3in1
	株式会社リンクジャパン	スマートナースコール eBell (イーベル)
	アーバン警備保障株式会社 アーバンテック	iTSUMO 2
	株式会社トレイル	うららかGPSウォーク
	富士ソフト株式会社	PALRO 高齢者福祉施設向けモデル III
	シャープマーケティングジャパン株式会社	介護施設向けレクリエーションロボット 「ロボシルバーパーク Lite」
	ザ・ハーモニー株式会社	認知症コミュニケーションロボット 「だいちゃん」
	YORICOM 株式会社	寄り添いコミュニケーション 星輝しおり
入浴支援	株式会社ハイレックスコーポレーション	バスアシスト
	株式会社ミクニライフ&オート	ミクニマイティエース II 浴室セット ROBO
介護業務支援	NEC プラットフォームズ株式会社	NEC サニタリー利用記録システム
	アロン化成株式会社	ポータブルトイレ FX - 30 標準便座 自動計測タイプ
	合同会社 AUTOCARE	ケア記録 AI アプリ FonLog (フォンログ)

(1)試用貸出の貸出件数(全相談窓口合計)

216 件

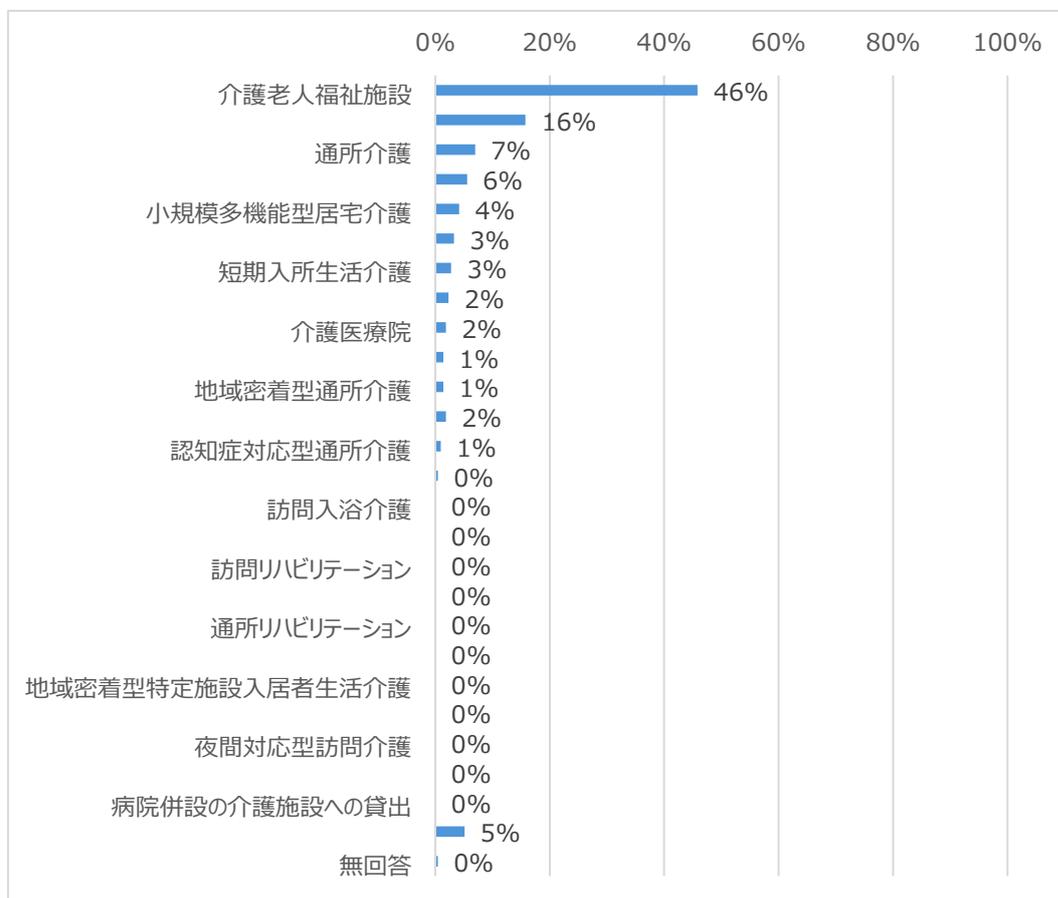
(2)試用貸出の概要及び貸出後アンケートの結果

試用貸出においては、試用貸出終了後に貸出を受けた事業所・施設を対象としたアンケートを実施した。以下、試用貸出時の申込情報とアンケートの集計結果を示す。

➤ 試用貸出を利用した介護サービス施設・事業所の種別

図表 2-33 介護サービス施設・事業所の種別

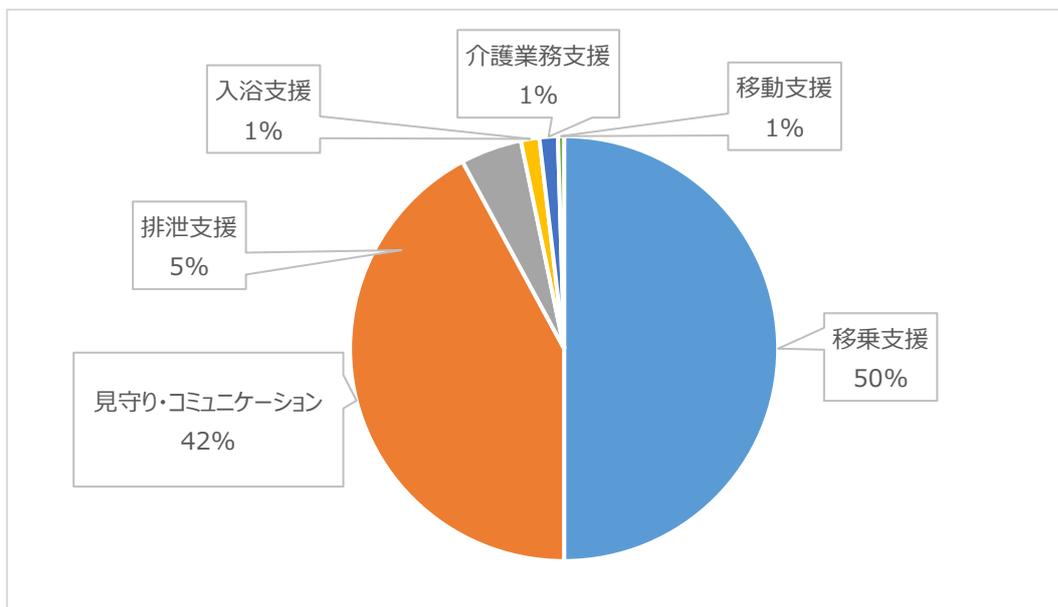
n=216



➤ 借り受けた介護ロボットの種類

図表 2-34 介護ロボットの種類

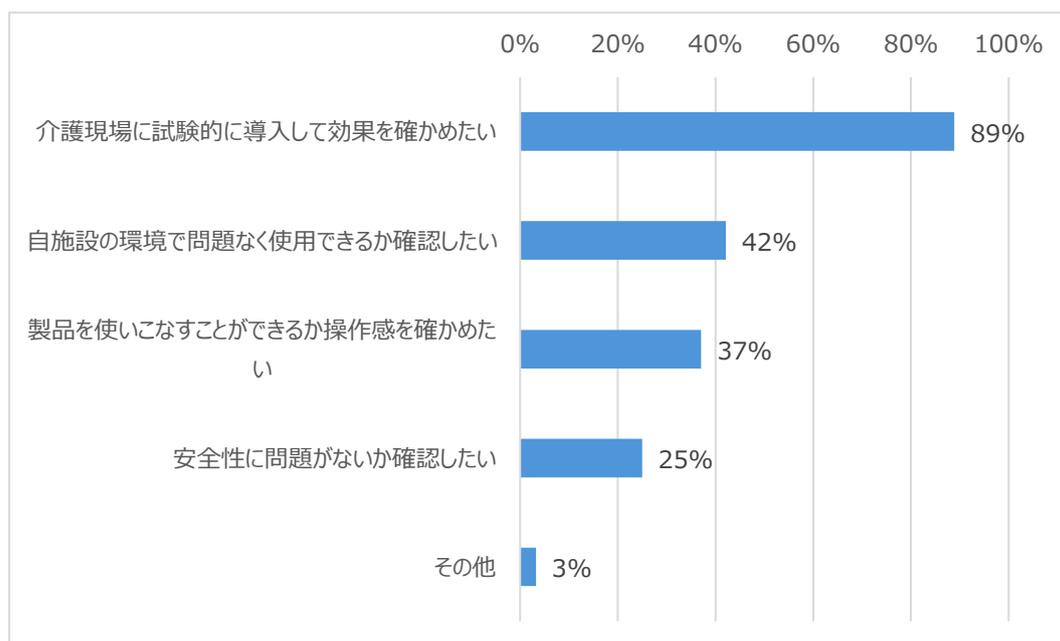
n=216



➤ 借り受けた介護ロボットの利用目的

図表 2-35 借り受けた介護ロボットの利用目的

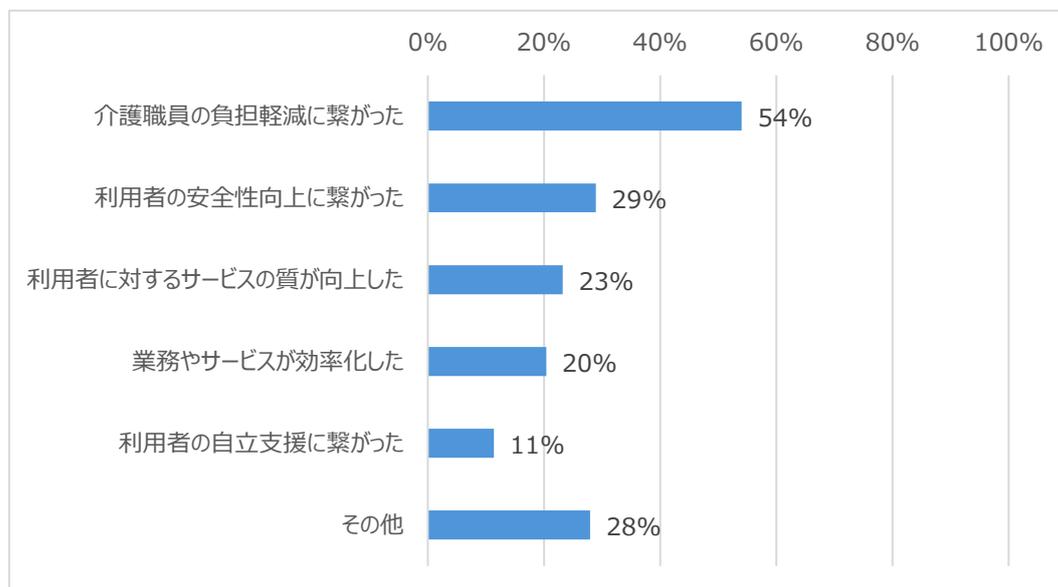
n=216 (複数回答)



➤ 貸出後アンケートの結果: 借り受けた介護ロボットを使用した効果

図表 2-36 介護ロボットを使用した効果

n=211(複数回答)



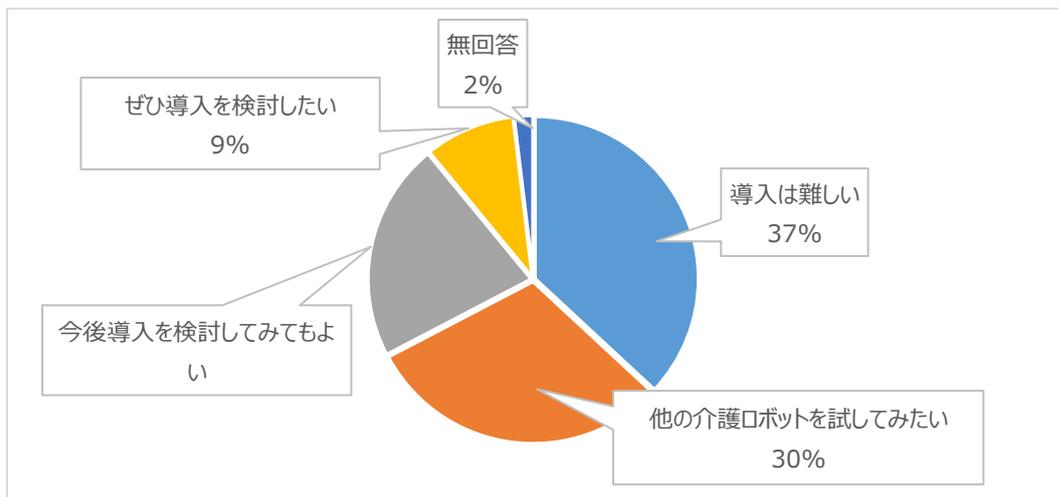
「その他」の内容(抜粋)

- ・ 2人介助が1人で実施できた
- ・ 職員の身体負担が楽に感じた
- ・ 利用者との会話が広がり楽しそうな姿が見られた
- ・ 利用者の不穏が解消された
- ・ 機器利用の準備、装着等に時間を要した
- ・ 効果を感じるまでに至らなかった

➤ 借り受けた介護ロボットの導入意向

図表 2-37 介護ロボットの導入意向

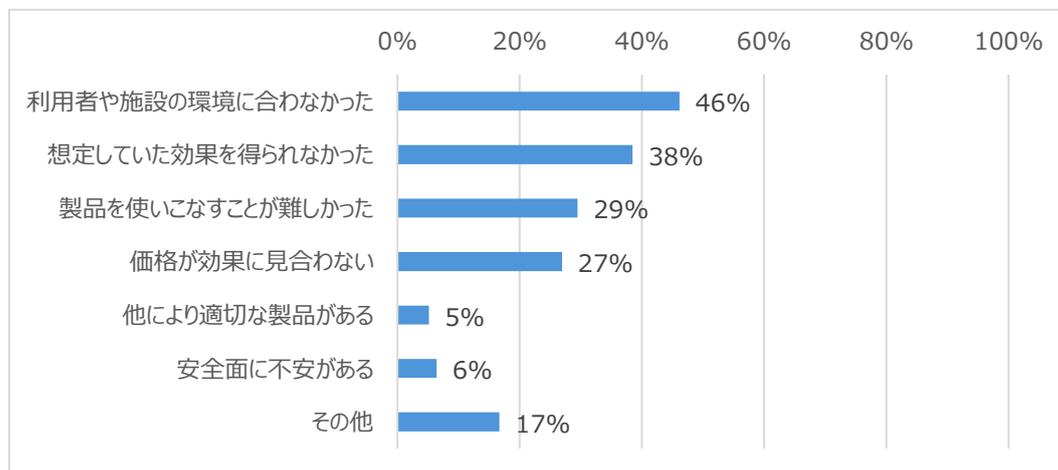
n=211



➤ 貸出後アンケートの結果: 借り受けた介護ロボットの導入が難しい理由

図表 2-38 借り受けた介護ロボットの導入が難しい理由

n=78(複数回答) ※「導入は難しい」と回答した場合のみが対象



「その他」の内容(抜粋)

- ・ Wi-Fi 未導入のため機能を十分に活用することが難しい
- ・ 現場職員の熱意や学習意欲が不十分
- ・ 他の製品も試してから検討したい
- ・ 製品価格が高く予算に合わない
- ・ 機器を利用する対象となる利用者が限られる

第4項 研修会

パッケージモデルの普及等を目的とした研修会を実施し、パッケージモデルでまとめられた、現場の課題とそれに応じた介護ロボットの選定、介護ロボット導入時の留意事項、介護ロボット導入による効果等について説明するとともに、次項に記載する伴走支援の成果報告を行い、地域における介護ロボット導入モデルの横展開を図った。

(1)各相談窓口の研修会実施実績

相談窓口名	開催日	議事
(公財)いきいき岩手支援財団 岩手県高齢者総合支援センター	令和6年8月6日	<ul style="list-style-type: none"> ・行政説明「介護現場の生産性向上と介護テクノロジーの活用」 ・事業説明「令和6年度介護ロボット等導入支援事業費補助金について」 ・「介護ロボットプラットフォーム事業における今年度の活動予定」 ・質疑・応答 ・「介護現場の生産性向上のための介護ロボット・ICT機器の選定」 ・「令和5年度の介護現場の生産性向上の取組の成果とテクノロジーの活用」 ・「介護現場における働きやすい職場環境づくり」
	令和6年11月14日	<ul style="list-style-type: none"> ・「介護現場の生産性向上に取り組むための課題整理のポイント」 ・【トークセッション】モデル事業所に訊く「生産性向上の壁とその乗り越え方」 ・【ワークショップ】効果的な準備 8割の実施を実現させる
	令和7年2月18日	<ul style="list-style-type: none"> ・介護ロボット展示会 ・「岩手県の介護人材確保の取組について」 ・実践報告「働く介護職員を大切にしたい職場環境の改革」～介護現場の働きやすい職場環境づくり厚生労働大臣奨励賞～ ・講演「生産性向上の取組みを経て介護の価値を生み出した事業所の特徴とは？」～価値を生み出した事業所の経営者とリーダーの役割と実践～ ・実践報告「介護現場の生産性向上の取組成果と今後の課題」 ・相談会
(公財)介護労働安定センター茨城支部 介護ロボット・ICT 相談窓口	令和6年7月9日	<ul style="list-style-type: none"> ・プラットフォーム事業の紹介 ・講演「経営戦略としての生産性向上の取組みと報酬改定との向き合い方」 ・伴走支援事業の説明

相談窓口名	開催日	議事
		<ul style="list-style-type: none"> 介護ロボット体験展示場、試用貸出についての説明
	令和6年12月5日	<ul style="list-style-type: none"> 生産性向上の取組みポイント(これまでのおさらいとこれから) 伴走支援事業の進捗状況 質疑応答&事業所同士の対話・交流(これからの取組みを加速するために)
	令和7年2月13日	<ul style="list-style-type: none"> 講演「介護における生産性向上の取組みにおける壁と乗り越える上での重要ポイント」 伴走支援モデル事業所(3事業所)における実践報告 伴走支援モデル事業所インタビュー&質疑応答 介護ロボット体験展示
とちぎ福祉プラザモデルルーム 福祉用具・介護ロボット相談・活用センター	令和6年4月23日	<ul style="list-style-type: none"> 栃木県「介護ロボット導入支援事業」「ICT導入支援事業」の内容と申請書類、方法について 要望の多い「見守り系」「移乗支援系」ロボットの選定の基本と、国が推奨する導入プロセス「パッケージモデル」とは？
	令和6年7月9日	<ul style="list-style-type: none"> 生産性向上体制加算および設置が義務付けとなった「生産性向上に向けての委員会」について 加算の要件となる介護 ICT/ロボットについて 介護 ICT/ロボットの導入プロセス、パッケージモデルについて
	令和6年10月24日	<ul style="list-style-type: none"> 「介護テクノロジー定着支援事業」の紹介と申請について 介護テクノロジーの導入プロセス、生産性向上ガイドラインについて
(福)埼玉県社会福祉協議会 介護すまいる館	令和6年5月22日 令和6年5月29日 令和6年6月5日	<ul style="list-style-type: none"> 生産性の向上の取組に向けた「スタートアップ」セミナー ー必要性と目的をしっかりと理解しましょうー 介護ロボット導入手順の解説
	令和6年8月22日	<ul style="list-style-type: none"> オリエンテーション 講義「国が見据える介護現場の生産性向上の方向性とガイドライン活用」 事例紹介「よくある課題」の分析と計画立案
	令和6年11月27日	<ul style="list-style-type: none"> オリエンテーション 講義:「国が見据える介護現場の生産性向上の方向性とガイドライン活用」 <前半・基礎編>

相談窓口名	開催日	議事
		<p>介護現場における生産性向上とは 介護ロボット導入パッケージモデル“導入手順”の解説 知っておきたい“U字の法則”</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <後半・実践編> 生産性向上ガイドラインと改善計画 「よくある課題」の分析と計画立案・定着支援 介護ロボット重点開発項目の追加 国が描く介護現場のDX像
	令和6年1月24日 ※同日に2回実施	<ul style="list-style-type: none"> ・ 講義「2025年度生産性向上を推進させる為の施策動向ー春までに何をすれば良いのかー」 ・ 事例発表「生産性の向上に取り組む前に見直した日常業務」 ・ 事例発表「生産性を向上させる機器を試用し効果を体験」 <p>※セミナーと同時に、“課題解決に直結する”見守りや移乗等介護ロボット・ICT機器を約10点展示</p>
介護テクノロジー・業務改善支援センター福井・石川	令和6年8月6日	<ul style="list-style-type: none"> ・ プラットフォーム事業の紹介 ・ 講演「テクノロジー活用を踏まえた経営戦略としての生産性向上の取り組みと報酬改定との向き合い方」 ・ モデル施設への伴走支援事業の説明
	11月28日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生産性向上の取り組みポイント(これまでのおさらいとこれから) ・ 伴走支援事業の進捗状況 ・ 質疑応答&事業所同士の対話・交流(これからの取り組みを加速するために)
	令和7年2月21日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 講演「介護現場の生産性向上に取り組むための課題の整理のポイント～取り組みを成功させるために重要な準備8割について～」 ・ 伴走支援モデル事業所における実践報告 ・ トークセッション
(公財)介護労働安定センター奈良支部 介護ロボット・ICT 相談窓口	令和6年7月18日	<ul style="list-style-type: none"> ・ プラットフォーム事業内容の紹介 ・ 講演及びモデル施設への伴走支援事業の説明 ・ 質疑応答
	令和6年11月29日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 講演(テクノロジーを活用した生産性向上の取り組みのポイント これまでやってきたことのおさらいとこれからやること) ・ 伴走支援事業の進捗状況 ・ 質疑応答&事業所同士の対話・交流(こ

相談窓口名	開催日	議事
		れからの取組みを加速するために)
	令和7年2月7日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 講演(介護職場の生産性向上に取り組むための考え方とポイント) ・ 伴走支援モデル事業所 実践報告 ・ 質疑応答 & インタビュー
(公財)介護労働安定センター鳥取支部 介護ロボット・ICT 相談窓口	令和6年8月7日	<ul style="list-style-type: none"> ・ プラットフォーム事業の紹介 ・ 講演「テクノロジー活用を踏まえた経営戦略としての生産性向上の取組みと報酬改定との向き合い方」 ・ モデル施設への伴走支援事業の説明
	令和6年12月6日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生産性向上の取組みポイント(これまでのおさらいとこれから) ・ 伴走支援事業の進捗状況 ・ 質疑応答&事業所同士の対話・交流(これからの取組みを加速するために) 3事業所参加
	令和7年2月19日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 講演「介護現場の生産性向上に取り組むための考え方とポイント」 ・ 事業所による取組み事例報告 ・ アドバイザーと事業所の対談、質疑応答 ・ 今回の取組みに対するまとめ
(公財)介護労働安定センター山口支部 介護ロボット・ICT 相談窓口	令和6年7月26日	<ul style="list-style-type: none"> ・ プラットフォーム事業(窓口業務)内容の紹介 ・ 講演及びモデル施設への伴走支援事業の説明 ・ 質疑応答
	令和6年11月7日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生産性向上の取組みポイント ・ 伴走支援事業所の進捗状況 ・ 質疑応答
	令和7年2月25日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 講演「介護における生産性向上の取組みにおける壁と乗り越える上での重要ポイント」 ・ 伴走支援モデル事業所における実践報告 ・ 伴走支援モデル事業所インタビュー&質疑応答
(公財)介護労働安定センター香川支部 介護ロボット・ICT 相談窓口	令和6年7月25日	<ul style="list-style-type: none"> ・ メーカー8社展示会同時開催 ・ パッケージモデルの紹介 ・ 過年度事業で支援を行った介護事業所等の取組み事例紹介 ・ 因果関係図作り(課題の見える化) ・ 介護テクノロジー導入活用のステップおよび導入事例等の紹介
	令和6年10月25日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 介護ロボットプラットフォーム事業の説明

相談窓口名	開催日	議事
		<ul style="list-style-type: none"> 生産性向上について 処遇改善加算及び特定事業所加算について 生産性向上推進体制加算について 香川県の伴走支援の途中経過
	令和7年2月26日	<ul style="list-style-type: none"> 介護事業所における生産性向上の取組について 令和6年度モデル事業(伴走支援)3先の取組発表 モデル事業所との意見交換会
(公財)介護労働安定センター佐賀支部 介護ロボット・ICT 相談窓口	令和6年8月2日	<ul style="list-style-type: none"> 介護ロボットプラットフォーム事業内容の紹介 講演及びモデル施設への伴奏支援事業の説明 質疑応答
	令和6年11月26日	<ul style="list-style-type: none"> 講義:生産性向上の取り組みポイント 伴走支援事業の進捗状況 質疑応答&事業所同士の対話・交流
	令和7年2月14日	<ul style="list-style-type: none"> 講演『介護における生産性向上の取り組みの壁と乗り越える上での重要ポイント』 伴走支援モデル事業所における実践報告 伴走支援モデル事業所インタビュー&質疑応答 質疑応答(全体)
(公財)介護労働安定センター熊本支部 介護ロボット・ICT 相談窓口	令和6年6月12日	<ul style="list-style-type: none"> 介護業務の効率化・生産性向上とは 介護報酬から読み解くポイント解説 介護ロボットの効果と推進について 介護ロボットの活用について 意見交換会
	令和6年10月22日	<ul style="list-style-type: none"> 業務改善のための生産性向上の取組について 生産性向上委員会の具体的な取り組み 生産性向上推進体制加算について
	令和7年2月20日	<ul style="list-style-type: none"> 介護ロボットプラットフォーム事業の伴走支援事業所(熊本市3事業所)の事例発表 交流会(情報交換会)テーマ : 生産性向上

(2)研修会における事例の紹介

➤ 鳥取相談窓口

取組背景	業務アドバイザーを講師とした講演を開催し、伴走支援を実施した3事業所による「成果報告会」を実施。
取組内容詳細	<p>【開催日・参加人数】 令和7年2月19日(水)・会場24名、オンライン143名 参加</p> <p>【構成】 ○介護現場の生産性向上に取り組むための考え方とポイント」 1. 介護現場を取り巻く社会的背景と生産性向上の取り組みの必要性 2. 介護における生産性向上をどう捉えたらいいのか 3. 業務改善に向けた改善活動の重要なステップ</p> <p>○伴走支援を実施した3事業所による成果報告</p> <p>【具体的な内容】 ○講演では、生産性向上について大まかな流れ、取組の必要性、伴走支援について、生産性向上の改善活動のステップ等説明していただいた。 ○成果報告会では、3事業所が各事業所の課題解決へ向けて実施してきた取組を報告。各事業所ともに施設長等経営陣と主担当者が出席され発表。担当者は悩みながらも諦めずに取り組みを続けられ、どの事業所も予想以上の良い結果が報告された。</p>
取組結果	<p>○研修会後のアンケートでは、「生産性を高めるための具体的な取組みやポイントを学ぶことができ、実際の現場で役立てることができるのではと感じた。介護現場における効率的な業務の進め方や、スタッフ間のコミュニケーションの重要性についても再認識することができた。研修で学んだ内容を実践に活かし、職場の生産性向上に貢献していきたい。」また、伴走支援についても「しっかりと、課題分析しながら進められていたこと等参考になった。」等前向きな意見や感想が多く寄せられた。</p>
工夫点・気づき	<p>○参加者は、8月に開催したセミナーの時より約3倍以上増え、生産性向上に関心を持たれている事業所が増えたと認識した。</p> <p>○鳥取県長寿社会課からの県内事業所へのメールによる周知、窓口による事業所訪問の積み重ねといった周知に努めたことで参加者の増加に繋がったと思う。</p> <p>○今後も自治体との連携を密に、生産性向上の取組の必要性等、周知していくのも窓口としての重要な役割と感じた。</p>

➤ 香川相談窓口

取組背景	新加算及び経過措置期間の対応
取組内容詳細	<p>【開催日・参加人数】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 開催日時:令和6年10月25日 ・ 参加人数:35人(25事業所) ・ 開催方式:zoomウェビナー <p>【構成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生産性向上委員会の設置方法及び具体的な運用方法について ・ 生産性向上推進体制加算の取得について(加算Ⅰ、加算Ⅱ取得条件) ・ 事例紹介 <p>【具体的な内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生産性向上に係る各施策について ・ 生産性向上の取組～関連図 ・ 処遇改善加算の移行状況 ・ 処遇改善加算一本化のイメージ ・ キャリアパス要件Ⅰについて(要件解説) ・ 上位区分への移行要件について ・ 特定事業所加算について ・ 令和6年度～職場環境等要件について ・ 令和7年度～職場環境等要件について ・ 生産性向上委員会・・・何から着手すべきか、設置単位、検討要件 他 ・ 生産性向上ガイドラインについて ・ 他県の取組事例紹介
取組結果	<p>【アンケート結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ まずは委員会の立ち上げを考えています。質問ができたならその際にはお願ひしたいと思います。 ・ 生産性向上委員会を通して、まだ見えていない問題の抽出や仕事の効率化に繋げていきたいと感じました。他事業者さんの感想をお聞きし、見守り支援機器の使用方法を再度スタッフに周知する等再確認することも効率化に繋がるのではと感じました。本日は貴重なお時間を頂きありがとうございました。 ・ ケアの質向上を目的に生産性を高める取り組みがあることを再認識できた。 ・ 研修ありがとうございました。

	<ul style="list-style-type: none"> 生産性向上委員会の立ち上げに向けて、参考になる研修内容でした。参加して良かったです。他
工夫点・気づき	<p>生産性向上に取り組みたいが、何から始めて良いのかが分からない事業所様にとって、とても効果的な研修会であった。</p>

第5項 伴走支援

各相談窓口の担当区域内の介護ロボット等を導入しようとする介護サービス事業所に対し、当該施設における課題を踏まえた適切な介護ロボット等の選定に関する助言、介護ロボット等の導入に伴う施設内のオペレーション変更に関する助言、職員に対する研修等の実施に関する助言、介護ロボット等の導入効果の把握、取組の見直しに関する助言等の伴走支援を行った。

(1)各相談窓口の伴走支援実績

相談窓口名	伴走支援施設種別	導入機器
(公財)いきいき岩手支援財団 岩手県高齢者総合支援センター	認知症対応型共同生活介護	ICT
	介護老人福祉施設	ICT
	介護老人福祉施設	ICT
(公財)介護労働安定センター茨城支部 介護ロボット・ICT相談窓口	訪問介護	未導入(業務改善を実施)
	居宅介護支援	未導入(業務改善を実施)
	短期入所生活介護/サービス付き高齢者向け住宅	未導入(業務改善を実施)
	介護老人福祉施設	未導入(業務改善を実施)
	介護老人福祉施設	未導入(業務改善を実施)
とちぎ福祉プラザモデルルーム 福祉用具・介護ロボット相談・活用センター	介護老人福祉施設	未導入(業務改善を実施)
	介護老人福祉施設	未導入(業務改善を実施)
	介護老人福祉施設	介護業務支援システム
	特定施設入居者生活介護	見守り支援、介護業務支援システム
	小規模多機能型居宅介護	入浴支援
(福)埼玉県社会福祉協議会 介護すまいる館	介護老人福祉施設	ICT
	通所介護	ICT
	介護老人保健施設	見守り支援
介護テクノロジー・業務改善支援センター福井・石川	地域密着型介護老人福祉施設入居者生活介護	未導入(業務改善を実施)
	介護老人福祉施設	未導入(業務改善を実施)
	介護老人福祉施設	未導入(業務改善を実施)
(公財)介護労働安定センター奈良支部 介護ロボット・ICT相談窓口	介護老人福祉施設	未導入(業務改善を実施)
	介護老人福祉施設	未導入(業務改善を実施)
	介護老人福祉施設	未導入(業務改善を実施)
(公財)介護労働安定センター鳥取支部 介護ロボット・ICT相談窓口	介護老人福祉施設	未導入(業務改善を実施)
	介護老人福祉施設	未導入(業務改善を実施)
	介護老人福祉施設	未導入(業務改善を実施)
(公財)介護労働安定センター山口支部 介護ロボット・ICT相談窓口	介護老人保健施設	インカム(試用導入)
	看護小規模多機能型居宅介護	インカム(試用導入)
	介護老人保健施設	インカム(試用導入)
(公財)介護労働	介護老人保健施設	移乗支援、介護業務支援システム

相談窓口名	伴走支援施設種別	導入機器
安定センター香川 支部 介護ロボッ ト・ICT 相談窓口	介護老人保健施設	見守り支援、介護業務支援、コールセン サー
	定期巡回・随時対応型訪問 介護看護	未導入(業務改善を実施)
(公財)介護労働 安定センター佐賀 支部 介護ロボッ ト・ICT 相談窓口	介護老人福祉施設	移乗支援、見守り支援、ICT
	認知症対応型共同生活介 護	見守り支援
	通所介護	移乗支援、ICT
(公財)介護労働 安定センター熊本 支部 介護ロボッ ト・ICT 相談窓口	有料老人ホーム	未導入(業務改善を実施)
	通所介護	未導入(業務改善を実施)
	介護老人保健施設	介護業務支援システム、ICT

(2)伴走支援における事例の紹介

➤ 埼玉相談窓口における伴走支援事例(1 事業所を抜粋)

サービス種別	通所介護
選定の経緯	同法人の入所施設で伴走支援を行っており、通所事業においても管理者の残業が多く、業務が属人的になっていることから改善活動に参加したいとの申し出があった。
導入機器	介護記録用タブレット及び施設内 Wi-Fi 環境構築機器
実施内容や取組チームの変化等	<p>手順 1 改善活動の準備をしよう</p> <p>「生産性を向上する」という意味をしっかりとメンバー全員に理解してもらった。</p> <p>※居宅系サービスにおける伴走支援時の留意点 パート職員の割合が多くなるので「生産性を向上させる⇒自分の慣れた業務が減る⇒新たな業務が与えられる⇒負担が重くなる」、よって生産性向上は必要なしと捉える方も多いので生産性向上の必要性はしっかりと理解していただく必要がある。</p>
	<p>手順 2 現場の課題を見える化しよう</p> <p>自分に仕事が偏りすぎるので、全体的な業務内容を書き出し、整理を試みた。その結果、他の人に“やらせていない”ことも多々見つかった。</p>
	<p>手順 3 実行計画を立てよう</p> <p>タブレット導入を良い機会として“任せる”業務も明確にした上で業務分担を行った。</p>
	<p>手順 4 改善活動に取り組もう</p> <p>実際の活動に際し、習得度、定着度を把握するための確認項目を作成し、活動中でも意識的に活動できるようにする予定。</p>
	<p>手順 5 改善活動を振り返ろう</p> <p>習得度、定着度を把握するための確認項目での評価を比較し、改善箇所の把握と習得できた箇所を明確にし、職員同士で習得にむけたサポートが図られるようにする予定。</p>
	<p>手順 6 実行計画を練り直そう</p> <p>今後は、職員の入れ替わり等があっても理解できるように、研修計画や手順マニュアルを作成する予定。</p>

➤ 奈良相談窓口における伴走支援事例(1 事業所を抜粋)

サービス種別	特別養護老人ホーム
選定の経緯	若い職員や外国人労働者が多く、現場の業務レベルやビジョン共有への懸念もあったが、見守り機器の新規導入への意向と活用に向けた姿勢等、介護ロボットプラットフォーム事業に適切と考え支援を決定した。
導入機器	なし(テクノロジーの導入以前に、業務改善の必要性が認められたため)
実施内容や取組チームの変化等	<p>手順 1 改善活動の準備をしよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 業務アドバイザーから事業の説明を行った。 ・ 生産性向上の取組を推進するプロジェクトチームを編成した。 ・ 経営層から取組開始のキックオフ宣言をし、取組の意義等を周知した。
	<p>手順 2 現場の課題を見える化しよう</p> <p>現場課題を見える化するためのアンケート調査を実施し、職員内の対話を重ねた結果、当初想定していた「見守り機器の導入」ではなく、食事業務の改善に取り組むことを決定した。</p>
	<p>手順 3 実行計画を立てよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 夕食開始の遅れが、その後の業務遅延につながる事が判明したため、夕食前までの業務オペレーションを見直すこととした。 ・ 食事介助業務そのものについても、介助する利用者の優先順位を明確にし、食事介助後の業務に無駄なく移行できるようにオペレーションを見直すことにした。 ・ 業務オペレーションは職員同士で共有し、適宜修正と検証を加えていくことにした。
	<p>手順 4 改善活動に取り組もう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ おやつ→夕食業務→その後の業務のオペレーションを作成した。 ・ 食事介助を行う利用者の優先順位を明確にし、介助をやめるタイミングを設定した。 ・ 食事介助を終えた順に、職員が次にどの業務を行うか明確にした。 ・ 改善活動は常に見直しを心掛け、3回のブラッシュアップを実施した。
	<p>手順 5 改善活動を振り返ろう</p> <p>【事業所からのコメント】 実行計画を作成・ブラッシュアップしていく過程で、業務のムダ・ムラを減らすことにより「マンパワーに頼らずとも余裕を生み出せる」という貴重な体験を得ることができた。職員たちにとって、今後、他の課題に取り組む際の大きな成功体験となった。</p>

	<p>手順 6 実行計画を 練り直そう</p>	<p>【事業所からのコメント】 介助後の口腔ケアや移乗手順等、新しく取り決めたオペレーションで対応できていないこともあり、改善すべき点として認識している。今回の取組で、業務アドバイザーから提供されたデジタルデータ活用方法(収集と分析)を参考にして、今後の改善に取組んでいきたい。</p>
--	---------------------------------	--

➤ 山口相談窓口における伴走支援事例(1 事業所を抜粋)

	サービス種別	介護老人保健施設
	選定の経緯	<p>以下の点を踏まえて当施設の選定を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 過年度から関係のあった施設であり、当施設から生産性向上に向けた伴走支援を必要とする旨の要望を頂戴した。 ・ 研修会にて伴走支援への参加を募った際にも当施設から手上げがあり意欲的だった。
	導入機器	インカム(試用導入)
実施内容や取組チームの変化等	<p>手順 1 改善活動の 準備をしよう</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生産性向上の取組みを推進するにあたって、プロジェクトチームを作る ・ 現場担当者に任せるだけでなく、経営層(トップ層)も関与 ・ 経営層(トップ層)から、取組開始のキックオフ宣言をし、取組の意義等を周知する ・ 全職員が生産性向上についての研修会や動画視聴を行い、理解を深める
	<p>手順 2 現場の課題を 見える化しよう</p>	<p>情報共有・見守り業務の取組アンケートの実施</p> <p>【現場で起こっている問題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ コールへの対応が遅れる ・ 利用者を待たせてしまう ・ 事故発生への職員の不安が高まる <p>【問題の原因】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 複数のコールが同時に鳴った際に、優先順位や対応ルールが定まっていないため、対応が滞ることがある ・ 応援を呼ぶための明確なルールがなく、頼むことに心理的な抵抗を感じる職員がいるため、応援が必要な場合でも依頼できていない状況がある

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現在、PHSの台数が限られており、応援を呼ぶ手段として、大声で呼ぶか、周囲の職員を待つ以外の手段がない
手順 3 実行計画を立てよう	<ul style="list-style-type: none"> ・ 利用者対応が重なった場合の優先順位を決める。 ・ インカム導入に合わせて業務内容を見直す ・ コール対応の指揮系統の確立 ・ コール対応方法の確立 ・ コール対応を行う職員の優先順位の決定 ・ インカムを利用した朝礼
手順 4 改善活動に取り組もう	<p>【苦労したこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ インカムの初期設定については、人任せな職員が多く、リーダー、サブリーダーが実施したデモでもあったため受け身だった ・ インカムのヘッドセットが有線のタイプであることにネガティブな意見があった。「まずは試してみよう」と声を掛ける等を行い対応した ・ 介護と看護の温度差があり、今回は介護職員での取組となった。看護職員のインカム活用があまりなかった点は今後の課題でもある <p>【工夫したこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 介護老人保健施設のため、利用者の入れ替わりがあるので、対応の優先順位を利用者で決めず、リスクを考慮し設置しているセンサーの種類で決めた ・ 使用センサーの受信機には利用者の氏名を貼る等わかりやすくした ・ 今回作成した改善活動の計画は、案はリーダーで考えたが、基本的には現場の職員から積極的に提案があり、その内容を計画に盛り込んだ、そこまでの手順1-3を丁寧に行ったからこそ、各職員が自分ごとになって取り組めた <p>【学んだこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 施設全体で考えると、看護職員のことと考えていけないと今回取り組んだことで気づいた ・ 現場は最短距離を通ろうとする、今回の取組もステップを踏んでいないと成功しなかったと思うのでステップを大切にしていきたい
手順 5 改善活動を振り返ろう	<p>【考察したこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ センサー対応の優先順位が決まったことで、判断に迷うことが少なくなった

		<ul style="list-style-type: none"> ・ 指示系統、職員のコール対応の順序にルールができたことで、役割分担が明確になった ・ インカムを活用することで、①②の改善活動の取り組みの効果を高めることができた、また応援を呼ぶ手段が確立された ・ 以上により、職員の負担感が軽減した
	<p>手順 6 実行計画を 練り直そう</p>	<p>【新たな課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 日勤帯のフロア業務については、今回改善活動に取り組んだことで、効果を上げることができた。一方で、正職員の多くは月の勤務の半分程度は夜勤を行っており、夜勤帯の負担感の軽減が図られないと職員の身体的な負担感の軽減までには至らないことがわかった <p>【次なる取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 夜勤帯の訪室を含めた見守り業務として、日勤帯で行ったセンサー対応の優先順を決定することや、センサー対応やコール対応が多い時間帯や睡眠状況のアセスメントを行うことで、個々の利用者に合わせて対応を行い、利用者の安眠や職員の負担軽減を図る必要がある

第6項 地域のネットワーク構築を図る協議会

各相談窓口が担当する都道府県の担当部署や当該都道府県において介護ロボット等の導入に先進的に取り組んでいる介護施設、地域の関係業界団体を構成員とした協議会を各相談窓口1回以上開催し、各構成員の取組、地域の状況等に関する情報の共有、本事業への要望等に関する意見聴取等を行い、地域のネットワークの構築を図った。なお、担当する都道府県において、介護現場革新会議に相当する会議を実施している場合は、相談窓口主催の協議会は実施していない。

(1)各相談窓口の協議会開催実績

相談窓口名	開催日	構成メンバー(順不同)	議事
(公財)いきいき岩手支援財団 岩手県高齢者総合支援センター			岩手県において介護現場革新会議に相当する会議を実施しているため、窓口主催の協議会は実施していない。
(公財)介護労働安定センター茨城支部 介護ロボット・ICT 相談窓口	令和6年7月23日	茨城大学 人文社会科学部 法律経済学科 教授 茨城県 福祉部 長寿福祉課 水戸市 福祉部 介護保険課 (一社)茨城県介護支援専門員協会 (一社)茨城県介護福祉士会 (一社)茨城県老人福祉施設協議会 (一社)茨城県介護老人保健施設協議会 社会福祉法人 縦山会	<ul style="list-style-type: none"> ・介護現場における生産性向上の動向 ・茨城県における介護施策動向 ・介護ロボットのプラットフォーム事業・相談窓口の取組紹介 ・生産性向上に向けた情報共有
	令和7年3月3日	茨城大学 人文社会科学部 法律経済学科 教授 茨城県 福祉部 長寿福祉課 水戸市 福祉部 介護保険課 (一社)茨城県介護支援専門員協会 (一社)茨城県介護福祉士会 (一社)茨城県老人福祉施設協議会 (一社)茨城県介護老人保健施設協議会 社会福祉法人 縦山会	<ul style="list-style-type: none"> ・茨城県における介護施策動向 ・介護ロボットのプラットフォーム事業・相談窓口の取組報告 ・次年度生産性向上に向けた意見交換
とちぎ福祉プラザモデルルーム 福祉用具・介護ロボッ	令和6年10月23日	栃木県保健福祉部高齢対策課 介護サービス班 一般社団法人栃木県老人福祉施設協議会 一般社団法人 栃木県老人保	<ul style="list-style-type: none"> ・報告事項 ・国動向(総合相談窓口開設状況等) とちぎ相談窓口の上半期活動状況と下半期の予定

相談窓口名	開催日	構成メンバー(順不同)	議事
ト相談・活用センター		健施設協会 栃木県社会福祉法人経営者協議会 一般社団法人栃木県介護福祉士会 栃木県社会福祉協議会福祉人材部長 兼福祉人材課 NPO 法人とちぎノーマライゼーション研究会とちぎ福祉プラザモデルルーム福祉用具・介護ロボット相談・活用センター 業務アドバイザー 安全なケア研究所 とちぎ福祉プラザモデルルーム福祉用具・介護ロボット相談・活用センター 業務アドバイザー ※以下オブザーバー 栃木県保健福祉部高齢対策課 介護サービス班 栃木県社会福祉協議会福祉人材部 福祉人材・研修センター 福祉人材課	県動向(介護テクノロジー定着支援事業について) ・協議事項 地域課題共有のためのアンケート調査について
	令和7年 3月 17日	栃木県保健福祉部高齢対策課 介護サービス班 一般社団法人栃木県老人福祉協議会 一般社団法人栃木県老人保健施設協会 栃木県社会福祉法人経営者協議会 一般社団法人栃木県介護福祉士会 栃木県社会福祉協議会福祉人材部長兼福祉人材課 NPO 法人とちぎノーマライゼーション研究会とちぎ福祉プラザモデルルーム福祉用具・介護ロボット相談・活用センター 業務アドバイザー 安全なケア研究所 とちぎ福祉プラザモデルルーム福祉用具・介護ロボット相談・活用センター 業務アドバイザー ※以下オブザーバー 栃木県保健福祉部高齢対策課 介護サービス班 栃木県社会福祉協議会福祉人	・報告事項 ①国動向(総合相談窓口への移行状況・令和6年度補正予算・令和7年度当初予算案等) ②とちぎ相談窓口の下半期活動状況 ③県動向(介護人材確保に係る令和7年度の取組等について) ④地域課題共有のためのアンケート調査結果報告 ・協議事項 地域課題共有のためのアンケート調査結果についての意見交換

相談窓口名	開催日	構成メンバー(順不同)	議事
		材部 福祉人材・研修センター 福祉人材課	
(福)埼玉県 社会福祉協 議会 介護 すまいる館	埼玉県において介護現場革新会議に相当する会議を実施しているため、窓口 主催の協議会は実施していない。		
介護テクノ ロジー・業 務改善支援 センター福 井・石川	福井県において介護現場革新会議に相当する会議を実施しているため、窓口 主催の協議会は実施していない。		
(公財)介護 労働安定セ ンター奈良 支部 介護 ロボット・ ICT 相談窓 口	令和6年8 月5日	奈良県 医療・介護保険局 地 域包括支援課福祉人材・確保 係 奈良労働局 職業安定部 職業 安定課 奈良労働局 労働基準部 健康 安全課 社会福祉法人 奈良県社会福 祉協議会 福祉人材センター 奈良県老人福祉施設協議会 奈良県老人保健施設協議会 日本ホームヘルパー協会 奈 良支部 株式会社ひまわりの会	<ul style="list-style-type: none"> ・介護現場における生産性向 上の推進について ・安全衛生行政の動向 ・介護人材の確保・育成のため の主な施策について ・介護ロボットプラットフォーム 事業における相談窓口の取 組み紹介 ・①協議会の目的や存在意義 について ・②奈良県内の関係団体の皆 様から見た現状の共有
	令和7年3 月4日	奈良県 医療・介護保険局 地 域包括支援課福祉人材・確保 係 奈良労働局 職業安定部 職業 安定課 奈良労働局 労働基準部 健康 安全課 社会福祉法人 奈良県社会福 祉協議会 福祉人材センター 奈良県老人福祉施設協議会 奈良県老人保健施設協議会 日本ホームヘルパー協会 奈 良支部 株式会社ひまわりの会	<ul style="list-style-type: none"> ・介護ロボットプラットフォーム 事業(窓口事業)事業成果報 告 ・伴走支援活動における成果 報告 ・質疑応答
(公財)介護 労働安定セ ンター鳥取 支部 介護 ロボット・ ICT 相談窓	鳥取県において介護現場革新会議に相当する会議を実施しているため、窓口 主催の協議会は実施していない。		

相談窓口名	開催日	構成メンバー(順不同)	議事
口			
(公財)介護労働安定センター山口支部 介護ロボット・ICT 相談窓口	令和6年7月25日	山口県健康福祉部 長寿社会課 山口県老人福祉施設協議会 山口県老人保健施設協議会 山口県訪問介護事業所連絡協議会 一般社団法人山口県介護福祉士会 社会福祉法人山口県社会福祉協議会 福祉振興班	<ul style="list-style-type: none"> ・ 令和6年度第1回介護ロボット・ICT相談窓口事業における協議会 協議委員各位 ご紹介 ・ 介護現場における生産性向上の動向 ・ 相談窓口の取組内容・進捗状況報告 ・ 協議会の目的や存在意義について(介護における生産性向上とは何か等) ・ 山口県内の関係者団体の皆様から見た現状について
	令和7年2月10日	山口県健康福祉部長寿社会課 山口県老人福祉施設協議会 山口県老人保健施設協議会 山口県訪問介護事業所協議会 山口県介護福祉士会 社会福祉法人山口県社会福祉協議会 山口県宅老所・グループホーム協会 山口県デイサービスセンター協議会 山口県介護支援専門員協会 山口県よろず支援拠点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 令和6年度第2回介護ロボット・ICT相談窓口事業における協議会 協議委員各位 ご紹介 ・ 第1回協議会概要説明 ・ 相談窓口の取組み内容・進捗状況報告 ・ 伴走支援モデル事業所(3事業所)の取組み報告 ・ 伴走支援3事業所の報告内容についての意見や感想について ・ 参加関係団体での取り組みや課題について
(公財)介護労働安定センター香川支部 介護ロボット・ICT 相談窓口	令和6年7月25日	香川労働局職業安定部 香川県健康福祉総務課長寿社会対策課 社会福祉法人 香川県社会福祉協議会 香川県老人福祉施設協会 香川県老人保健施設協議会 香川県グループホーム・小規模多機能連絡協議会 一般社団法人香川県介護福祉士会 香川県よろず支援拠点 公益財団法人 日本介護福祉士養成施設協会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 開会あいさつ ・ 介護現場における生産性向上の動向 ・ 香川県における現状、施策動向 ・ 相談窓口の取組紹介 ・ ①香川県における介護現場の生産性向上の進め方 ・ ②関係団体との連携

相談窓口名	開催日	構成メンバー(順不同)	議事
	令和7年2月26日	香川労働局職業安定部 香川県健康福祉総務課長寿社会対策課 社会福祉法人 香川県社会福祉協議会 香川県老人福祉施設協会 香川県老人保健施設協議会 香川県グループホーム・小規模多機能連絡協議会 一般社団法人香川県介護福祉士会 香川県よろず支援拠点 公益財団法人 日本介護福祉士養成施設協会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 開会あいさつ ・ 実績報告 ・ 介護事業所における生産性向上に係る取組状況 ・ 伴走支援内容説明 ・ 意見交換
(公財)介護労働安定センター佐賀支部 介護ロボット・ICT 相談窓口			・ 佐賀県において介護現場革新会議に相当する会議を実施しているため、窓口主催の協議会は実施していない。
(公財)介護労働安定センター熊本支部 介護ロボット・ICT 相談窓口	令和6年6月12日	社会福祉法人熊本県社会福祉協議会 熊本県老人保健施設協議会 一般社団法人 熊本県老人保健施設協会 熊本県特定施設入居者生活介護事業者連絡協議会 熊本県地域密着型サービス連絡会 一般社団法人 熊本県介護福祉士会 一般社団法人 熊本県作業療法士会 公益社団法人 熊本県理学療法士協会 熊本県福祉介護用品協会 熊本県健康福祉部長寿社会局高齢者支援課 熊本市健康福祉局高齢者支援部 沖縄県保健医療介護部	<ul style="list-style-type: none"> ・ 主催者挨拶 ・ 参加者自己紹介 ・ 事業概要説明 ・ 意見交換

(2)協議会における事例の紹介

➤ 栃木相談窓口

開催日時・会場	令和6年10月23日(水) 14時00分～16時00分 とちぎ福祉プラザ・特別会議室
協議会のゴール設定	介護現場の生産性向上を目指した介護ロボット等の新しいテクノロジーの活用を推進するため、地域の状況や課題の共有、具体的な取組や活用推進の方策を検討し、関係者・団体等からなる地域ネットワークを構築すること
委員構成	<p>【関係団体】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 一般社団法人栃木県老人福祉施設協議会 ・ 一般社団法人栃木県老人保健施設協会 ・ 栃木県社会福祉法人経営者協議会 ・ 一般社団法人栃木県介護福祉士会 ・ 栃木県社会福祉協議会(福祉人材部福祉人材・研修センター) <p>【自治体】</p> <p>栃木県保健福祉部高齢対策課</p> <p>【事業関係者】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ とちぎノーマライゼーション研究会 ・ 安全なケア研究所
議事概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国の行政動向の報告 ・ 県の行政動向の報告 ・ 相談窓口の活動報告 ・ 介護人材の増加と介護テクノロジー導入の関係についてのアンケート調査 <p>【アンケート調査について】</p> <p>介護ロボット・ICT 機器等の利用が介護職員の就業意識に与える影響についてのアンケート調査</p> <p>趣旨:介護人材不足の課題に対する解決策の一つとして期待される介護ロボット等の機器や ICT 技術等の新しい介護テクノロジーの活用が介護職員の就業意識(介護の仕事を長く続けようとする意識)にどの程度の影響を与えるのかを明らかにすること</p> <p>対象:介護施設(介護老人福祉施設・介護老人保健施設)で直接介護の業務にあたる職員</p>
結果	<p>【協議会で議論した内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 対象施設について、特養、老健、有料の入所施設3類型とする原案を示したが、有料は特養、老健と異なり、入居者の介護レベルが様々で絞り込むことが困難であるため、対象から除くこととなった。

	<ul style="list-style-type: none"> ・ アンケート対象の職員について、リハ職や看護職を含めるかどうかの議論があり、今回は介護職員にフォーカスする観点から、直接介護にあたる職員のみとすることとした。 ・ 調査の実施に際し、老施協・老健協に協力を求めることとなった。具体的には、老施協・老健協から会員施設に対し調査への協力を求める文書を発出してもらうこととなった。 ・ 調査は次回協議会までに結果をまとめ、報告することが確認された。 <p>【参考:アンケート結果及び今後の活用方法】</p> <p>現在の職場で介護の仕事が続けることが可能な人の割合は 58%、続けられないのは 10%、続けられない理由の1位は「金銭的な待遇に満足できない」、2位は、「経営理念・経営方針に賛同できない」、「人間関係が良くない」、と並び「福祉機器等の設備が整っていない」となった。福祉機器等の整備が就労意識に経営理念や人間関係と同等に影響を与える要素であることがわかった。さらに分析を進め、第2回の協議会で課題として共有し、次年度以降の活動推進の方策検討に活かす予定。</p>
--	---

第7項 導入実績

相談対応、体験展示及び試用貸出の相談窓口の取組を通じて、介護ロボットの導入に至った実績を以下に示す。なお、相談窓口における取組のフォローアップにより把握できたもののみを掲載する。

(1)導入実績数(全相談窓口合計)

5件

(2)導入に至った経緯(複数の取組を経て導入に至ったものについては重複してカウントした)

・相談対応から導入に至った件数

4件

・試用貸出から導入に至った件数

1件

・体験展示から導入に至った件数

1件

・その他から導入に至った件数

1件

第3章 リビングラボにおける取組について

第1節 リビングラボ設置の目的

介護ロボットの開発企業が、介護現場のニーズに合うロボットを開発するためには、ロボット開発の過程で、実際の使用環境に近い模擬環境でロボットを使用して、その効果や安全性を確かめる

ことが不可欠である。実際の使用環境での利用者の生の声を基に、機器の改良や顧客となるターゲット群の見直しや価格設定の変更を行う等、開発の過程で適宜現場からのフィードバックに基づき、方針や仕様を改良していくことが必要となる。

リビングラボは、ネットワーク化することで、それぞれの強みを活かした相談を受けることが可能となる等、模擬生活環境や、測定機器、専門職によるアドバイスを基に、開発企業から持ち込まれた製品の安全性や効果の検証及び、実証の支援を行い、開発企業にフィードバックをすることを目的として設置された。

第2節 リビングラボにおける取組

(1)開発企業からの相談対応

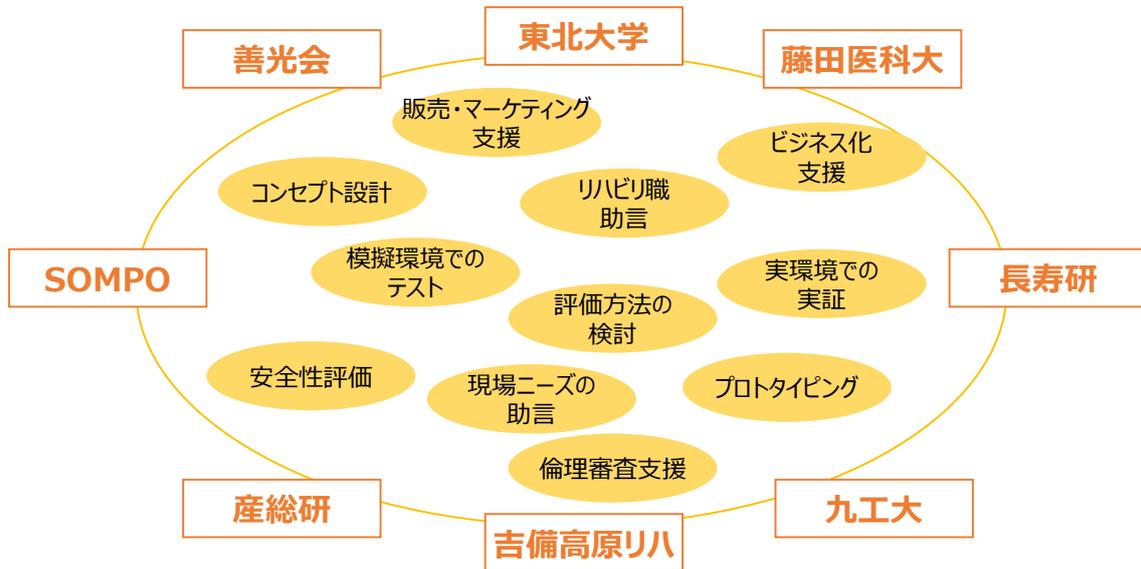
リビングラボは、開発企業からの相談に対して「製品評価・効果検証」と「効果検証に係る助言」を主な取組として実施した。本事業では、「製品評価・効果検証」と「効果検証に係る助言」を以下の様に整理した。

図表 3-1 「相談対応」と「ラボ検証」と「実証支援」の違い

	概要	試験環境	試験実施者
相談対応	・ 打合せや電話対応等の話し合いを主な実施事項とし、ラボの機材や環境を用いないで、対応したもの	N/A (使用しない)	N/A (実施しない)
ラボ検証	・ リビングラボの施設や設備を利用して対応したもの ・ 仮に、製品が実際の利用者に使用された場合の効果を検証したもの ・ 実際の利用者が対象ではないもの(健常者を対象)	リビングラボ等の安全性が確保された模擬環境	評価・検証に必要な専門知識を有した者
実証	・ 製品を実際の利用者に実際の利用環境で使用していただき、効果検証や改善点の導出を行ったもの	介護施設等の当該製品が実際に使用される環境	実際のユーザー

本事業に携わるリビングラボはそれぞれ異なる強みや特徴を有しており、製品に至る前段階でのコンセプト設計に対する相談や、プロトタイピングを行うリビングラボもあれば、倫理審査支援や販売・マーケティング支援等の相談対応を実施した。必ずしも「ラボ検証」「実証支援」に限定されない取組も実施した。なお、開発企業からの相談には、相談窓口からの取り次ぎによるもの、開発企業から直接の問い合わせによるもの、ニーズ・シーズマッチング支援事業からの紹介によるものがあった。

図表 3-2 8つのリビングラボが有する機能の全体イメージ



(2)会議体への参加

また、リビングラボは開発企業からの相談対応の他に後述する年3回開催の「リビングラボネットワーク定例会議」、年2回開催の「相談窓口・リビングラボネットワーク連絡会議」へ参加し、支援事例の共有等を行った。

第3節 各リビングラボの概要

リビングラボネットワークを形成する8つのリビングラボは、それぞれが異なる特徴を有している。3D プリンタやレーザーカッター等を揃え充実したプロトタイピング環境を備える施設や、リハビリテーション科専門医やセラピストが実生活環境を模した施設で実際のロボットを活用しながらアドバイスを行う施設、安全性評価やリスクアセスメントに強みを持つ施設、実際の介護現場を複数運営し、介護現場での介護ロボットの実証支援や、介護現場目線でのアドバイスに強みを持つ施設が参画した。

以下に各リビングラボの名称、所在地、WEB サイト URL、コンセプト・特徴、可能な支援内容を示す。

(1)東北大学青葉山リビングラボ

所在地	〒980-8579 宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉 6-6-01 東北大学大学院工学研究科機械系共同棟 5 階
URL	http://srd.mech.tohoku.ac.jp/ja/living-lab/

<p>コンセプト・特徴</p>	<p>次世代介護を実現する新しい介護ロボットの創出</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 次世代介護ロボットの研究開発を行っている国内外の研究者との連携により、社会実装を前提とした取り組みを支援 ・ 複数の介護ロボットやセンサーシステムとの連携により、1 台の介護ロボットに限定しない協調型介護支援システムの構築を支援 ・ トイレ、風呂、キッチン等を有した介護施設模擬環境や、階段、スロープ、荒れ地等の屋外模擬環境を整備予定 ・ VR やプロジェクタ等を利用した動的環境を模擬した介護ロボット評価システムを整備予定
<p>具体的な支援内容 (得意とする支援)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ モーションキャプチャ、床反力計等を利用した介護支援動作、被介護者動作、介護ロボット動作等の 3 次元計測・解析 ・ 模擬環境を利用した開発システムの環境適合性評価 ・ 他の介護ロボットや次世代介護ロボットとの連携検証評価 ・ 3D プリンター等を利用したプロトタイプ開発支援 ・ 県内外の介護施設と連携した実証実験のコンサルティング

(2)Care Tech Lab (株式会社善光総合研究所)

所在地	〒144-0033 東京都大田区東糞谷六丁目 4 番 17 号
URL	https://zenkou-lab.co.jp
コンセプト・特徴	実績豊富な『考えられる現場』・善光会と連携するラボ <ul style="list-style-type: none">・ 年間 50 件以上の企業様からのお問い合わせあり・ 企画・開発・実証の全てのフェーズにおいて、企業様ごとにオーダーメイドでご支援を設計
具体的な支援内容 (得意とする支援)	<ul style="list-style-type: none">・ 介護現場のニーズに合った製品・サービスを開発するための企画支援・ 開発企業持ち込み企画に対する介護現場目線での評価及びブラッシュアップ・ 業界の既存製品・サービスの全体的な動向に関する情報提供・ 効果的な実証を実施するための実証計画等策定・ 製品品質や性能向上のためのフィードバック

(3)Future Care Lab in Japan (SOMPO ケア(株))

所在地	〒140-0002 東京都品川区東品川 4-13-14 グラスキューブ品川 10 階
URL	https://futurecarelab.com/
コンセプト・特徴	<p>介護サービス運営実績に基づく現場ニーズの収集</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 食堂・風呂・介護施設の居室を再現し、人間とテクノロジーの共生をしながら新しい介護のあり方を追求する研究所 ・ 在宅介護から施設介護までフルラインナップで運営しているため、現場ニーズをダイレクトに収集可能 ・ 現場実証を通じて、介護ロボット実装の際に起きうる課題や懸念点の洗い出しが可能 <p>デンマークの ATAT を参考にした指標での評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ デンマークの ATAT(※)は、障害者支援機器の導入検討時に使用される評価フレーム ・ この ATAT を参考に、ヒアリング、アンケート等を活用して以下を定量的・定性的に評価 ・ 製品の精度・安全性・ケアの品質・介護士の業務負担・費用対効果 <p>(※)ATAT: Assistive Technology Assessment Tool</p>
具体的な支援内容 (得意とする支援)	<ul style="list-style-type: none"> ・ デンマークの介護ロボット評価指標を参考に、「製品の精度・安全性」「ケアの品質」「介護士の業務負担」「費用対効果」の視点から、ヒアリング、アンケート等を活用して定量的かつ定性的に評価する。介護施設を模した当リビングラボにて製品を試験的に使用し、評価・効果検証を行う。また、実際の弊社介護施設内でも同様に評価、検証を行う。 ・ また、製品によっては、入居者の活動量・食事量、睡眠データ等の分析を行い、入居者の状態がどのように変化していったのかも評価、検証する。

(4) 柏リビングラボ ((国研) 産業技術総合研究所)

所在地	〒277-0882 千葉県柏市柏の葉 6-2-3 東京大学柏 II キャンパス内 社会イノベーション棟
URL	https://unit.aist.go.jp/harc/arrt/K-LivingLab.html
コンセプト・特徴	<p>模擬生活環境の活用と介護関係者からの意見収集によるロボットの効果・性能評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ キッチン、風呂、トイレ等を含む模擬生活環境や、温度湿度を調整できる人工気候室を保有している。 ・ これまでのロボット介護機器開発・導入プロジェクトにおける多くのメーカーへの開発支援を通じて、ロボットの安全性や効果・性能の評価に関して取り組んできた。 ・ 多様な意見を集めるため、介護ロボットの研究者に加えて、柏地域の介護関係者および住民参加型のワークショップを開催する。
具体的な支援内容 (得意とする支援)	<ul style="list-style-type: none"> ・ リスクアセスメントシート等での機器のコンセプトや安全性の確認 ・ 模擬生活環境や人工気候室を用いた環境適合性の評価検証 ・ 高齢者模擬ロボットやモーションキャプチャ装置を用いた動作の模擬計測 ・ 介護関係者および住民参加型のワークショップにおける意見聴取 ・ 介護現場における評価実施に向けた計画立案支援

(5)ロボティクススマートホーム・活動支援機器研究実証センター(藤田医科大学)

所在地	〒470-1192 愛知県豊明市沓掛町田楽ケ窪 1 番地 98 藤田医科大学病院内
URL	https://www.fujita-hu.ac.jp/rsh-aat/
コンセプト・特徴	実環境を模した実証研究施設 <ul style="list-style-type: none">・ 高齢者世帯が生活する実環境を模した実証研究施設で、長寿社会に適した住まいの開発を目指す。・ 介護・医療現場を熟知したリハビリテーション科専門医や理学療法士、作業療法士、リハビリテーション工学士が、随時相談可能。・ 複数の評価・解析機器が整備されており、実証環境の紹介や実証試験も相談可能。
具体的な支援内容 (得意とする支援)	<ul style="list-style-type: none">・ 介護現場のニーズの反映方法に関する助言・ 利用効果の科学的な実証に関する助言・ 実証時に取得が必要なデータとその分析方法に関する助言・ 倫理審査に関する助言・ 実証環境、計測解析機器の紹介

(6)健康長寿支援ロボットセンター((国研)国立長寿医療研究センター)

所在地	〒474-8511 愛知県大府市森岡町 7-430
URL	https://platform.ncgg.go.jp/
コンセプト・特徴	<p>ナショナルセンターとして高齢者医療・介護・生活にロボットを適合</p> <p>国立長寿医療研究センターは日本にある 6 つの国立高度専門医療研究センターの一つ。健康長寿支援ロボットセンターはそのセンター内センターとして、高齢者の生活や活動を支えるロボットを医療・介護・生活の場に普及するための拠点として、開発者のシーズを生活の場に適合させるための評価研究を実施している。</p> <p>介護効率の分析・介護負担軽減効果の実証</p> <p>AMED 事業「介護ロボットの評価方法の標準化事業」では、動線解析による介護効率の分析や、介護ロボットの腰部への負担軽減効果の実証を行なった。その後も、移乗支援・移動支援・コミュニケーション等、様々な介護ロボットの導入効果について実証研究を行っている。</p>
具体的な支援内容 (得意とする支援)	<p>介護ロボットおよび ICT 技術は、それが役に立つシーンで使われなければ、実効性を示せません。このため製品評価は、その長所を探り、それがどのような状況で使われれば役に立つのかを、開発企業と一緒に考えるところから始まります。また、効果検証の場もそのことを前提にして選定する必要があります。このため、その製品が真に力を発揮できることを重視しつつ、その実証を行います。</p>

(7)ロボット活動支援機器実証センター(吉備高原医療リハビリテーションセンター)

所在地	〒716-1241 岡山県加賀郡吉備中央町吉川 7511
URL	https://www.kibirihah.johas.go.jp/003_reha/16_kaigo_robo.html (独)労働者健康安全機構 ロボット活動支援機器実証センター(吉備高原医療リハビリテーションセンター) 内のページ
コンセプト・特徴	リハビリテーション専門職員によるロボットの臨床効果の検証 <ul style="list-style-type: none"> ・ ロボット活動支援機器実証センター(吉備高原医療リハビリテーションセンター)は、回復期リハビリテーション後の社会復帰までの医療を担当するリハビリテーション専門病院で、社会復帰に必要な生活環境の整備や福祉機器の開発、脊髄再生医療を視野に入れたロボティクスを用いたリハビリテーション治療を行っている。 ・ 脊髄損傷のリハビリテーション科専門医、理学療法士、作業療法士、医用工学研究員による、様々な福祉機器の臨床的評価が可能。
具体的な支援内容 (得意とする支援)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 脊髄損傷者のリハビリ専門医師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士による、臨床現場での使用可能性の評価、製品化や安全性に関する評価、改良点等の助言 ・ 模擬生活環境(トイレ、風呂等)を用いた、機器の整合性の評価 ・ 医用工学研究員による工学的な技術を用いた定量的な評価 ・ 安全性が担保された機器について、リハビリ臨床現場で実際に使用することによる実証評価

(8)スマートライフケア共創工房 ((大)九州工業大学)

所在地	〒808-0135 福岡県北九州市若松区ひびきの 2-5 情報技術高度化センター
URL	https://slc3lab.jp/
コンセプト・特徴	<p>当事者参加型のアイデア出し、評価実験、プロトタイピングを実施可能</p> <p>被介護者(高齢者や障がい者)や介護者(介護福祉士、理学療法士、作業療法士、介護施設経営者)等当事者の協力をアイデア段階から得ることが可能。また、模擬環境で介護者・被介護者が同時にモーション、筋電位、足裏圧力分布等を計測することが可能で、更に筋骨格モデルを用いた筋活動推定やウェアラブル脳活動計測装置活用のご相談にのることも可能。また、大型の光造形式 3D プリンタや、大型のレーザーカッター、またトルク制御可能なロボットモジュール等、プロトタイピング環境も備える。</p> <p>介護施設での大規模実証も相談可能</p> <p>実験は共創工房内の基礎的かつ精密なものだけでなく、北九州市内の介護施設における製品の大規模実証実験の相談も可能。</p>
具体的な支援内容 (得意とする支援)	<ul style="list-style-type: none"> ・ モーションキャプチャ(装着式・非装着式)、筋電位信号計測装置、インソール型足圧分布計測装置、視線計測装置等を使った介護動作の計測と、介護ロボットの有用性検証 ・ 3Dプリンター等を活用した、素早いプロトタイプ開発 ・ 介護施設を実証フィールドとした実証実験のコンサルティング ・ 介護 IT インストラクター人材育成

なお、上記 8 つのリビングラボを本事業では、「基幹型」リビングラボと呼称した。他方、リビングラボネットワーク定例会議にのみ参加する組織である「支援型」リビングラボとして、以下の7つの組織が参画した。

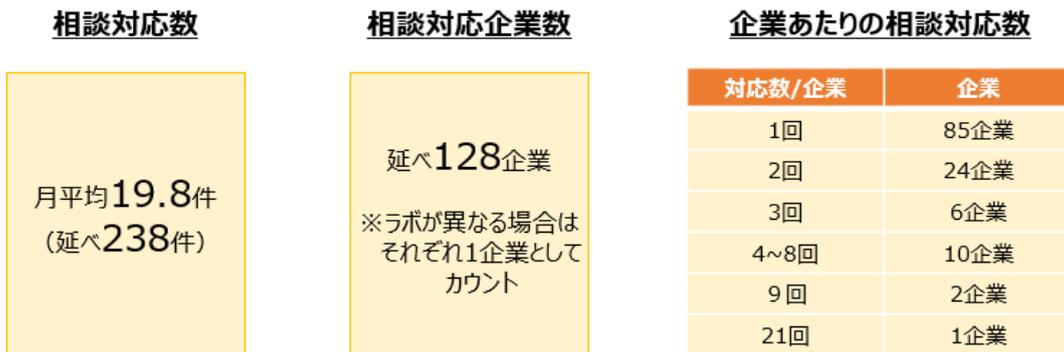
- 社会福祉法人 孝徳会
- 社会福祉法人 こうほうえん
- 公益社団法人 全国老人保健施設協会
- 東北福祉大学・社会福祉法人東北福祉会
- 徳島文理大学
- 北陸大学
- 株式会社 ベネッセスタイルケア

第4節 各取組について

第1項 相談対応

8つのリビングラボの月平均の相談対応数は19.8件であり、延べ238件(3月17日時点。以下同様とする)となった。128企業の相談に対応し、そのうち43企業に対して、リビングラボは複数回の相談対応を行った。

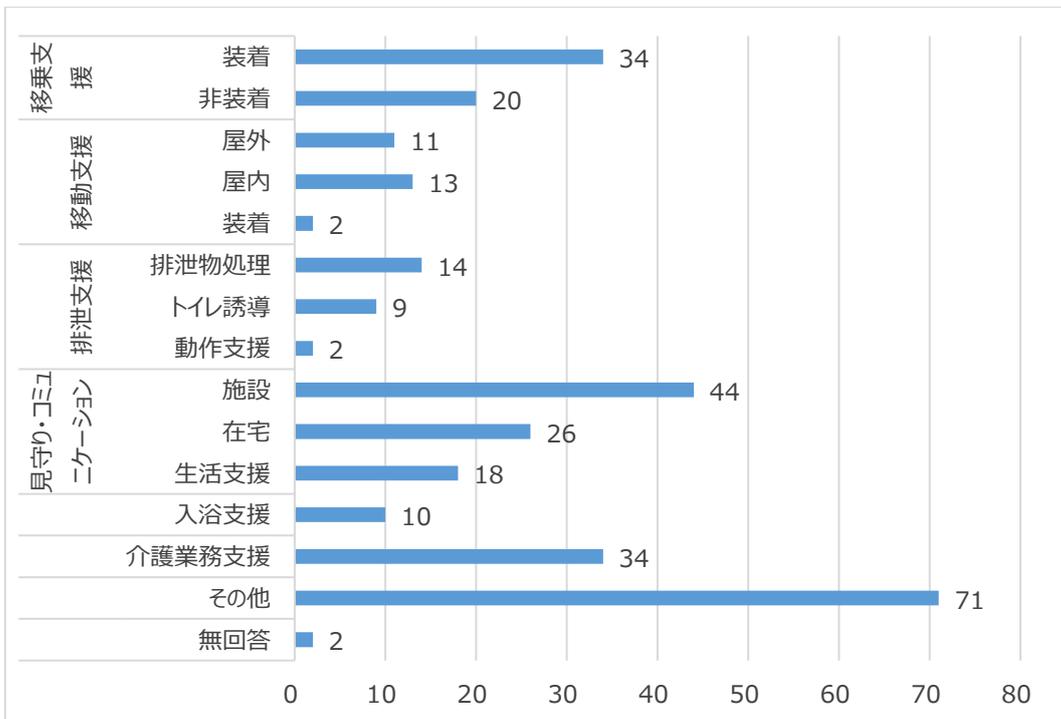
図表 3-3 リビングラボにおける相談対応実績



相談対応を行った企業が開発中・検討中のロボットの分野は、「その他」を除くと、「見守り・コミュニケーション(施設)」が最も多く、次いで「移乗支援(装着)」、「介護業務支援」が多かった。

図表 3-4 開発中・検討中のロボットの分野

n=238(複数回答)



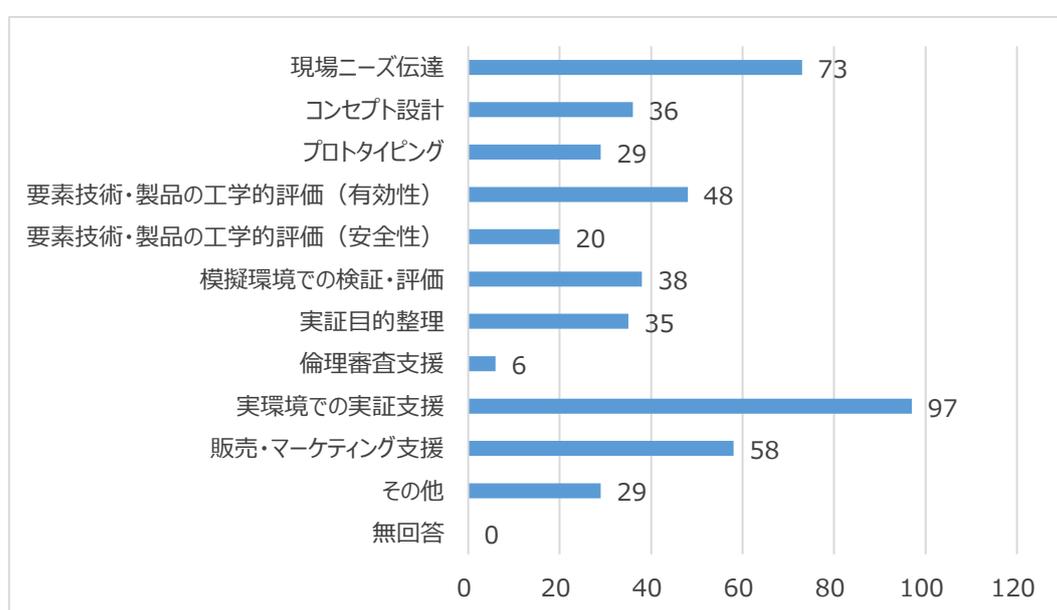
「その他」の内容(抜粋・一部加工)

- ・ 服薬支援
- ・ 食事介助
- ・ 介護職員のシフト作成支援
- ・ 配薬確認

相談目的としては、「実環境での実証支援」「現場ニーズ伝達」「販売・マーケティング支援」が特に多かった。

図表 3-5 ラボへの相談目的

n=238(複数回答)



企業の相談内容等(抜粋・一部加工)

【実環境での実証支援】

- ・ 開発中の機器を介護領域で普及していくため、どのような改良が必要か把握したい。
- ・ 介護現場で機器の有効性を確かめたい。

【現場ニーズ伝達】

- ・ 所有技術を活用して開発した機器を介護の現場においても使用可能か調査したい。
- ・ 開発中の製品について、介護業界におけるニーズ調査を行いたい。

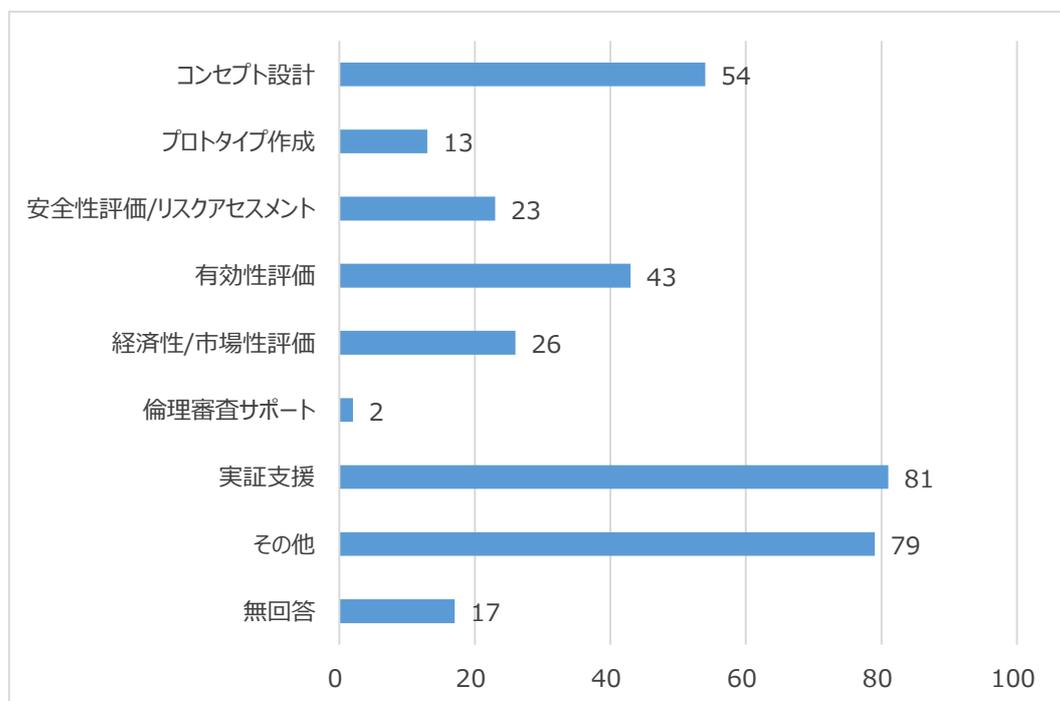
【販売・マーケティング支援】

- ・ 上市前の製品について、介護現場の方の意見を聞きたい。
- ・ 上市済の製品について、プロモーションを実施する場合の訴求ポイントについて助言をいただきたい。

リビングラボの対応内容は、「実証支援」「コンセプト設計」「その他」が特に多かった。

図表 3-6 リビングラボの対応内容

n=238(複数回答)



リビングラボの対応内容等(抜粋・一部加工)

【実証支援】

- ・ 実証へ向けた準備として利用対象者の整理を行った。
- ・ 実証へ向けて評価項目や評価基準についての議論を行った。

【コンセプト設計】

- ・ 現場ニーズの伝達を行い、機能の拡充等、改良について助言を行った。
- ・ 販売時のプロモーションの工夫について助言を行った。

「その他」の内容

- ・ 海外の展示会における、プレゼンテーションやブースでの対応の留意点について助言を行った。
- ・ リビングラボが主催するイベントで製品を紹介した。

第2項 ラボ検証

ラボ検証については、8つのリビングラボの月平均の案件数は1.2件、対応件数は1.2件であり、延べ数はそれぞれ14件、14件となった。企業数は11企業であった。

図表 3-7 リビングラボにおけるラボ検証対応実績

ラボ検証実施案件数	ラボ検証対応数	検証対応企業数	企業あたりの検証対応数	
月平均1.2件 (延べ14件)	月平均1.2件 (延べ14件)	延べ11企業	対応数/企業	企業
			1回	9企業
			2回	1企業
			3回	1企業

検証内容詳細(抜粋・一部加工)

- ・ 模擬環境において、医師や理学療法士が試作品を使用し、有効性の評価を行った。
- ・ 模擬環境において、介護職員が機器を使用し、フィードバックを行った。
- ・ 模擬環境において、ラボのスタッフが使用し、機器の改良点について指摘・助言を行った。

第3項 実証支援

8つのリビングラボの月平均の実証に関連する相談対応の件数は14.5件であり、延べ174件となった。これらの支援は、延べ89企業に対して行った。実際に実証を実施したのは8企業、今後実証を予定している企業は1企業である。

図表 3-8 リビングラボにおける実証等の件数

実証に関連する相談対応数	実証に関連する相談対応企業数	実証件数	実証実施企業数	実証予定企業数
月平均14.5件 (延べ174件)	延べ89企業	10件	8企業	1企業

実証内容(抜粋・一部加工)

- ・ 試作機を導入が想定される実環境にて試用し、データ収集のうえ介護記録と整合性を確認し、有効性があるか検証を行った。
- ・ 機器を使用して機能訓練を行い、計測したデータを基に利用者への効果、職員のデータ分析業務について調査を行った。

第4項 リビングラボネットワーク定例会議

開発企業に対して一貫した支援を実施するために、本年度は、リビングラボネットワーク定例会議と、後述のニーズ・シーズマッチング検討会を一体的に開催した。

詳細については、ニーズ・シーズマッチング検討会の項にて記載する。

第5項 リビングラボでの支援事例

以下にリビングラボでの支援事例を示す。

図表 3-9 リビングラボでの支援事例①

相談者	<ul style="list-style-type: none"> ・ 主な事業内容: 自動認識装置、産業用ロボット、プログラマブルコントローラ、IoT 等の機器やシステムの開発・製造・販売 ・ 開発中の機器: 業務スケジュール管理・見える化(割り振り)、ケア記録、日報作成等の「業務時間削減」及びケア進捗の共有、業務分析等による「業務改善支援」の機能を有するシステム開発を検討している。 ・ 開発フェーズ: プロトタイプ段階
相談内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現場視点での課題感(広く存在するか? 時間/お金をかけて解決したか?) ・ コンセプト評価(現場で使えるか? 本当に嬉しいか?) ・ ニーズ/必要機能(どんな事業者ニーズがあるか? 検討すべき追加機能は?)
リビングラボ① (国立長寿医療研究センター)での対応内容	良いソリューションでも多大な初期投資(時間や労力を含め)を要するシステムは、導入が困難であることを伝えるとともに、介護事業所の働き方を紹介した。
連携の経緯・理由	これまでは通所系の事業所と連携し、開発を進められてきたが、入所系の事業所の特徴やオペレーションに関する情報・ニーズも把握したいとのことであった。そのため、善光総合研究所、SOMPO ケアを紹介した。
リビングラボ② (善光総合研究所)での対応内容	介護ソフトに求められる機能や UI について、通所向けと入所向けでどう違うかについてお示しした。また、入所施設の業務内訳についてお示しするとともに、業務時間調査の一般的な実施方法について共有した。
リビングラボ③ (SOMPO ケア)	入所系の事業所における業務オペレーションや記録に関する内容を伝えた。伴走がないと導入が難しい可能性がある点や、既設の請求シ

での対応内容	システム等と連携することができる等あれば、導入の幅は広がるのではないか等、開発の方向性について助言した。
連携の結果	複数のリビングラボでのヒアリング結果を踏まえ、ソリューション開発の進め方・計画を以下の通り決定した。 <ul style="list-style-type: none"> ・ソリューションの1st ターゲットを通所系に絞り込み ・ヒアリングした業務時間調査や実証実験の実施方法を踏まえ、計画を策定・連携先と合意（9月下旬:業務時間調査(1週間)、10月下旬～:実証実験(2か月)を予定)

第6項 実証フィールドに対する取組

実証フィールドの活用時、円滑に実証実施施設を選定し、実証につなげられるように、実証フィールド登録施設に対して事業説明会とアンケートを実施した。

(1)事業説明会の実施

実証フィールド登録施設が、本事業についてより理解し、実証の相談があった際に協力しやすくなるよう、事業説明会を実施した。説明会の実施概要は以下のとおり。

図表 3-10 実証フィールド登録施設向け事業説明会開催概要

開催日時/形式	令和6年11月15日(金)15:00-15:30 WEB開催
アジェンダ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 介護現場の生産性向上に関する厚生労働省の施策について 2. 介護ロボットプラットフォーム事業の全体像 <ul style="list-style-type: none"> ・介護現場への介護ロボット等の導入・活用支援 ・介護現場のニーズを汲み取った介護ロボット等の開発支援 3. 介護ロボット開発における実証の事例 4. 実証へのご協力をお願い

(2)アンケートの実施

リビングラボが、実証実施施設を選定する際に参考となる情報を取得するため、実証フィールド登録施設に対してアンケートを実施した。主なアンケートの調査項目は以下のとおり。

- ・現在、活用している介護ロボット・ICT機器の分野・項目
- ・今後、活用してみたい介護ロボット・ICT機器の分野・項目
- ・介護ロボット・ICT機器開発について、協力が可能な内容
- ・介護ロボット・ICT機器開発への協力について、興味・関心がある分野
- ・介護ロボット・ICT機器開発への協力について、今後、特定の開発企業と継続的な協力関係を結ぶことに対する興味・関心

第7項 「2025年日本国際博覧会」における展示の企画

「2025年日本国際博覧会」(以下、「大阪・関西万博」とする。)において、介護ロボット等に関する効果的な情報発信を行うための展示の企画、展示ブースの設計を行った。

(1) 検討ワーキンググループの設置

介護ロボット等や介護現場の知見を踏まえて展示ブースのコンセプトを検討するために、「大阪・関西万博における介護ロボット展示検討ワーキンググループ」(以下、「検討ワーキンググループ」とする。)を設置した。構成員は以下のとおり。

図表 3-11 検討ワーキンググループ構成員一覧

(敬称略、50音順)

氏名	ご所属・役職
井伊 卓真	藤田医科大学 保健衛生学部 リハビリテーション学科 理学療法士
小原 裕一	社会福祉法人 大分県社会福祉協議会 大分県社会福祉介護研修センター
滑川 永	社会福祉法人善光会 サンタフェ総合研究室 研究員 株式会社善光総合研究所 Care Tech Lab 所長
芳賀 沙織	SOMPO ケア株式会社 Future Care Lab in Japan 副所長 主任研究員

また、年度内に2回の検討ワーキンググループを実施した。各回の開催概要は以下のとおり。

図表 3-12 第1回検討ワーキンググループ開催概要

開催日時/形式	令和6年6月11日(火) 14:00-15:00 WEB 会議
アジェンダ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 開会の挨拶 ・ 自己紹介 ・ 情報提供: 検討において考慮すべき条件等 ・ 情報提供: 関連する調査研究結果等 ・ ブレインストーミング ・ まとめと今後の進め方について

図表 3-13 第2回検討ワーキンググループ開催概要

開催日時/形式	令和6年9月27日(金) 10:00-12:00 WEB 会議
アジェンダ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 開会の挨拶および情報共有 ・ 以前の議論の振り返りおよびコンセプト案について ・ コンセプト案の具体化について ・ 閉会の挨拶

(2) 展示ブースコンセプトの決定

検討ワーキンググループの議論および構成員へのヒアリングの結果、訴求すべき日本の介護のあり方、および大阪・関西万博で伝えたいメッセージとして以下の要素を抽出した。

【日本の介護のあり方】

- ・ 大事なことは利用者の「自分らしさの確保」
- ・ 利用者の喜びが現場のやりがいになる

【大阪・関西万博で伝えたいメッセージ】

- ・ 利用者と現場双方のヒューマンセントリック
- ・ 「多様な生き方」に資する日本の介護テクノロジー
- ・ 利用者と現場の交流から生まれる「物語の豊かさ」

これらの要素を統合し、展示ブースのコンセプトを「いつでも自分らしく生きる」Live Fully, Pursue Happiness と設定した。

(3) 展示ブースのデザイン

展示ブースでは、リビングラボネットワークの有識者による議論を踏まえて作成したストーリーに沿って、介護ロボット等を展示することとした。

具体的には、2名の主人公を設定し、大阪・関西万博が開催される令和7年を起点として、現在・5年後・10年後・15年後の各年代において、主人公毎に各年代で発生した課題等を解決するための介護ロボット等を展示することとした。

図表 3-14 展示で表現されるストーリー(案)

ターゲット：シニア層（家族介護者→被介護者）



吉田剛さん

現在は会社の管理職として活躍中。65歳の定年後を意識しはじめ、70歳までの継続雇用制度を使う予定。
趣味は妻とのショッピングで、月に1回は出かけている。自宅で同居する父の身体機能が低下してきているのが気になっている。



■現在 63歳

同居の父の身体機能低下が顕著になってきましたが、一部在宅で介護を行なっています。温泉が好きな父のため、身体的な負担が少なく自立して入浴できる「入浴支援機器」を導入し、自宅での入浴が行えています。

■5年後 68歳

父の身体機能の低下に加え、認知症診断を受けたことから、専門職とも対応を相談し、施設系介護サービス事業所への入所を決めました。入所施設の決め手は、「見守り機器」を活用していて、離れていても父の状態や状態の変化等を確認できるところです。

■10年後 73歳

自分自身も身体的に困難な状態が増え、特に起立時や長時間の歩行に痛みが生じる状態に。しかし、装着型の「移動支援機器」を身につけることで数時間であれば単独での外出も可能です。妻と共にショッピングにもでかけられています。

■15年後 78歳

身体的状況が悪化し、施設に入所しましたが、自律型の「車椅子ロボット」とスタッフのサポートもあり、数年振りに妻とショッピングに出かけることもできました。

ターゲット：若い層（家族&介護職）



高橋亜美さん

都市部の集合住宅で夫と未就学の子供二人（長女・長男）と4人暮らし。介護職として特別養護老人ホームに勤務している。出身は農村部で実家には両親が暮らしているが、帰省は年に1～2回。



■現在 36歳

自身の勤務先で「介護記録ソフト」が導入され、今まで手書きで記入していた記録（※）を音声入力ですばやく入力できるようになりました。さらに、ご利用者の情報をソフトで収集・蓄積することにより分析が可能になり、よりご利用者それぞれに合ったケアができるようになりました。
※展示ブースでは、ボード（パネル）で介護記録の作成義務を補足

■5年後 41歳

お正月に実家へ帰った時に両親の老いを感じ、日常的なコミュニケーション不足が不安に。安否確認も兼ねて少しでも話ができるように「コミュニケーションロボット」をプレゼント。ロボットとの会話が刺激になっているほか、ロボットを通して子どもたちとも楽しそうに話す両親には生活に「ハリ」が出てきたように感じています。

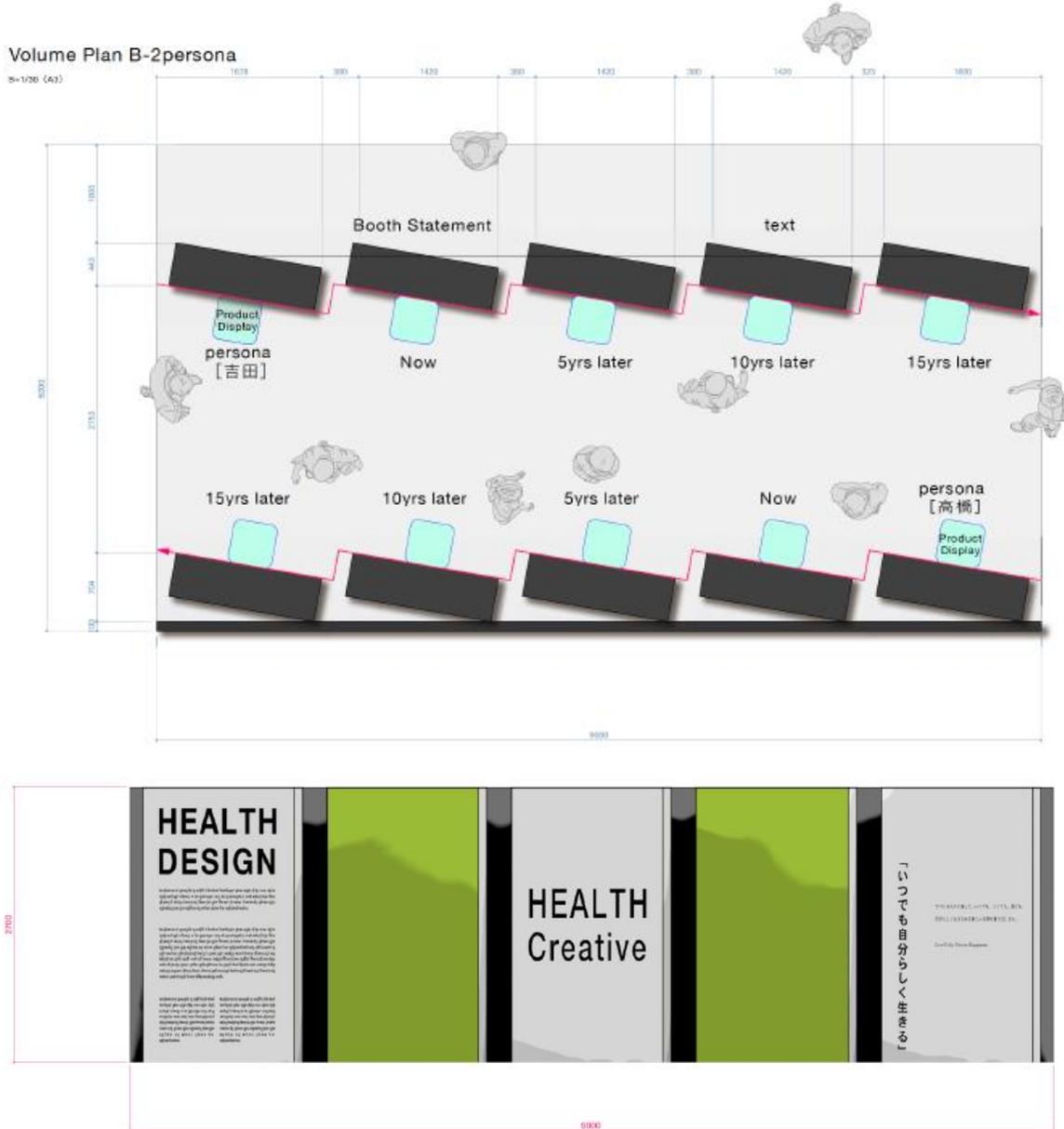
■10年後 46歳

自身の勤務先で自立支援強化のプロジェクトリーダーに抜擢。ご利用者の訓練を体系的に支援してくれる「機能訓練支援システム」を導入。今まで人員数的に諦めていた面もありましたが、これまでと同じ人数でも効果的に訓練を行え利用者の自立度向上が目に見える形であがりました。在宅復帰して家族とともに暮らせる人も増えました。また、勤務先には中学生になった子供たちが訪れ、システムを体験しています。

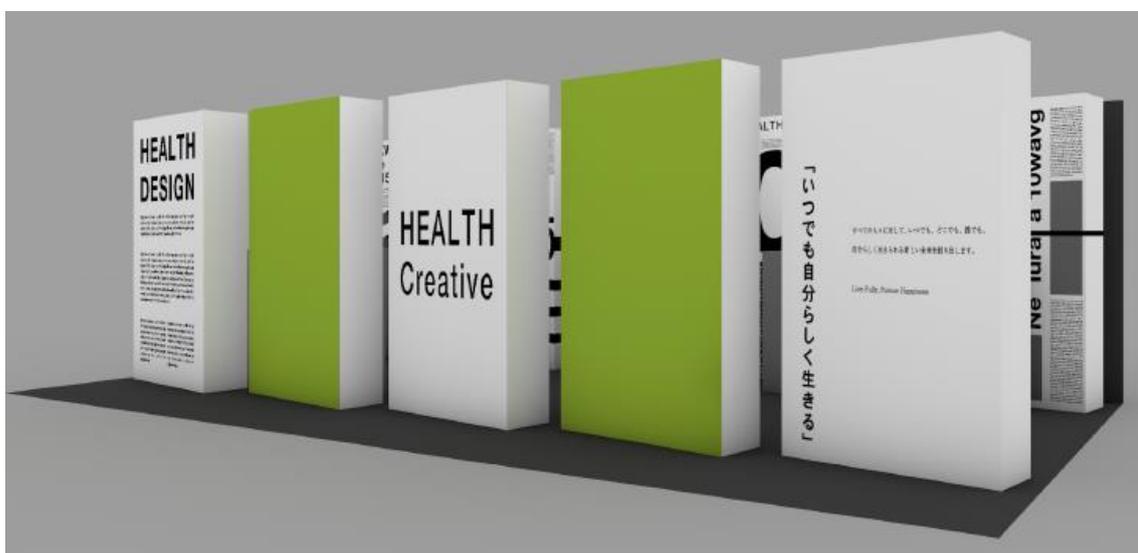
■15年後 51歳

職場で責任ある立場になり、夫と共に家を空ける機会が増えました。田舎の両親はデイサービスを利用しているものの健在で、「アバターロボット」を通して、長女の大学の学園祭や、長男の高校の部活動の試合観戦などに参加しています。両親は家族として役割があることが嬉しそう。小さいころからコミュニケーションしていたので子どもたちもお互いに抵抗感なくやりとりできているようです。

図表 3-15 展示ブースの平面図(案)



図表 3-16 展示ブースのパス(案)



(4) 展示機器の公募

上記のストーリーに沿った展示機器の公募を実施した。その後、リビングラボネットワークの有識者による採点を経て、展示機器を以下のとおり決定した。

図表 3-17 展示機器の公募概要および選定結果

公募期間	令和7年2月4日(火)-2月21日(金) 令和7年2月25日(火)-2月28日(金) (再公募)
応募数	46 製品
展示機器 (応募企業)	<ul style="list-style-type: none">・ 認知症対応型 LOVOT with DeCaAI(株式会社ゲオム)・ 自律型車椅子ロボット(東北大学 大学院工学研究科 平田研究室)・ HitomeQ ケアサポート(コニカミノルタ株式会社)・ 装着型歩行練習装置(オージー技研株式会社)・ 入浴支援機器(酒井医療株式会社)・ AI 音声対話型デジタルヒューマン(AI 由美かおる)(株式会社 FM)・ 屋内エンタメ運動ソリューション テレさんぽ(パナソニック エンターテインメント&コミュニケーション株式会社)・ 安診ネット カイゴ DX(芙蓉開発株式会社)

第4章 ニーズ・シーズマッチング支援事業について

第1節 マッチング支援事業の目的と支援内容

(1)背景と目的

本事業では、令和4年度に実施した取組内容を踏まえ、引き続き介護現場における課題(ニーズ)と、介護ロボット開発に携わる企業等が保有する製品や初期段階の試作機、要素技術等(シーズ)のマッチング、シーズ同士のマッチングを支援し、開発企業等自身への気づきを与え、介護現場の真のニーズを汲み取った介護ロボットの開発やその利活用方法に結びつけることを目的に、ニーズ・シーズマッチング支援事業を実施した。

(2)支援内容

本事業では、介護現場の課題を開発企業が理解しやすいように整理、リスト化した上で一般公開を行った。その上で、企業がマーケット情報を収集するためのフィールド等を紹介することで、企業の参入検討・開発・製品の普及を支援した。また、介護ロボットの上市を目指している、または上市済の製品を持つ開発企業に対して、介護ロボットの販売・アフターサービス等を行っている事業者の紹介・取次を実施した。

(3)マッチング支援

マッチング支援は以下の3つを行った。

- ① ニーズリストを介したニーズの紹介、取次
- ② 実証・検証に関わる相談及びフィールド(介護施設・リビングラボ等)の紹介
- ③ 製品、技術を有する開発企業、製品の普及・活用促進を行う企業の紹介、取次

(4)実施体制

本事業の目的を達成するために、以下の実施体制を構築した。

- ① マッチングサポーター
- ② ニーズ・シーズマッチング検討会(以下、「マッチング検討会」という。)
- ③ ①、②を取りまとめる事務局

①マッチングサポーター

介護現場や介護ロボット等の製品知識や経験を有している有識者をマッチングサポーター(以下、サポーター)として配置した。

図表 4-1 マッチングサポーター(ニーズ側)一覧

(敬称略、50音順)

氏名	ご所属・役職
泉 博之	日本製鋼所 M&E 株式会社 室蘭製作所 事業推進室 事業企画グループ 担当部長 (産業医科大学産業衛生教授)
大内 英之	社会福祉法人埼玉県社会福祉協議会 介護すまいる館 介護ロボットアドバイザー
逢坂 大輔	ロボタスネット株式会社 代表取締役
川上 理子	高知県立大学看護学部 准教授
砂 亮介	株式会社介社塾 代表取締役
関川 伸哉	東北福祉大学 総合マネジメント学部情報福祉マネジメント学科 教授
高橋 真	国立大学法人広島大学大学院 医系科学研究科 教授
田中 勇次郎	一般社団法人東京都作業療法士会 会長
樽本 洋平	麻生教育サービス株式会社北九州支店 介護福祉ソリューション課 課長
時本 ゆかり	大阪人間科学大学人間科学部社会福祉学科 教授
長尾 哲男	長崎北病院 非常勤作業療法士
福元 正伸	兵庫県立福祉のまちづくり研究所 介護ロボット開発支援・普及推進・研 修センター課 主任
藤田 賢太郎	鹿児島医療技術専門学校 作業療法学科 副学科長
古川 和稔	東洋大学 福祉社会デザイン学部社会福祉学科 教授
宮永 敬市	北九州市保健福祉局 地域リハビリテーション推進課 課長
山田 太一	医療法人健康会介護老人保健施設アイリス リハビリテーション科 科長 兼 通所リハビリテーションアイリス 責任者
湯本 晶代	国立大学法人千葉大学大学院看護学研究院 地域創成看護学講座 助教
吉満 孝二	国立大学法人鹿児島大学医学部保健学科 助教

図表 4-2 マッチングサポーター(シーズ側)一覧

(敬称略、50音順)

氏名	ご所属・役職
梶谷 勇	国立研究開発法人産業技術総合研究所 人間拡張研究センター生活機能ロボティクス研究チーム 主任研究員
琴坂 信哉	国立大学法人埼玉大学大学院 理工学研究科 人間支援・生産科学部門 准教授

三枝 亮	神奈川工科大学 創造工学部ロボット・メカトロニクス学科 准教授
相良 二郎	神戸芸術工科大学 名誉教授 有限会社住まいと道具研究所 代表取締役
鈴木 光久	社会福祉法人名古屋市総合リハビリテーション事業団 名古屋市総合リハビリテーションセンター 企画研究局企画研究部 主幹（ロボット等開発・普及）
関根 正樹	つくば国際大学 医療保健学部医療技術学科 教授
高橋 芳弘	千葉工業大学 工学部機械工学科 教授
田實 佳郎	関西大学システム理工学部 教授
中後 大輔	関西学院大学 工学部知能・機械工学課程 教授
中川 昭夫	大阪人間科学大学 保健医療学部作業療法学科 特任教授
浜田 利満	筑波学院大学 名誉教授 工学博士 NPO 法人日本ロボット・セラピー推進協会 理事長
平田 泰久	国立大学法人東北大学大学院 工学研究科ロボティクス専攻 教授
廣富 哲也	国立大学法人島根大学 総合理工学部知能情報デザイン学科 教授
藤澤 正一郎	徳島文理大学 理工学部機械創造工学科 教授
坊岡 正之	特定非営利活動法人結人の紬 理事長
松本 吉央	東京理科大学 先進工学部機能デザイン工学科 教授
渡辺 崇史	日本福祉大学 健康科学部福祉工学科 教授

②マッチング検討会

マッチングサポーターに加えて、介護業務の実情を十分に理解している、または介護ロボットや介護現場で使用される ICT 等の製品知識が豊富な有識者を顧問として選定し、マッチング検討会を設置した。

図表 4-3 マッチング検討会顧問一覧

(敬称略、50音順)

氏名	ご所属・役職
井堀 幹夫	国立大学法人東京大学高齢社会総合研究機構 客員研究員
岩井 広行	公益社団法人全国老人福祉施設協議会 ロボット・ICT推進委員会 委員長
小野 栄一	国立障害者リハビリテーションセンター研究所 研究所顧問
大庭 潤平	一般社団法人日本作業療法士協会 副会長
北風 晴司	一般社団法人日本福祉用具・生活支援用具協会 事務局次長
久留 善武	一般社団法人シルバーサービス振興会 常務理事

五島 清国	公益財団法人テクノエイド協会 企画部 部長
鈴木 健太	社会福祉法人友愛十字会法人本部企画部 介護生産性向上推進室長
本田 幸夫	国立大学法人東京大学大学院工学系研究科 人工物工学研究センター 特任研究員

第2節 事業ホームページの更新

開発を検討している介護ロボットの分野や開発フェーズに応じて、開発企業が適切なサポーターおよびリビングラボを探しやすくするため、事業ホームページの検索軸に「助言が可能な開発段階」と「助言が可能な介護ロボットの分野」を追加するとともに、検索対象にリビングラボを加えた。また、介護ロボットの開発フェーズや支援機関との関わり方における参考情報として、令和5年度厚生労働省老人保健事業推進費等補助金老人保健健康増進等事業「介護現場のニーズをふまえたテクノロジー開発支援に関する調査研究事業」にて作成された、「介護テクノロジー開発ガイドブック～介護現場のニーズをふまえた企画・開発・販売のポイント～【支援機関編】」の掲載も行った。

図表 4-4 ホームページ: マッチングサポーター・リビングラボ検索ページ

企業エントリー

マッチングサポーター・ リビングラボを探す

エントリー企業は、希望に応じて介護現場やロボット技術の専門家であるマッチングサポーター・リビングラボから、介護現場のニーズについて詳しく聞いたり、ロボットの開発について助言を得ることができます。

介護現場（ニーズ）に精通しているサポーターと、ロボットの技術（シーズ）に精通しているサポーターが本事業に参画しています。

🔍 助言が可能な開発段階から探す

Q 企画
業界研究
ニーズ調査
コンセプト企画
ビジネスプラン検討
マッチング・ネットワーキング

Q 開発
研究室レベルでの実証
実運用環境での実証
上市準備

Q 実証
販売戦略
営業アプローチ
導入支援
継続的改良

🔍 助言が可能な介護ロボットの分野から探す

移乗支援
移動支援
入浴支援
排泄支援
見守り・コミュニケーション
介護業務支援

図表 4-5 ホームページ:(参考)介護テクノロジー開発の共通フレームページ

(参考) 介護テクノロジー開発の共通フレーム

フェーズ	スタップ	開発企業の主なアクション		支援機関の主な関わり方				
		1	2	情報提供	アドバイス、デジタルソリューション	ネットワーク紹介	実証フィールド提供	導入体支援
企画	A 業界研究	① 介護保険制度について理解する ② 介護サービスの種類を理解する	③ 介護現場について理解する ④ 既存の製品・サービスについて理解する					
	B ニーズ調査	① 課題を深掘し分析する ② 課題の普遍性を確かめる	③ 介護業界と他業界の違いを認識する					
	C コンセプト企画	① 製品・サービスのねらいを明確化する ② 介護の全体の流れを俯瞰的に意識する	③ 介護の基本精神を意識する ④ コンセプトについて介護現場からフィードバックを得る					
開発	D ビジネスプラン検討	① ターゲットを設定する ② (事業所向け) 事業所の収益構造を理解する	③ (在宅向け) 在宅の場合の購入原資を理解する ④ 上市後を見据えた体制を構築する					
	E マッチング・ネットワーク	① 生産企業との関係性を構築する ② 開発領域の開発企業との関係性を構築する	③ 有識者との関係性を構築する					
	F 研究室レベルでの実証	① 現場での実証が可能な水準まで機能性を上げる ② 実際の利用者以外を対象として検証する	③ 機能を限定して検証する					
販売	G 実運用現場での実証	① 少数を対象にしてユースケースを検証する ② 多数を対象にして有効性を検証する ③ 検証結果を踏まえて仕様を調整する	④ (検証成功のポイント) 検証目的・内容を明確にする ⑤ (検証成功のポイント) 検証環境を整備する					
	H 上市準備	① コスト設計を検討する	② 上市後の改修を想定して仕様を確定させる					
	I 販売戦略	① 代理販売・共同販売を活用する ② 効果的なチャネルで情報を提供する	③ 購入単位や契約方法にこだわる					
継続	J 営業アプローチ	① 期待値を正し設定する ② 伝える相手に応じてメッセージを工夫する	③ 事業所の補助金獲得をサポートする					
	K 導入支援	① 導入計画立案から伴走する ② 導入に向けた環境を整える	③ デモや初期設定をサポートする ④ 利用者向けの用意取得をサポートする					
	L 継続的改良	① 使用状況をモニタリングする	② 顧客の声を取り入れて活かす					

引用：令和5年度 厚生労働省 老人保健事業推進費等補助金 老人保健健康増進等事業「介護現場のニーズをふまえたテクノロジー開発支援に関する調査研究事業」介護テクノロジー開発ガイドブック～介護現場のニーズをふまえた企画・開発・販売のポイント～【支援機関編】

第3節 ニーズリストの公開

本事業においては、企業が介護現場のニーズを簡易的に把握することを可能とするために、昨年度事業に引き続き公式ホームページ上にニーズリストを公開した(<https://www.mhlw.go.jp/kaigoseisansei/ns/needs/index.html>)。掲載されたニーズは「ニーズがある現場(施設/在宅)」、「ニーズが発生する生活場面(睡眠/覚醒・起居/排泄/見守り 等)」、「課題の持ち主(被介護者/介護者(介護職、専門職)/家族/地域)」の観点からカテゴライズ・タグ付けし、介護現場における多種多様なニーズの中から、閲覧者が求めるニーズを容易に検索できるように整理した上で公開した。

(1)ニーズリスト

ニーズリストは、「施設」と「在宅」のニーズの現場それぞれにおいて、「ニーズが発生する生活場面」と「課題主」ごとに整理した上で掲載した。下記は掲載されたリストのイメージ図である。

図表 4-6 ニーズリスト:施設における生活場面ごとのニーズ一覧(イメージ図)

		課題の持ち主			
		被介護者	介護者	家族	地域
生活場面	睡眠	<ul style="list-style-type: none"> 排泄確認による睡眠障害と業務の効率化 夜間の見守り業務における精神的・身体的負担 	<ul style="list-style-type: none"> 排泄確認による睡眠障害と業務の効率化 利用者の体調変化や事故に対する適切な判断・対応の標準化と職員支援 夜間の見守り業務における精神的・身体的負担 		
	覚醒・起居	<ul style="list-style-type: none"> 夜間の見守り業務における精神的・身体的負担 	<ul style="list-style-type: none"> 利用者の体調変化や事故に対する適切な判断・対応の標準化と職員支援 デイルーム・トイレ・居室における見守り・声掛け 夜間の見守り業務における精神的・身体的負担 トイレ・ベッドでの移乗介助時の腰部の負担軽減 	<ul style="list-style-type: none"> トイレ・ベッドでの移乗介助時の腰部の負担軽減 	
	離床	<ul style="list-style-type: none"> 身体機能・身体寸法に合わない車椅子の使用 	<ul style="list-style-type: none"> 身体機能・身体寸法に合わない車椅子の使用 		
	移乗	<ul style="list-style-type: none"> 身体機能・身体寸法に合わない車椅子の使用 吊り上げないベッド・車椅子間の移乗介護 排泄時の移乗介助(車いす⇔便座)・立位保持における介護者の身体的負担 トイレへの歩行車での安全な移動 	<ul style="list-style-type: none"> 身体機能・身体寸法に合わない車椅子の使用 移乗介助時の所要時間 介護用ベッドではない就寝環境からの移乗 大柄な利用者を移乗する際、複数人での介助が必要となる 移乗リフト操作技術の習得 吊り上げないベッド・車椅子間の移乗介護 狭小スペースにおける排泄介助 排泄時の移乗介助(車いす⇔便座)・立位保持における介護者の身体的負担 トイレへの歩行車での安全な移動 立ち上がり介助におけるタイミングの計り方 デイルーム・トイレ・居室における見守り・声掛け トイレ・ベッドでの移乗介助時の腰部の負担軽減 	<ul style="list-style-type: none"> 移乗介助時の所要時間 介護用ベッドではない就寝環境からの移乗 狭小スペースにおける排泄介助 排泄時の移乗介助(車いす⇔便座)・立位保持における介護者の身体的負担 立ち上がり介助におけるタイミングの計り方 トイレ・ベッドでの移乗介助時の腰部の負担軽減 	

図表 4-7 ニーズリスト:在宅における生活場面ごとのニーズ一覧(イメージ図)

課題の持ち主					
	被介護者	介護者	家族	地域	
生活場面	睡眠	・不眠 ・褥瘡の発生		・夜間覚醒の対応等による睡眠不足 ・体位交換の負担	
	覚醒・起居	・寝たきり等による廃用症候群 ・ベッドから起き上がる際の転倒	・トイレ・ベッドでの移乗介助時の腰部の負担軽減	・夜間排泄介助の負担 ・トイレ・ベッドでの移乗介助時の腰部の負担軽減	
	離床			・重度の方(障害を有する方を含む)の離床・移乗を家族が一人で介助する身体の負担	
	移乗	・無理な体制での移乗による痛みや不安 ・移乗時の床への転落 ・排泄時の移乗介助(車いす⇔便座)・立位保持における介護者の身体的負担	・移乗介助時の所要時間 ・介護用ベッドではない就寝環境からの移乗 ・腰部等への身体的負担 ・狭小スペースにおける排泄介助 ・排泄時の移乗介助(車いす⇔便座)・立位保持における介護者の身体的負担 ・立ち上がり介助におけるタイミングの計り方 ・トイレ・ベッドでの移乗介助時の腰部の負担軽減	・移乗介助時の所要時間 ・介護用ベッドではない就寝環境からの移乗 ・重度の方(障害を有する方を含む)の離床・移乗を家族が一人で介助する身体の負担 ・老老介護のために被介護者をベッドから移乗させることができない ・腰部等への身体的負担 ・狭小スペースにおける排泄介助 ・排泄時の移乗介助(車いす⇔便座)・立位保持における介護者の身体的負担 ・立ち上がり介助におけるタイミングの計り方 ・トイレ・ベッドでの移乗介助時の腰部の負担軽減	

(2)ニーズの事例

ニーズリストに掲載したニーズは、各々の詳細ページにて具体的な内容を説明した。掲載事例として下記に2例を記載する。

1)事例1 認知症の利用者における原因不明の夜間せん妄・徘徊の発生

- 場面:見守り、徘徊

【場面の詳細】

認知症を抱える施設利用者が、夜間徘徊をする場面

- 課題の持ち主:被介護者、介護者(介護職、専門職)

【課題の持ち主の詳細】

住居型有料施設の職員

- 課題の具体的内容

施設利用者の認知症が進みつつあり、夜間落ち着かなく(夜間せん妄)、廊下を歩き回るようになった。職員が対応すると時折感情的になることもあり、職員の夜間対応負担が増加するものの原因が分からない。

2) 事例2 食事時の咀嚼および嚥下確認の難しさ、判断基準のばらつき

● 場面: 食事

【場面の詳細】

在宅での食事介助の場面

● 課題の持ち主: 介護者(家族)、介護者(介護職、専門職)

【課題の持ち主の詳細】

在宅療養高齢者を介護する家族、介護職員

● 課題の具体的内容

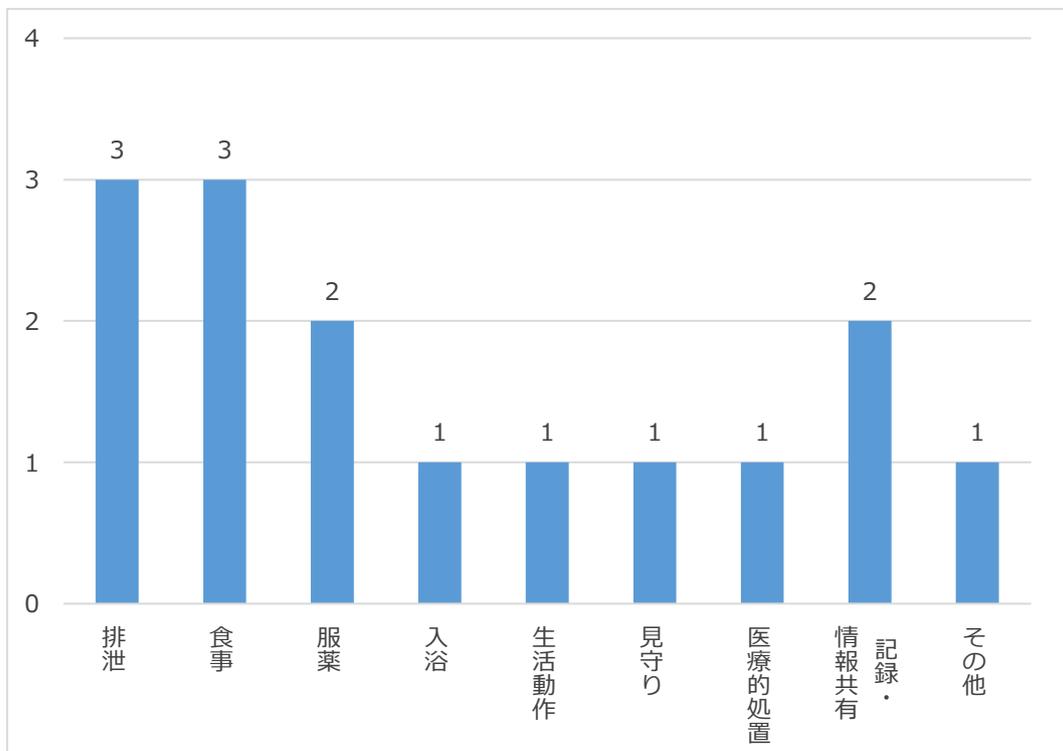
摂食の支援については、咀嚼および嚥下の一連の動作を評価する必要がある。咀嚼においては、単なる噛み砕きだけでなく、舌の動き、唾液の汲み上げ、食塊の形成、喉への送り込み等の評価と、それに対する支援が必要になる。これらの評価および支援については、客観的な評価ができていないことが課題である。

(3) 新たなニーズの収集

当該ニーズリストを昨年度に引き続いて掲載しており、現在公開しているニーズは 188 件である。今年度は新たにワンストップ窓口から 14 件のニーズを収集した。

図表 4-8 新たに収集したニーズの場面

n=14(複数回答)



(4)ニーズリストの更新

現在公開しているニーズを対象として、より開発企業にとってわかりやすく、開発の参考となるものを目指し、ニーズリストの更新を行った。更新に際しては、介護現場の実態と更新後のニーズに乖離が出ないように、過年度事業においてニーズの調査、記載を行ったマッチングサポーターに詳細の確認を行った。

【更新の観点】

- ・ 時間の経過とともにニーズが変化している可能性があることから、必要に応じて内容を修正した。
- ・ 利用者、支援者のニーズに対する「ありたい姿」「解決の方向性」を示した。

第4節 マッチング支援の実績

総エントリー団体数は 52 団体であった(3月 14 日時点。以下同様とする)。

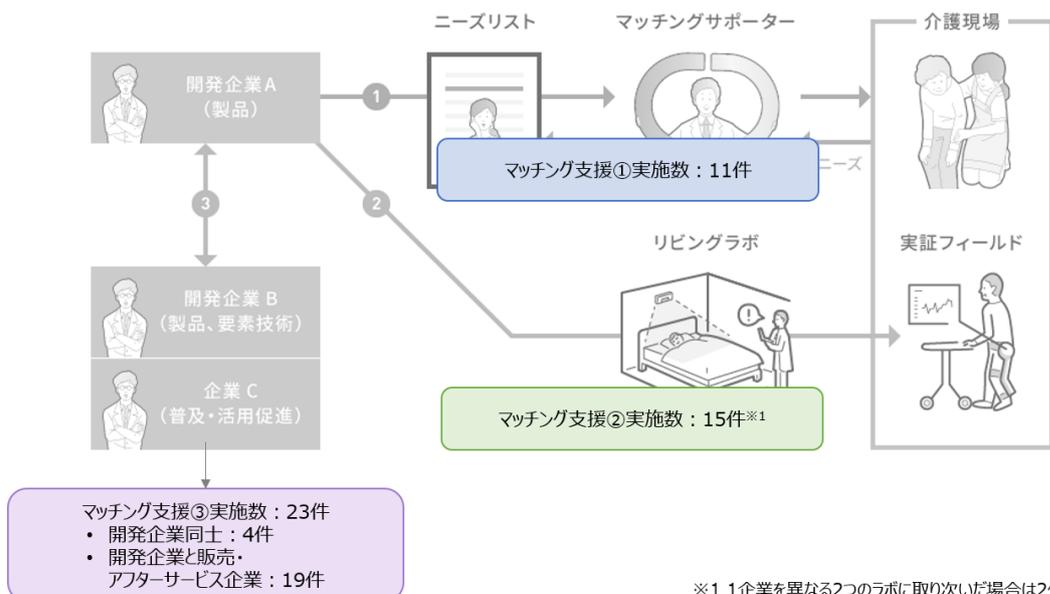
マッチング支援①は 11 件を実施し、うちニーズに対する今後の開発意向があると回答されたものは7件であった。

マッチング支援②は 15 件を実施した。

マッチング支援③は 23 件を実施し、開発企業同士のものは 4 件、開発企業と販売・アフターサービス企業とのものは 19 件であった。

図表 4-9 マッチング支援実績

総エントリー団体数：52団体

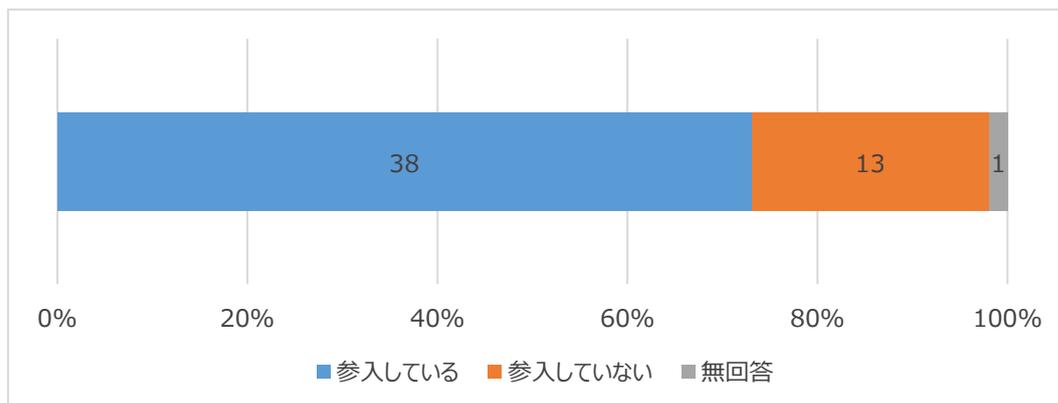


第1項 エントリー

エントリー団体のうち、介護分野へ参入済の団体は 38 団体であり、未参入の団体は 13 団体であった。

図表 4-10 エントリー企業の介護分野への参入有無

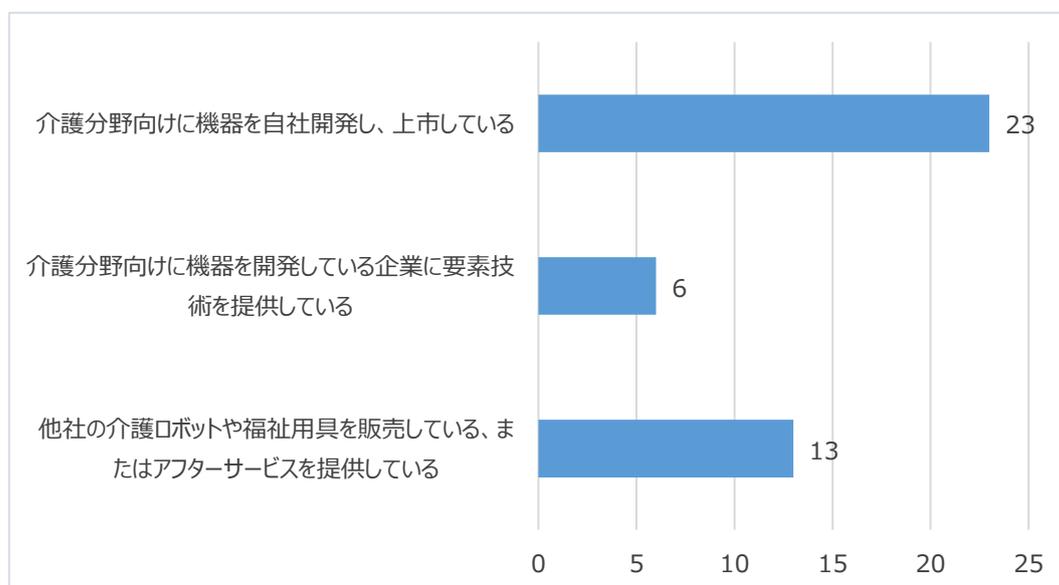
n=52



介護分野へ参入済の団体のうち、介護ロボット開発企業は 23 団体、要素技術を提供している企業は 6 団体、販売・アフターサービス企業は 13 団体であった。

図表 4-11 エントリー企業の介護分野への参入状況(参入済団体)

n=38(複数回答)



第2項 マッチング支援①

(1)実施件数

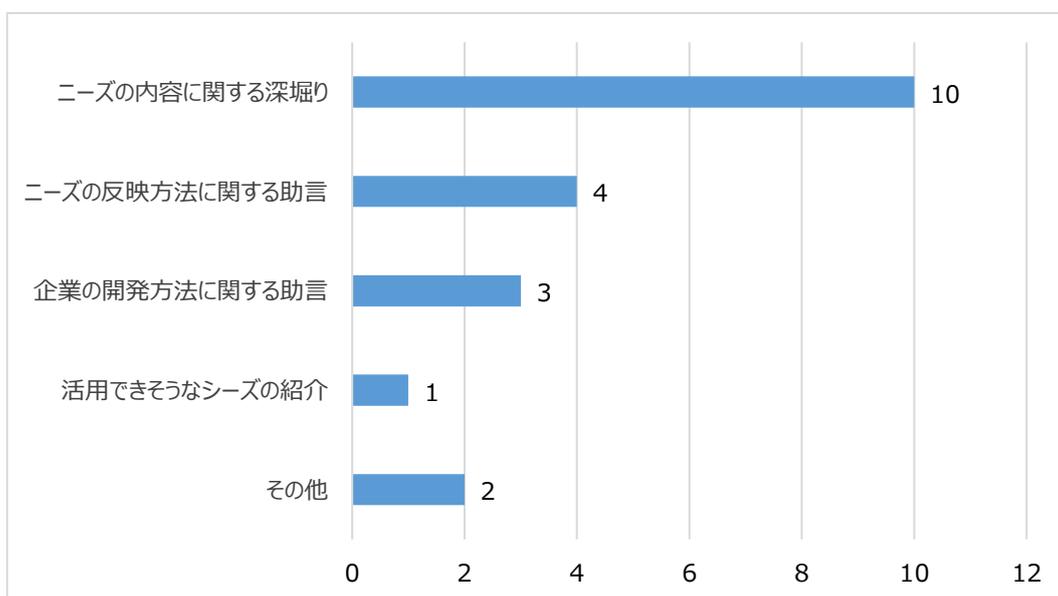
8 団体に対して、マッチングサポーターとの相談対応を 11 件実施した。

(2)相談内容と対応内容

マッチングサポーターへの相談内容は、ニーズの内容に関する深掘りが最も多かった。ニーズの反映方法に関する助言を求める相談も一定数あった。

図表 4-12 マッチングサポーターへの相談内容

n=11(複数回答)



対応内容の詳細(抜粋・一部加工)

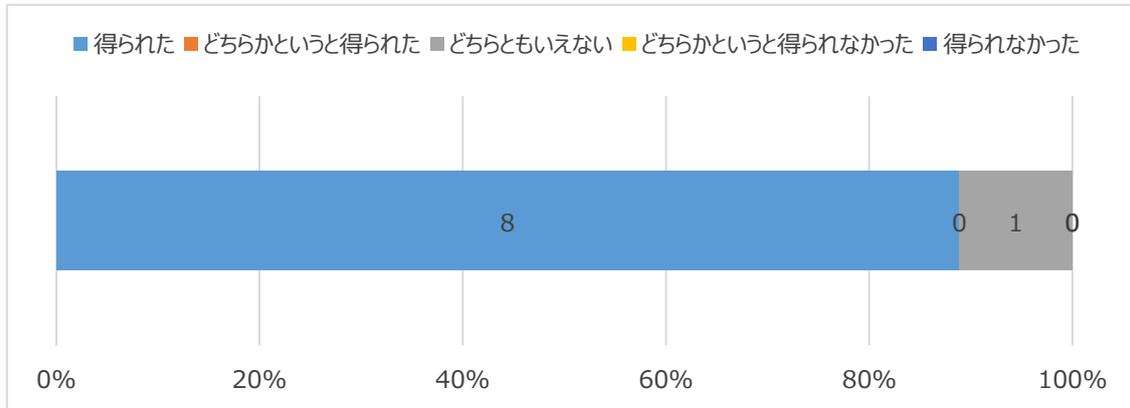
- ・ ニーズの反映方法について、介護現場での実際の負担感および課題を具体的に説明することでニーズを満たす製品の価格や仕様について助言をした。
- ・ 開発中の製品の使用方法の詳細について、介護現場の課題を解決できそうかという視点で現場のニーズを満たす活用方法について助言した。

(3)アンケート結果

マッチング支援①を行った団体から回収したアンケートにおいて、参入検討および開発加速に寄与する助言等が「得られた」との回答が8件、「どちらともいえない」との回答が1件であった。「どちらかというと得られた」「どちらかというと得られなかった」「得られなかった」との回答はなかった。

図表 4-13 参入検討および開発加速に寄与する助言等が得られたか

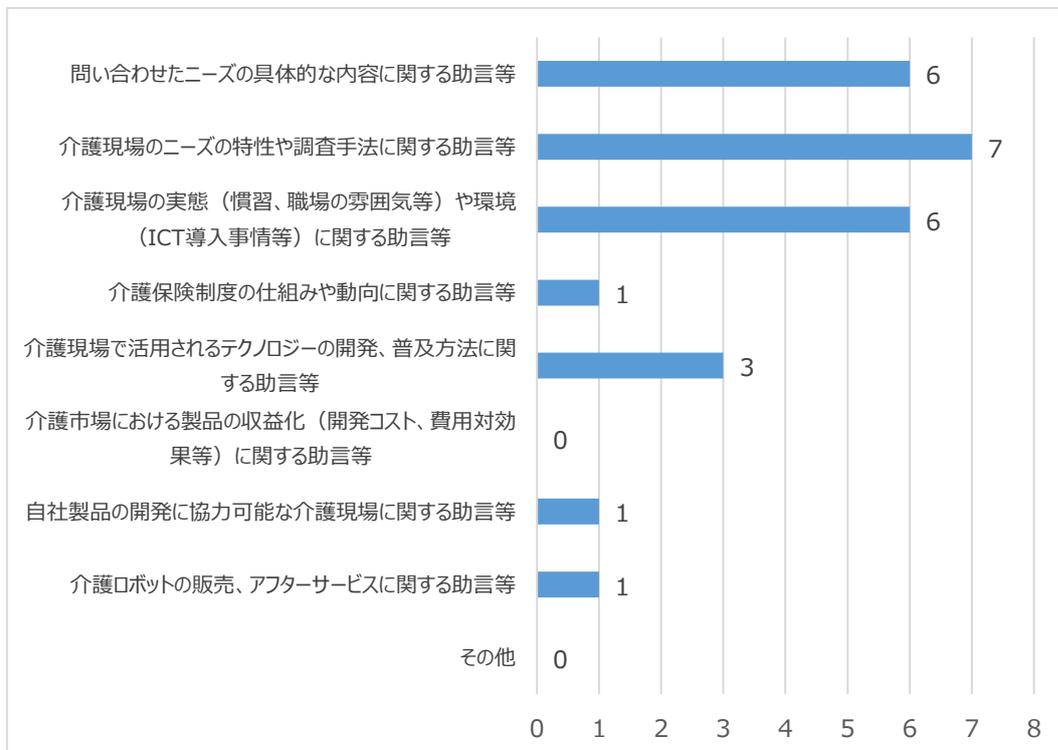
n=9



有益であった助言としては、「介護現場のニーズの特性や調査手法に関する助言等」の回答が最も多く 7 件、「問い合わせたニーズの具体的な内容に関する助言等」「介護現場の実態(慣習、職場の雰囲気等)や環境 (ICT 導入事情等)に関する助言等」の回答が6件であった。

図表 4-14 どのような助言が有益であったか

n=9(複数回答)



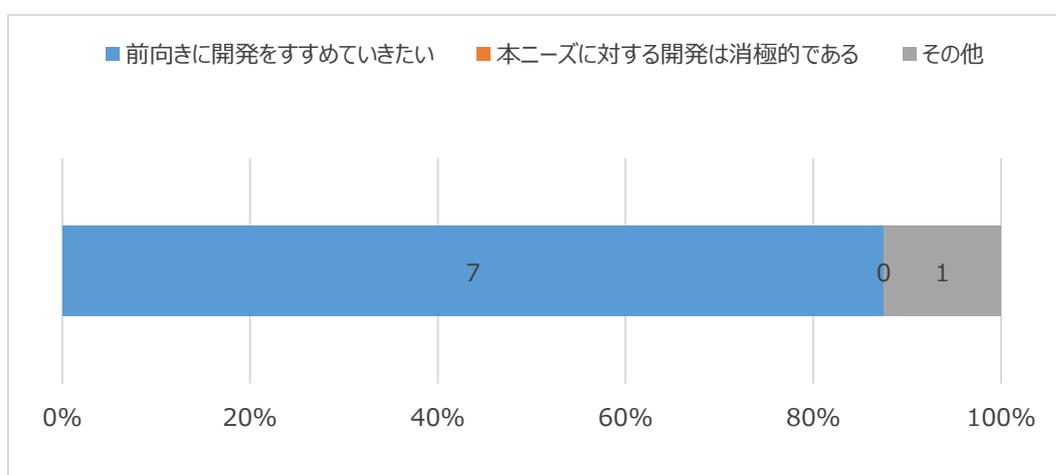
有益であった助言内容(抜粋・一部加工)

- ・ 介護現場の実態および作業負担等の分かりやすい説明に加え、構想について具体的にどのような場面で使用できるかという助言が有益であった。
- ・ 介護現場での実際のニーズや、事業化に向けたソフト面の改良、販売戦略について参考になる助言をいただいた。

問い合わせたニーズに対する今後の開発意向については、「前向きに開発を進めていきたい」が最も多かった。

図表 4-15 問い合わせたニーズに対する今後の介護ロボットの開発意向

n=8



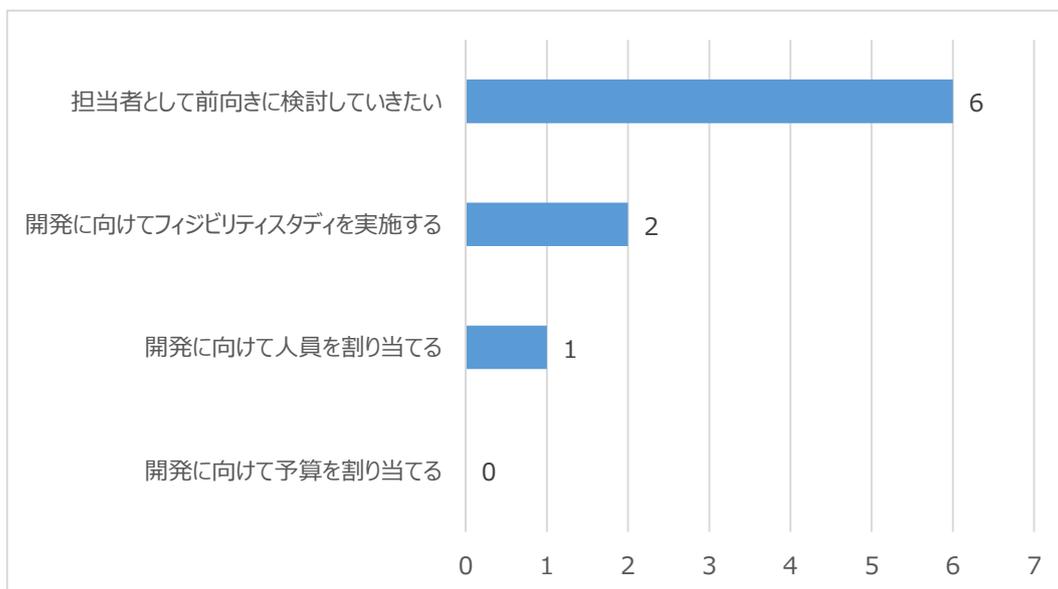
「その他」の内容(抜粋)

- ・ 上市済のため。

開発意向の詳細については、「担当者として前向きに検討していきたい」が最も多かった。

図表 4-16 今後の開発意向の詳細

n=7(複数回答)



(4)事例

以下に、マッチング支援の一例を示す。

図表 4-17 マッチング支援①の事例

相談者	<ul style="list-style-type: none">・ 主な事業内容:セキュリティシステム機器の開発、製造、販売・ 製品概要:誤薬防止機器・ 開発フェーズ:開発検討中
マッチング希望内容	<ul style="list-style-type: none">・ 投薬時に誤りが発生する可能性を想定し、製品開発の検討を行っている。・ 介護施設における与薬作業の一連の流れ、課題、誤薬防止に必要な対応策案について知りたい。 ※対象ニーズ(誤薬防止): https://www.mhlw.go.jp/kaigoseisansei/ns/needs/page/n0039.html
面談内容	<p>服薬管理に関する現状について以下を説明した。</p> <p>○服薬準備</p> <ul style="list-style-type: none">・ 入所時に一包化されていない薬が持ち込まれた場合、薬の整理や仕分け、配薬時毎に1個ずつPTP包装シートを外す(本来はこれも医療行為とされている)作業が発生する。 <p>○服薬支援</p> <ul style="list-style-type: none">・ 嚥下困難等の課題を抱えている入居者も多く、誤嚥しないよう服薬介助が必要な場合もある。・ もともと「与薬」は医療行為であり、介護士に認められている援助は限られているが、介護士が多くの援助を担っている現状があるため、誤薬に対する精神的負担がある。 <p>○服薬確認</p> <ul style="list-style-type: none">・ 確実に服薬したかどうかの確認は、実施していないケースが多いと思われる。・ 作業チェックリストに服薬の項目がある場合もあるが、残薬の照合を毎回行っているわけではない。・ ある程度自立しており、入居者自身で服薬管理できる方に対しては「お薬カレンダー」等を用いて、自己管理を促している場合もある。 <p>・ 相談者が考えるテクノロジーについて以下を助言</p> <ul style="list-style-type: none">・ 薬を専用カート等に個別セッティング、入居者別ID等を読み込むことで投薬することができるテクノロジーがあればニーズは高いと思うが、最初のセッティング業務の負担はあまり変わらないのではないかと。・ 誤薬のリスク軽減には繋がると思うが、専用カートへの個別セッティング作業自体にミスが発生しない様にする必要がある。

企業の反応	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前向きに製品開発の検討を行う。 ・ より深くニーズについて知りたい(介護現場への取次等)ので、必要に応じて再度サポーターとの面談を希望する。
-------	---

第3項 マッチング支援②

(1)実施件数

11 団体に対して、リビングラボへの取次を 15 件*実施した。

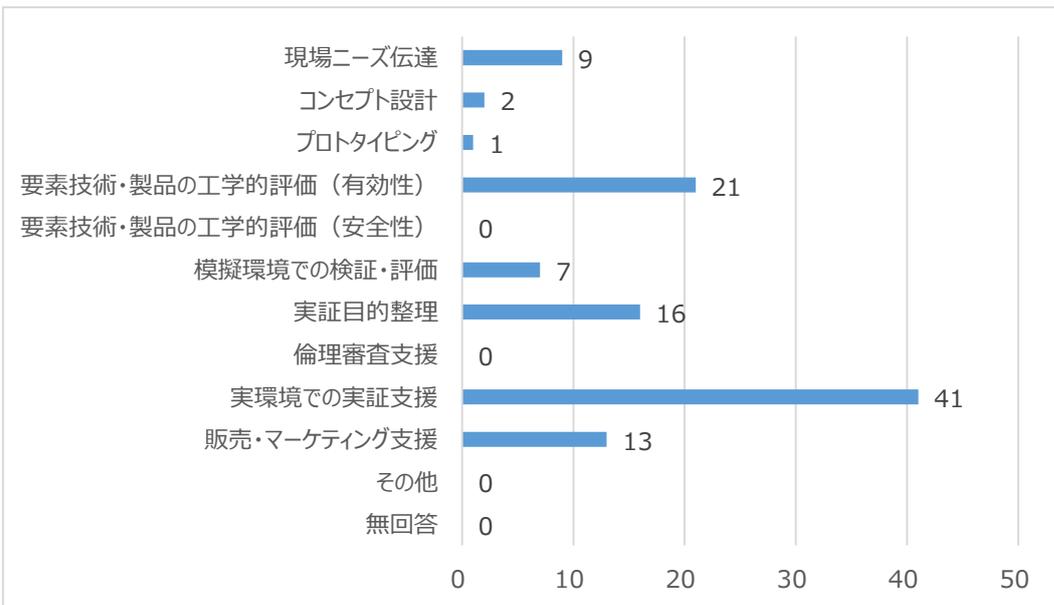
※1 団体を 2 つのリビングラボに取り次いだ場合には、取次を 2 件とカウントした。

(2)企業の相談目的・相談内容

マッチング支援②を実施した団体の相談目的は「実環境での実証支援」が最も多く 41 件であった。

図表 4-18 企業の相談目的

n=56(複数回答)



企業の相談内容(抜粋・一部加工)

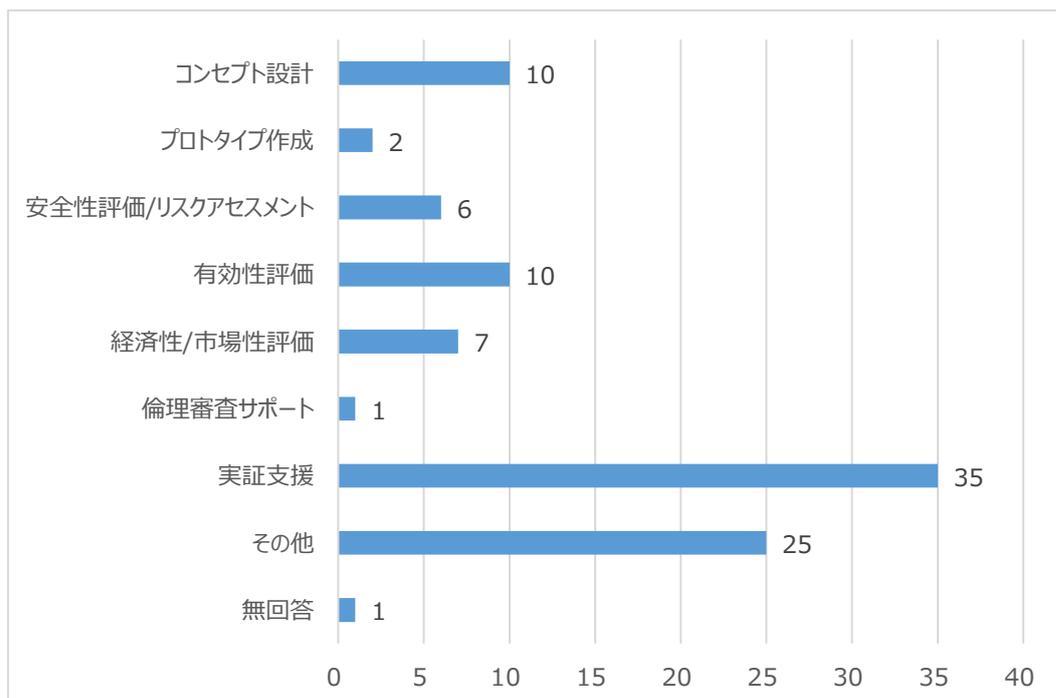
- ・ 保有しているシーズについて、介護業界でどのような用途に使えるか、どのようなニーズを解決できるのかディスカッションを行いたい。
- ・ 海外での実績がある機器であるが、日本では発売実績がないため、適した手順での評価や検証について伴走をお願いしたい。
- ・ デモが可能な製品が完成したため、上市を目指し現場に近い環境等でデモ機の検証を行いたい。

(3)リビングラボの対応内容・対応結果

マッチング支援②を実施した団体に対するリビングラボの対応内容は、「実証支援」が最も多く35件であった。

図表 4-19 リビングラボの対応内容

n=56(複数回答)



対応内容詳細(抜粋・一部加工)

- ・ 機器を見ながら概要説明と質疑応答を行った上、現場ニーズ、商品コンセプト、業界情報、技術的なポイントに関するアドバイスを行った。
- ・ 介護現場(施設・在宅)においてどういうシーンでの利用が考えられるか、現場経験者を交えた意見交換を行った。

第4項 マッチング支援③

マッチング支援③は23件を実施し、うち、マッチング支援③-1(要素技術を探している企業と、要素技術を有する企業とのマッチング支援)は4件、マッチング支援③-2(開発企業と販売・アフターサービス企業とのマッチング支援)は19件であった。

(1)マッチング支援③-1

マッチング支援③-1においては、4回のマッチング支援を行った。なお、登録数は延べ14団体であり、他社から技術を紹介して欲しい団体は8団体、他社に自社の技術を紹介したい団体は6団

体であった。

(2)マッチング支援③-2

1)実施件数

マッチング支援③-2 においては、開発企業9団体、および販売・アフターサービス企業6団体に対して企業同士の面談を 19 回行った。なお、登録数は延べ 18 団体であり、開発企業は 10 団体(10 製品)、販売・アフターサービス企業は 8 団体であった。

第5項 複数のマッチング支援を活用した事例

以下に、複数のマッチング支援を活用した事例を示す。

図表 4-20 マッチング支援①及び③-2 の事例

【エントリー企業の概要】

- ・ 主な事業内容:装着ロボット機器(パワースーツ)の研究、開発、販売
- ・ 製品概要:移乗用パワースーツ(最大 30Kg の持ち上げ支援が可能)
- ・ 開発フェーズ:上市済
- ・ 相談内容:販売促進(販路拡大)

	支援① サポーターA	支援③-2 販売会社 B社
情報	移乗支援、移動支援、見守り・コミュニケーション等の支援を得意としている。	医療機器、印刷関連機器、情報システム機器をはじめ様々な商品を取り扱う販売代理店。
面談内容	(サポーター面談) 機器の付加価値を高めるため、機器のデータを活用した、介護現場への価値提供について助言した。 また、販路拡大に向けて、ターゲットを絞り、戦略を立て、展示会等へアプローチすることを伝えた。 さらに、都道府県のワンストップ窓口が開催する介護機器の展示会へ出展を提案した。	現在取り扱っている装着型移乗機器について、介護現場から装着時の手間や、使用中のベルトのずれ等の課題が挙げられている。 このため、新たな装着型の移乗機器について情報を集めたい。
	(ワンストップ窓口と連携)展示会に出展された際、地域で行われている展示会の特徴やメリットを伝えた。	

支援の結果	<p>支援①: マッチングサポーターからワンストップ窓口へ連携し、ワンストップ窓口が主催する介護ロボットの特別展示会へ参加し、地元の販売代理店等に製品の説明を行った。</p> <p>支援 3-②: 装着型移乗支援機器に関心のある 2 施設を紹介いただくこととなった。</p>
-------	---

第5節 マッチング検討会

政策への提案・助言を行うこと、企業の相談対応の仕組みを確立し、支援の強化・拡充に活かすことを目的として、ニーズ・シーズマッチング検討会を行った。なお今年度は前述のとおり、リビングラボネットワーク定例会議と一体的に運営し、事業期間中に計 3 回実施した。開催概要は以下のとおり。

(1) 第 1 回リビングラボネットワーク定例会議 兼 マッチング検討会 開催概要

図表 4-21 第 1 回リビングラボネットワーク定例会議 兼 マッチング検討会 開催概要

(敬称略)

開催日時/形式	令和6年6月26日(水)15:05-16:55 WEB 会議
議長	国立大学法人九州工業大学 大学院生命体工学研究科 教授 柴田 智広
出席者	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基幹型リビングラボ ・ 支援型リビングラボ ・ マッチングサポーター ・ 顧問 <オブザーバー> ・ 厚生労働省 ・ 経済産業省 <事務局> ・ 株式会社 NTT データ経営研究所
アジェンダ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 開会の挨拶 ・ 介護現場の生産性向上に関する政策動向 ・ ロボット介護機器開発に関する政策動向 ・ リビングラボ及びニーズ・シーズマッチング支援事業の共通事項について ・ リビングラボについて ・ ニーズ・シーズマッチング支援事業について ・ 閉会

(2)第2回リビングラボネットワーク定例会議 兼 マッチング検討会 開催概要

図表 4-22 第2回リビングラボネットワーク定例会議 兼 マッチング検討会 開催概要

(敬称略)

開催日時/形式	令和6年9月30日(月)14:05-15:35 WEB 会議
座長	国立大学法人九州工業大学 大学院生命体工学研究科 教授 柴田 智広
出席者	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基幹型リビングラボ ・ 支援型リビングラボ ・ マッチングサポーター ・ 顧問 <オブザーバー> ・ 厚生労働省 ・ 経済産業省 <事務局> ・ 株式会社 NTT データ経営研究所
アジェンダ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 開会の挨拶 ・ ロボット技術の介護利用における重点分野の改訂について ・ 令和7年度概算要求について ・ 事業進捗状況報告 ・ 支援事例報告 ・ 万博ワーキンググループ検討状況報告 ・ 閉会

(3)第3回リビングラボネットワーク定例会議 兼 マッチング検討会 開催概要

図表 4-23 第3回リビングラボネットワーク定例会議 兼 マッチング検討会 開催概要

(敬称略)

開催日時/形式	令和7年2月7日(金) 14:05-15:50 WEB 会議
座長	国立大学法人九州工業大学 大学院生命体工学研究科 教授 柴田 智広
出席者	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基幹型リビングラボ ・ 支援型リビングラボ ・ マッチングサポーター ・ 顧問 <オブザーバー> ・ 厚生労働省 ・ 経済産業省

	<事務局> ・ 株式会社 NTT データ経営研究所
主なアジェンダ	・ 開会の挨拶 ・ 介護ロボットに関する政策動向 ・ リビングラボ、ニーズ・シーズマッチング支援事業の実施状況 ・ 開発企業への支援事例 ・ 相談窓口、中央管理事業の実施状況 ・ 万博ブース検討状況 ・ 前回会議でのご提示事項 ・ 事務連絡 ・ 閉会の挨拶

第6節 介護分野の歩き方

新しく介護分野に参入を検討する企業向けに介護分野を解説したビデオコンテンツ「介護分野の歩き方」シリーズに、新たなコンテンツを追加し、ホームページ上で公開した。また、一部のコンテンツは最新状況を踏まえて更新を行った。コンテンツ一覧は以下のとおり。なお、本年度追加したコンテンツには、【追加】を、更新したコンテンツには【更新】を記した。

図表 4-24 介護分野の歩き方シリーズ コンテンツ一覧

#	分類	タイトル	講師所属・役職 (公開時点)	講師 (敬称略)
1		介護現場の動画(施設介護・在宅介護)	撮影協力: 社会福祉法人善光会 社会福祉法人福寿会	
2	介護業界の動向	介護業界の DX、テクノロジー活用 ニーズの高まり	社会福祉法人 善光会 理事 最高執行責任者 統括施設局 局長	宮本 隆史
3		【更新】介護現場における生産性向上 と介護テクノロジー関連の政策について	厚生労働省 老健局 高齢者支援課 介護業務効率化・生産性 向上推進室 介護ロボット政策調整官	佐藤 修一
4		【更新】経済産業省におけるロボット介護機器政策について	経済産業省 商務・サービスグループ ヘルスケア産業課 医療・福祉機器産業室	平井 那奈

5		介護保険制度、介護業界、介護現場 (介護行為)の特性を理解する	一般社団法人 シルバーサービス振興会 事務局長	久留 善武
6		在宅介護の特徴的な課題と 機器開発の動向	株式会社 NTT データ経営 研究所 先端技術戦略ユニット HealthCare Implementation グループ シニアコンサルタント	山内 勇輝
7		介護保険制度における福祉用具 新たな種目・種類の追加に関する提案 の手引き	一般社団法人 日本作業療法士協会 事務局長	東 祐二
8	機器開 発	【更新】介護テクノロジーの企画・開発・ 販売のポイント ～介護現場のニーズ をふまえた製品・サービスをつくるため に～	社会福祉法人善光会 サンタフェ総合研究室 研究員 株式会社善光総合研究所 Care Tech ZENKOUKAI Lab 所長	滑川 永
9		【追加】介護テクノロジーの創りかた・使 われかた	SOMPO ケア株式会社 Future Care Lab in Japan 副所長 主任研究員	芳賀 沙織
10		ロボット介護機器の開発プロセス～ 開発の V 字モデル～	AMED ロボット介護機器開 発等推進事業(環境整備) プロジェクトリーダー 国研)産総研 インダストリアル CPS 研究センター ディ ペンダブルシステム研究チ ーム長	中坊 嘉宏
11		介護ロボットの開発から利活用 に向けた倫理的配慮ポイントと倫理審査	国立研究開発法人 産業技術総合研究所 人間拡張研究センター	梶谷 勇
12		介護分野への企業の参入動向と 開発の課題について	株式会社 NTT データ経営 研究所 先端技術戦略ユニット HealthCare Implementation グループ	山内 勇輝

			シニアコンサルタント	
13		介護ロボットの開発動向と ニーズ把握の重要性	九州工業大学 大学院 生命体工学研究科 教授・専攻長	柴田 智広
14	事業化	【追加】見守りシステム開発にかけた情 熱～現場ニーズに寄り添って～	株式会社秋田テクノデザイ ン 代表取締役	伊藤 毅
15		ニーズを反映した製品開発・事業展開	TANOTECH 株式会社 代表取締役	三田村 勉
16		介護現場に寄り添った販売、アフター フォローについて	株式会社マルベリー 在宅事業部	谷 勇司
17		排泄予測デバイスを活用した自立排泄 支援の取組み ～現場の活用を促進する カスタマーサクセス～	トリプル・ダブリュー・ ジャパン株式会社 取締役 COO	小林 正典
18		睡眠解析技術で介護・医療現場の課 題解決に貢献する 「ライフリズムナビ®+Dr.」	エコナビスタ株式会社 経営企画室	榎本 奈津子

第5章 地域における生産性向上の取組に関する支援事業

第1節 地域における生産性向上の取組に関する支援事業(中央管理事業)について

本事業は、介護生産性向上推進総合事業(地域医療介護総合確保基金)を中心に、地域における介護現場の生産性向上に関する取組を、効果的かつ効率的に実施し、取組の普及に向けた支援および周知することを目的とした。

第1項 ワンストップ窓口の意義・役割

これまで国や都道府県・市区町村をはじめとする様々な実施主体において、介護現場における生産性向上の取組(介護ロボット・ICTの導入・活用を含む)の普及・推進のための施策が行われてきた。一方で、これらの取組が介護現場に広く周知・活用され、生産性向上の取組が大きく広がる状況には至っていない。これは、生産性向上に資する取組に関する事業や情報発信が断片的に実施されてきたことが原因の一つとして考えられる。

こうしたことを受け、令和6年4月1日施行の改正介護保険法において、都道府県を中心に生産性向上や人材確保の取組が一層推進されるよう、都道府県に対して介護現場の生産性の向上に資する努力義務規定が設けられるとともに、介護生産性向上総合相談センター(以下、ワンストップ窓口と表記する)を各都道府県に設置することを推進している。

また、令和6年度介護報酬改定では、介護ロボットやICT等のテクノロジーの導入後の継続的なテクノロジーの活用を支援するため、新たに「生産性向上推進体制加算」が設けられた。

今後、都道府県ごとに設置されたワンストップ窓口が様々な支援・施策を総合的・横断的に一括して取り扱い、適切な支援につなぐことで、情報が整理・集約され、一体的な事業展開が可能となる。さらに、地域の実情に合わせた支援や、介護事業所にとって身近な支援を行うことも可能となる。

また、地域でモデル事業所を育成し、そのノウハウを横展開することにより他の事業所が生産性向上の取組を実施するきっかけとすることが重要である。その際、都道府県やワンストップ窓口が主体となり、地域の福祉関係者はもとより、他機関と連携する必要がある。

ワンストップ窓口は、こうした介護現場に対する様々な支援を通じて、サービスの質の向上や働きやすい職場環境づくりを実現させること、事業所の職員が自らの仕事や職場に自信と誇りを持って長く働けるようにすることを目指す。

第2項 検討体制の構築

各都道府県がワンストップ窓口を円滑に設置・運営できるような支援方策を検討すること、および、現在定義されているワンストップ窓口の機能や連携先について、より具体的に示すことを目的に、作業部会を全3回実施した。

具体的には、本事業の相談窓口の有無にかかわらず、都道府県において円滑にワンストップ窓口を設置・運営するために必要な取組や支援について議論した。作業部会の構成員および、各作業部会の実施概要は以下のとおりである。

図表 5-1 作業部会の構成員

(敬称略、50音順)

氏名	所属
青田 俊枝	青森県社会福祉協議会 福祉人材課 課長
小笠原 匡人	愛媛県 保健福祉部 長寿介護課 係長
鎌田 大啓	株式会社 TRAPE 代表取締役 兼 CEO
原田 翔	公益財団法人 東京都福祉保健財団 福祉情報部 福祉人材対策室
福元 正伸	総合リハビリテーションセンター 福祉のまちづくり研究所 介護ロボット開発支援・普及推進・研修センター課 主査

図表 5-2 第1回 作業部会の実施概要

実施日／実施場所	2024年6月20日(木) 14:00～16:00 WEB会議
議事	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開会挨拶・構成員紹介 2. 事業概要説明・目的、実施事項、スケジュール等 3. 介護生産性向上総合相談センターの設置・運営における課題と対応について <ol style="list-style-type: none"> ① アンケート・ヒアリング調査について ② 手引き・マニュアル等の改定・整備について ③ 介護生産性向上総合相談センターの設置・運営における課題と対応に関するご意見伺い 4. 事務連絡・閉会挨拶等
主なご意見 (ご意見が挙がらなかった議事については、記載を割愛している)	<p>(議事3)介護生産性向上総合相談センターの設置・運営における課題と対応について</p> <p>②手引き・マニュアル等の改定・整備について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 都道府県とワンストップ窓口運営主体、それぞれで実施する事項および時期がわかりづらい。 <p>③介護生産性向上総合相談センターの設置・運営における課題と対応に関するご意見伺い</p> <p><u>ワンストップ窓口の意義・あるべき姿について</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ワンストップ窓口が、誰に何を届け、どのような効果を求めるのか、都道府県やワンストップ窓口運営主体でより認識を合わせることが難しい。 ・ ワンストップ窓口の事業評価を段階的に積み上げ、どのような

アウトカム（職員の働きがい、人材の確保・定着等）につなげるのか、都道府県やワンストップ窓口運営主体で十分に検討する必要がある。

- ・ ワンストップ窓口のメニューがバラバラに展開されている。例えば、研修会に参加した事業者を有識者派遣のメニューに参加してもらい、ゆくゆくは地域のモデルとなってもらい、といった一連の流れを示してはどうか。

ワンストップ窓口の各メニューについて（相談受付）

- ・ 相談者に対するアセスメントの難易度が高い。
- ・ 相談が終了した後に、実際に事業所において課題解決がなされ改善につながったかどうか把握が難しい。

ワンストップ窓口の各メニューについて（有識者派遣）

- ・ 地域における専門家（相談対応、伴走支援対応）のマンパワーが不足している。

ワンストップ窓口の各メニューについて（他機関との連携）

- ・ 都道府県がワンストップ窓口運営主体と連携先機関を橋渡しできていないことや、継続して関係性を構築する仕組みがない、連携後の後追いができていないこと等が原因で、連携先機関との連携が不十分である。

図5-3 第2回作業部会の実施概要

実施日／実施場所	2024年9月13日(金) 14時～16時／ウェブ会議
議事	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開会のご挨拶 2. 介護生産性向上総合相談センターの設置・運営の課題、および対応策 3. 手引きの改訂・整備について 4. その他、今後の介護生産性向上総合相談センターに対する支援等について 5. 閉会のご挨拶
<p>主なご意見 (ご意見が挙がらなかった議事については、記載を割愛している)</p>	<p>3. (議事2)介護生産性向上総合相談センターの設置・運営の課題、および対応策／(議事3)手引きの改訂・整備について ※2つの議題に対し、まとめてご意見をいただいた。</p> <p><u>手引きにおけるワンストップ窓口の考え方等、基礎となる内容について</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ノウハウのない自治体が抑えるべきポイント(手引きの中でも最も重要なところであると考え)を示してはどうか。 ・ 数値だけを成果指標としてしまうと、手段が目的化してしまう。数値はあくまで一指標でしかない。最終的なアウトカムや KPI を設定できるよう、支援することが必要ではないか。 ・ ワンストップ窓口の目指す姿(目的)を中央管理事業で改めて都道府県に示してほしい。 ・ ワンストップ窓口がどのような体験を事業所に提供するのか。何がワンストップなのか。手引きで示してはどうか。 ・ 介護 DX という文言を用いたホームページを用意している自治体もあるが、手段が目的化していないか。 ・ 守備範囲や対象等を県とワンストップ窓口がイメージできる内容にしてはどうか。より具体性を持たせた方が伝わりやすい。 ・ 生産性向上とテクノロジーの導入・活用は同じではないということを説明してはどうか。 ・ 自治体やワンストップ窓口職員が生産性向上の考え方を理解するには、厚生労働省で実施したセミナーを活用するのが良いのではないか。 ・ 事業間の連動について示してはどうか。 ・ 各指標の例や測定の方法、分析の方法の例示を示してはどうか。

ワンストップ窓口の各メニューについて（相談対応）

- ・ 相談対応と伴走支援の間の支援メニューに対するニーズがあるのではないか。
- ・ 手引きに記載されている相談対応のシートが細かすぎる。もう少しざっくりしたものはないか。
- ・ 相談対応するスタッフに専門知識がなくても、厚生労働省の手引き等である程度、対応できる。そのような手引きにしてほしい。
- ・ 相談対応の際は、まずセミナーやガイドラインを読んでもらうように促している。それでも困った場合は、また相談に来てもらうような流れを作っている。
- ・ 全ての相談のアフターフォローはできないので、成果が出そうなものについては、後追いするようにしている。
- ・ 支援メニューと課題の対応表が欲しい。

ワンストップ窓口の各メニューについて（試用貸出・機器展示）

- ・ 例えば、課題に対応する機器の分野、それぞれの機器のポイント、機器導入によりオペレーションが変わってしまうこと、組織内の体制づくり等のイメージを示してほしい。
- ・ メーカーと直接やりとりする事業所が増えている。（課題を踏まえて機器を選定する必要があるという点で）メーカーの言いなりにならないように注意が必要。

ワンストップ窓口の各メニューについて（他機関との連携）

- ・ 連携後の後追いはどこまで実施すべきか。つないだ後に、どこまでフィードバックしてもらうか、連携先と握っておく必要がある（公開できない情報もある）。
- ・ ワンストップ窓口のみでは解決できる課題が限られているため、連携機関は必須。連携機関とのつなぎは、都道府県側で実施すべき。ワンストップ窓口の事業内容を整理・役割分担を明確にすべきではないか。

ワンストップ窓口の各メニューについて（有識者派遣）

- ・ モデル事業所の育成は、自治体やワンストップ窓口だけでは難しい。各地域にもともと頑張っている事業所があるはずなので、そこを探してはどうか。市区町村がよく知っているかもしれない。

	<p>ない。</p> <p><u>手引きの周知・活用について</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 各自治体がどの程度、手引きを活用しているかデータを取ってはどうか。 手引きを活用・体験・対話する場を中央管理事業で提供してはどうか。 手引きの中で、自治体やワンストップ窓口から多く質問があったものをヒントに、手引きを改訂してはどうか。 各ブロック担当者連絡会議で手引きを活用してはどうか。各話題に紐づけて、皆で読み合わせをしてはどうか。
--	--

図表 5-4 第3回作業部会の実施概要

実施日／実施場所	2025年2月10日(月) 13:00～15:00 WEB 会議
議事	<ol style="list-style-type: none"> 開会のご挨拶 手引きの改訂・整備について 閉会のご挨拶
主なご意見 (ご意見が挙げられなかった議事については、記載を割愛している)	<p>2. 手引きの改訂・整備について</p> <p><u>手引き全体について</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 全体的に、表記ゆれや整合性の取れていない部分を修正することが必要である。 都道府県を指しているのに、「保険者」という表現は、意味が広すぎるため、率直に「都道府県」に変更してはどうか。 窓口の一番の役割は、相談者の話を聞いてあげることである。その際、いきなりテクノロジーの選定に走らないことが大切である。 相談の最初の段階で漠然とした質問を聞き、その後に課題の優先順位を付け、一步一步支援していくプロセスが重要である。 窓口の相談対応力の標準化を図るためには、段階的な支援のプロセスを明示することが必要である。 本手引きの読み手がワンストップ窓口であることを念頭に置くと、主語が都道府県となっている点に違和感を覚えることがある。そういった点を修正してほしい。 ワンストップ窓口の目指す姿がアウトカム評価とイコールであるかどうか不明瞭である。目指す姿があり、それに対してどう進んでいくかを評価するプロセスがあるべきではないか。定量的

評価と定性的評価の両方が重要ではないか。

- ・ 相談を通じての「気づき」や「アクション」を評価する仕組みが必要ではないか。
- ・ 定量的なフィードバックに加え、定性的なフィードバックも重要で、その中で評価を行うことが地域や事業所の価値向上に繋がる。
- ・ 都道府県によるワンストップ窓口の評価が、分かりやすい定量的なものだけではなく、泥臭い個別の対応も評価される形にするべきである。そうすることで、ワンストップ窓口が地域づくりに貢献する評価軸が確立できる。
- ・ ワンストップ窓口と都道府県の評価指標を分けて例示することが重要ではないか。
- ・ 「職場環境の5S・手順書作成などの業務改善」「テクノロジーの活用」「役割の転換含めた多様な働き方（介護助手・時短など）」は生産性向上ガイドラインに記載があるので3つの取組みアプローチということで、前提として手引きに提示しておいた方が良いのではないか。
- ・ 施設サービス・在宅サービス含めた全ての介護事業所等の運営・経営における悩みやニーズにワンストップに対応する役割がある。職場環境の5S・手順書作成等の業務改善を示すことで、在宅サービスから聞こえてくる「テクノロジー導入すること＝生産性向上で、私たちには関係ない」等という誤解を解消できるのではないか。

ワンストップ窓口の各メニューについて(相談対応)

- ・ ワンストップ窓口での相談受付について、主語や具体的な内容が不明瞭ではないか。相談内容に応じて進捗確認や再度、相談を行うといった具体的な記載が必要と考える。
- ・ 相談件数の増加が直接的に事業の成果を示すものと捉えるのは適切でない。相談が少なくなること(悩まずに対応できる事業所が増えること)が最終目標であるべき。
- ・ 相談件数の増加を目的とすることが誤解を生む恐れがある。そのため、相談件数以外の方法での連携や研修参加等も重要な評価指標とすべきではないか。
- ・ 相談件数は一つの指標だが、それだけで評価するのは適切ではない。都道府県に対して、生産性向上の取組やそのレベル

感を調査してほしい。

また、事業所の掘り起こしや働きやすい職場づくりに関する評価軸も設けるべきではないか。

- ・ 定量的な評価だけでなく、研修会の参加者の増減等他の評価方法も考慮するべきではないか。
- ・ 手引きに掲載されているアンケート(フェイスシート)について、「どういう課題があるか」、「その課題を解決するために、どんな分野のテクノロジーを想定していますか」という流れにすべきではないか。

ワンストップ窓口の各メニューについて(試用貸出)

- ・ 介護ロボットの試用貸出の流れが独り歩きしないように注意が必要ではないか。そのため、試用貸出前に相談や体験展示のステップを設けると良い。

ワンストップ窓口の各メニューについて(他機関との連携)

- ・ 経費支援の相談先として、よろず支援拠点が適切か再検討する方が良い。福祉分野での支援が得られる適切な機関へのつなぎという観点を考慮する必要がある。

ワンストップ窓口の各メニューについて(有識者派遣)

- ・ 介護事業所が支援を受けながら生産性向上の取組を行う目的は、支援を通じて何からの成果を出すことだけでなく、取組の進め方の型を取得して、支援終了後も自律的に取組を進められるようになることである。
- ・ 研修会・セミナーを開催してその中で支援希望者を確保したり、相談対応を行う中で有識者派遣に誘導を検討したりするケースもある。

第2節 ワンストップ窓口の設置促進等に関する取組

第1項 各都道府県における生産性向上に資する取組の実施状況の調査

各都道府県における生産性向上に資する施策の取組状況および、ワンストップ窓口設置における障壁をつぶさに把握し、今後の都道府県やワンストップ窓口に向けた支援に対する基礎資料を得ることを目的として、各都道府県における生産性向上に資する取組の実施状況を調査し、その結果を取りまとめた。具体的には、アンケート調査およびヒアリング調査を2回ずつ実施した。以下に調査概要および調査結果を示す。なお、アンケート調査票は、本章の最後に掲載している。

(1)調査概要

各アンケート調査およびヒアリング調査の概要は以下のとおりである。

図表 5-5 第1回アンケート調査の概要

調査時期	令和6年4月19日(金)～令和6年5月17日(金)
調査対象	全47都道府県(悉皆)
主な調査項目	<ul style="list-style-type: none">都道府県で実施している生産性向上に関する取組およびその財源ワンストップ窓口の設置・運営状況、課題介護現場革新会議の実施状況等各地域の介護サービス事業所に対して生産性向上の取組を普及・定着させるにあたっての課題や困りごと介護人材確保等の関係で連携している機関、及びその連携方法等

図表 5-6 第1回ヒアリング調査の概要

調査時期	令和6年6月12日(水)～令和6年7月19日(金)
調査対象	全10府県
主な調査項目	<ul style="list-style-type: none">ワンストップ窓口の設置にあたっての障壁や課題、想定される委託先、センターの必要性介護現場革新会議の実施状況等介護人材確保等の関係で連携している機関との連携方法、その他連携が可能と考えられる機関およびその理由 <p>※第1回アンケート調査項目とほぼ同等の項目についてより深掘りして聴き取りを行った。</p>

図表 5-7 第2回アンケート調査の概要

調査時期	令和6年12月12日(木)～令和7年1月10日(金)
調査対象	全47都道府県(悉皆)
主な調査項目	<ul style="list-style-type: none"> ・ 都道府県で実施している生産性向上に関する取組およびその財源 ・ 介護現場革新会議の実施状況等 ・ ワンストップ窓口の設置・運営状況、課題 ・ 介護人材確保等の関係で連携している機関、及びその連携方法等 ・ 手引きの活用状況 ・ その他、各地域の介護サービス事業所に対して生産性向上の取組を普及・定着させるにあたっての課題や困りごと

図表 5-8 第2回ヒアリング調査の概要

調査時期	令和7年2月12日(水)～令和7年2月27日(木)
調査対象	全4都道府県(アンケート調査結果より抽出)
主な調査項目	<ul style="list-style-type: none"> ・ ワンストップ窓口設置および、介護現場革新会議の開催に関する個別課題について ・ ワンストップ窓口の取組好事例

(2)調査結果

それぞれの調査から得られた結果を、ワンストップ窓口の設置・運営、及び介護現場革新会議の開催の2つの観点から取りまとめた。

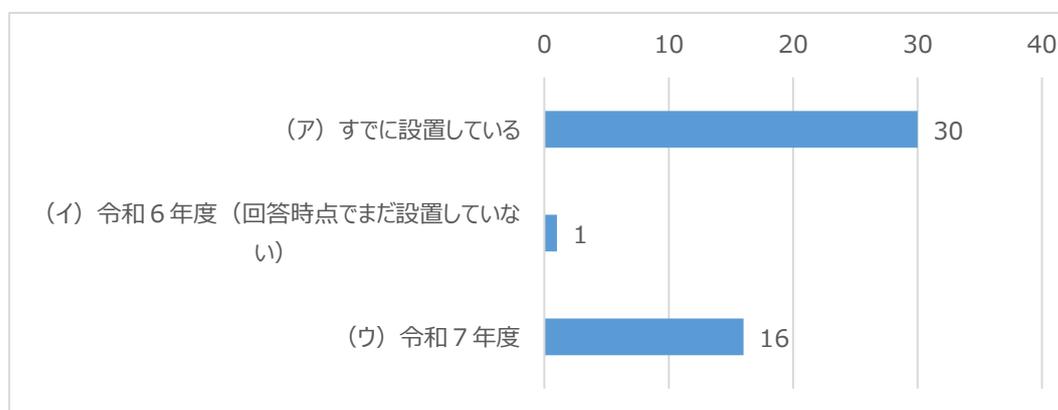
①ワンストップ窓口の設置・運営について

(1)全国におけるワンストップ窓口の設置状況について

第2回アンケート調査時点におけるワンストップ窓口の設置状況は、令和6年度までに設置した自治体が31か所、令和7年度に設置予定である自治体が16か所であった。

図表 5-9 ワンストップ窓口の設置状況

n=47



(2)今後、ワンストップ窓口を設置する自治体における障壁について

令和7年度にワンストップ窓口を設置する予定の自治体からは、今後、ワンストップ窓口を設置するにあたって障壁となることとして、以下の回答が得られた。

○ワンストップ窓口の設置全般について

- ・ 研修会や有識者派遣の具体的な業務内容が想像できず、仕様書、募集要項、企画提案書、審査基準等を新規に作成するイメージがわからない。

○予算獲得・財政当局との調整等について

- ・ ワンストップ窓口を設置する上で庁内の折衝が円滑に進んでいない。
- ・ 財政当局に対し、介護サービス事業所における生産性向上の取組が進んでいない状況やワンストップ窓口の開設が必要な理由を説明することが難しい。
- ・ 予算額（特にアドバイザー経費や常設展示経費）が高いとの指摘を財政当局から受けている。
- ・ ワンストップ窓口運営に係る財源は地域介護総合確保基金であるが、本県では財政部局が基金事業について上限を設定している。

- ・ ワンストップ窓口設置に向けて、財政当局からは単独での設置を認められておらず、商工労働分野との連携を前提としたワンストップ窓口設置を求められている。

○開設主体や委託先の選定について

- ・ ワンストップ窓口の委託先を検討しているが、対応可能な委託先の選定に難航している。
- ・ ワンストップ窓口運営ノウハウを持つ妥当な実施主体の選定が難しい。
- ・ 実施主体の候補はあるものの、どこまで相談メニューの対応できるか分からない。

また、令和6年度までにワンストップ窓口を設置した自治体からは、設置・運営の際に障壁となったこととして、以下が挙げられた。

○ワンストップ窓口の業務全般について

- ・ プッシュ型の相談対応（介護事業所を訪問し、事業所の課題の掘り起こし・解決を図る）を実施することも必要であるが、人的な制約がある。

○ワンストップ窓口の周知について

- ・ ホームページや文書、プレスリリース等により広く周知はしているものの、具体的な相談件数が少ない。
- ・ ワンストップ窓口への相談件数が想定よりも伸び悩んでおり、特に小規模事業所に対しては、展示会等も含めた事業全体の周知が行き届いていない傾向がある。

○相談対応について

- ・ 介護事業所からワンストップ窓口への問い合わせが「補助金の申請方法」に関するものが依然として多く、そもそもの支援の中心である生産性向上に関する問い合わせが少ない。
- ・ 介護事業者が自発的にワンストップ型窓口で相談をしようと思われるような働きかけをどのようにしたら良いかわからない。

○有識者派遣について

- ・ 研修会や有識者派遣等を実施するにあたり、ノウハウを有する県内の人材が不足している。
- ・ 当県で協力を取り付けている有識者が少数のため、今後、ワンストップ窓口事業の需要が増大した場合、全ての案件に対応できるかが不透明である。
- ・ 課題分析が不十分なまま有識者派遣の申込をされるため、課題分析の支援にとどまり、テクノロジーに関する支援にまで至らない。

○試用貸出について

- ・ 試用貸出件数が、伸び悩んでいるため、どうしたら増やしていけるかわからない。

- ・ 生産性向上への理解の不足により、何を相談できるワンストップ窓口なのかわかりにくいという声がある。

○その他

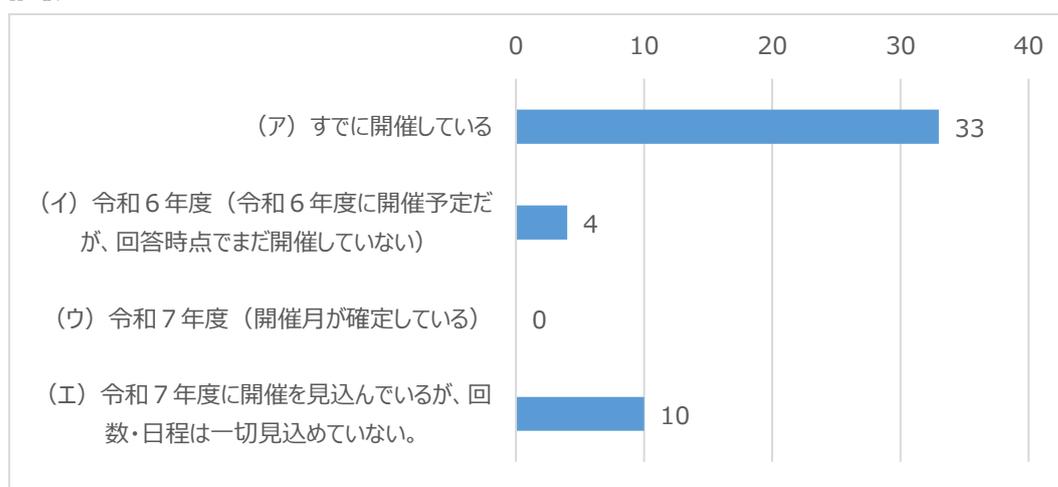
- ・ 生産性向上の取組に対して、時間外勤務を減らすためにはケアの質を落としても構わない取組であるというような誤解が生じているため、介護分野に生産性向上の考え方は合わないといった声がいまだに存在する。
- ・ 訪問介護事業所をはじめとする居宅系サービス事業所の数が多い。そういった事業所は小規模で、ヘルパーが高齢であるケースが多い。そのため、テクノロジーの活用による業務改善のハードルが高いことがある。こういった事業所を、ワンストップ窓口にどのようにつなげるかが課題である。

②介護現場革新会議について

第2回アンケート調査の時点で、介護現場革新会議をすでに開催している自治体が33か所、令和6年度に開催予定だが、回答時点でまだ開催していない自治体が4か所、令和7年度に開催を見込んでいるが、回数・日程は一切見込めていない自治体が10か所であった。（令和7年度に開催を予定しており、開催月が確定している自治体は0か所であった。）

図表 5-10 介護現場革新会議の開催状況

n=47



令和7年度に開催予定の理由は、以下が挙げられた。

- ・ 体制が整っておらず、検討に時間を要する。
- ・ 令和6年度は府内が関係する協議会において、介護現場の生産性向上の推進について議論しており、革新会議の設置については検討中である。
- ・ 令和7年度にワンストップ窓口を設置するため。

種別	課題
組む介護事業所に対する有識者の派遣について	<ul style="list-style-type: none"> 都道府県内の状況を理解した有識者を確保したいが、該当する人材が地域で確保できない。 専門家を派遣するための予算が確保できていない。
介護事業所からの生産性向上・人材確保の取組等に関する相談対応等について	<ul style="list-style-type: none"> 補助金関連の相談が多く、生産性向上の本質を捉えた相談が少ない。 相談者の課題を深掘りする力、適切な専門家へ繋ぐ力が相談対応者に備わっていない。 相談対応者のスキルを向上する手段が見えていない。 在宅系事業者に対するICT導入事例や情報が少ない。 相談対応の成果指標が定まっていない。
介護ロボット等の機器展示について	<ul style="list-style-type: none"> 出張展示等の手法を検討しているが、具体的な実施方法を決められていない。 展示に際して協力が得られそうな機器メーカーが見当たらない。
介護ロボットの試用貸出について	<ul style="list-style-type: none"> 貸出に係る費用が不明瞭である。 貸出対象の機器を選定しかねている。 メーカーに対して謝金を支払うか決めかねている。 貸出機器の送料等の負担をどう位置付けるか決めかねている。
ワンストップ窓口の周知について	<ul style="list-style-type: none"> 生産性向上の本質的意義やワンストップ窓口の活用方法が十分に伝えきれていない。 情報の浸透に地域格差がある(山間部にまで事業の取組が伸びていかない)。

介護現場革新会議に係る各県の取り組み状況の報告およびワンストップ窓口設置・運営にあたっての意見交換を通して、都道府県からは、課題への対応策として以下の意見が挙げられた。

図表 5-13 各ブロック担当者連絡会議において挙げられた意見

種別	意見
ワンストップ窓口設置について	<p>【規模について】</p> <ul style="list-style-type: none"> 立ち上げ時は体制として大きいものではなく、徐々に拡大していく。 <p>【予算確保について】</p> <ul style="list-style-type: none"> 全国的な流れ(生産性向上の努力義務化)や設置状況を説明し必要性を伝える。 生産性向上の取組みの必要性を説明する。 生産性向上に係るニーズ調査を行い、根拠を作る。

種別	意見
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 相談窓口における相談件数を正確に把握し必要性、妥当性を説明する。 ・ 既存事業では福祉領域全般をカバーする事業がないことを示す。 ・ 他都道府県の予算規模を提示して妥当性を示す。 ・ ワンストップ窓口連携先に関係機関を入れることで、他部局との連携があることを見せる。
生産性向上に取り組む介護事業所に対する有識者の派遣について	<ul style="list-style-type: none"> ・ 他分野の専門家に介護領域について学んでいただく。 ・ 県外有識者から県内アドバイザーへのスキル共有をしていただき、県内有識者の育成につなげる。 ・ 企業向け研修等の機会を活用しノウハウを吸収する。 ・ 取り組みが進んでいる事業所の方に県内アドバイザーの役割を担っていただく。 ・ 現場革新会議の構成員から広く紹介を募る。 ・ 事業受託機関のネットワークを駆使する。
介護事業所からの生産性向上・人材確保の取組等に関する相談対応等について	<p>【相談の質に関する意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 補助金をフックに相談を受け付ける場合であっても、事業所の課題に目を向けるよう促すことにより「機器ありき」ではないことを事業者の学んでいただく。 ・ 補助金を活用しながらどのように課題解決をしていきたいかを問いかける。 ・ 機器が課題解決に活用されていくよう基本的な理念を伝える。 <p>【相談対応人材の育成に関する意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ アドバイザーとの協力や勉強会等の機会を活用し、自分たち自身の生産性向上に関する理解を深める。 ・ 展示会等で知らなかった情報を収集しアップデートする。 ・ 先行事業所見学等を実施し、足を使って現場を見る・知る。
介護ロボット等の機器展示について	<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修会との抱き合わせによる出張展示を行う。 ・ 庁舎内に期間限定展示スペースを設置する。 ・ 離島がある場合、都道府県内をエリアに分け、複数年をかけて全エリアでの展示会を行う。 ・ 多様な機器があるため、機能的に重複するものは代表的な機器に絞り展示する。 ・ 「どう活用するか」という視点で見せ方を検討する。
ワンストップ窓口の	<ul style="list-style-type: none"> ・ ワンストップ窓口単体としてではなく、都道府県と連携して行う。

種別	意見
周知について	<ul style="list-style-type: none"> ・ 都道府県から市町村への情報発信を行い、市町村を通じて周知を図る。 ・ 介護現場革新会議を活用し、業界団体等を通して周知を図る。 ・ 研修会で広く圏域を巡回し、遠方の事業者まで情報を浸透させる。 ・ イベント毎にチラシを作成しメールやホームページで周知を図る。 ・ 開所式を大々的に行い、マスコミを活用し知名度の向上を図る。 ・ SNS(具体例:Instagram、X、YouTube 等)を活用する。 ・ メールだけではなく、郵送で周知を図る。 ・ 事業所訪問により直接的な周知および関係性構築を図る。
他機関との連携について	<p>【多機関連携について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 日頃からのコミュニケーションにより連携の土台を作る。 ・ 直接足を運び、ワンストップ窓口の趣旨の理解を促す。 <p>【労働部局との連携について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 共通認識となっている課題に対して解決策を検討していく。 ・ 労働部局の会議等に参加しつながりを作る。

第3項 全国担当者連絡会の実施

最新の施策情報や他県の状況から、各都道府県担当者に生産性向上に関する施策を進めるための情報を収集していただくことを目的として、各都道府県の生産性向上に資する施策の担当者等を対象に、全国担当者連絡会議を実施した。本会議はWEB 会議にて行った。

全国担当者連絡会議の開催概要は以下のとおりである。

図表 5-14 全国担当者連絡会議の開催概要

開催日	令和6年2月21日(水)10時～12時
参加者	各都道府県における介護現場の生産性向上担当者 (ワンストップ窓口の担当者も参加可)
議事	<ol style="list-style-type: none"> 1. 直近の施策動向について 2. アンケート調査・ヒアリング調査について 3. ワンストップ窓口設置済の都道府県における取組状況について

第3節 ワンストップ窓口の支援の実施に関する取組

第1項 ワンストップ窓口向け勉強会の開催

ワンストップ窓口の担当者が介護事業者・開発企業等の課題解決を支援できるよう知見を深めることを目的に、勉強会を開催した。なお本勉強会は、ワンストップ窓口の担当者の他、相談窓口の担当者も対象とした。また、各都道府県の担当者にも案内を送付し、参加を促した。勉強会の実施概要は次の通りである。

図表 5-15 ワンストップ窓口向け勉強会の実施概要

	開催日	概要
第1回	令和6年6月20日	<ul style="list-style-type: none">生産性向上に係る政策動向、介護報酬改定および、本事業の全体像、勉強会の趣旨を共有した。
第2回	7月19日	<ul style="list-style-type: none">ワンストップ窓口の設置における課題や取り組みについて具体的イメージの構築を促すことを目的に、公益財団法人東京都福祉保健財団による事例発表およびグループディスカッションを実施した。
第3回	8月29日	<ul style="list-style-type: none">相談窓口・ワンストップ窓口の運営方法を検討する参考情報を得ることを目的に、介護テクノロジーの補助金の動向を共有した。相談者の課題解決に向けた支援を行うための参考情報を得ることを目的に、大分県介護DXサポートセンターによる事例発表を実施した。
第4回	9月19日	<ul style="list-style-type: none">相談窓口・ワンストップ窓口の運営方法を検討する参考情報を得ることを目的に、全国の相談窓口・ワンストップ窓口の設置・運営動向、生産性向上推進体制加算の内容を共有した。専門的な相談対応に活かすことを目的に、埼玉窓口による相談対応業務の事例紹介を実施した。
第5回	10月17日	<ul style="list-style-type: none">生産性向上に関する事業所の本質的理解を促す上での課題や工夫を広く周知することを目的に、SOMPOケア株式会社による事例発表およびグループディスカッションを実施した。
第6回	11月21日	<ul style="list-style-type: none">相談窓口・ワンストップ窓口の周知・広報に係る好事例を共有することを目的に、千葉県による事例発表およびグループディスカッションを実施した。

第7回	12月19日	<ul style="list-style-type: none"> 相談受付担当者の育成手法を広く周知することを目的に、兵庫県立福祉のまちづくり研究所による事例発表およびグループディスカッションを実施した。
第8回	令和7年1月16日	<ul style="list-style-type: none"> リビングラボとの連携を含めた開発企業からの相談対応手法を理解することを目的に、大阪府介護生産性向上支援センターによる事例発表およびグループディスカッションを実施した。
第9回	2月20日	<ul style="list-style-type: none"> 相談窓口・ワンストップ窓口における今後の取組の在り方について検討材料を得ることを目的に、次年度事業に関する行政説明を実施した。 各地域におけるネットワーク構築、情報交換、意見交換等の機会創出に活かすことを目的に、大分県介護DXサポートセンターによる九州介護イノベーション推進会議の事例発表を実施した。

第2項 「介護生産性向上総合相談センターの設置・運営に係る手引き」の改訂

ワンストップ窓口の運營業務に関するマニュアルとして、令和4年度厚生労働省老人保健健康増進等事業「介護生産性向上総合相談センターを通じた地域単位の効果的な支援方策に関する調査研究事業」において、「介護生産性向上総合相談センターの設置・運営に係る手引き」を当社にて取りまとめた。また、令和5年度介護ロボットの開発・実証・普及のプラットフォーム事業では、当手引きの改訂を行った。

本事業においては、令和6年度に新たに挙げた課題を踏まえ、ワンストップ窓口の各種メニューのポイントや留意事項、事例、およびコラム等を手引きに追記した。大まかな改訂の方針は、次の3点である。なお、本年度に改訂した手引きは、別添資料にて示した。

1. 作業部会やワンストップ窓口向け勉強会、都道府県担当者から挙げた意見等を基に、ワンストップ窓口の在り方や全体像等、基本的な考え方となる部分の記載を拡充した。
2. ワンストップ窓口の立ち上げフェーズ(準備期、立ち上げ期、運営期、拡大期)のうち、運営期のワンストップ窓口に関する事例の追記を行った。
3. 上記の2つ以外にも、作業部会の構成員や各都道府県からの意見を踏まえ、各種メニューの記載を拡充した。

第3項 伴走支援を行う企業等に対する研修会の開催

地域における生産性向上の取組の支援力を強化するとともに地域のモデル事業所の育成・横展開の更なる活性化を目的に、各地域で介護現場における生産性向上の取組を支援、または今後支援を行う予定の企業や団体等に対して、研修会を開催した。伴走支援を行う企業等に対する研修会の実施概要は次のとおりである。

図表 5-16 伴走支援を行う企業等に対する研修会の実施概要

セミナー名	介護現場における生産性向上の伴走支援を行う企業等向けオンラインセミナー
開催回・日時/形式	第1回:令和6年9月9日(月) 13:00~14:30 WEB形式
プログラム	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開会(ご挨拶) 2. 介護現場の生産性向上の取組に関する政策動向 (厚生労働省老健局高齢者支援課) 3. 講義 (講師:株式会社 TRAPE 鎌田大啓 氏) ① 介護現場における生産性向上の意義・取組手順の概要説明 ② 伴走支援の考え方と支援事例の紹介 4. 事務連絡 (社会福祉法人善光会、株式会社 NTT データ経営研究所) 5. 閉会
開催回・日時/形式	第2回:令和7年2月18日(火) 13:30~15:00 WEB形式
プログラム	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開会(ご挨拶) 2. 介護現場の生産性向上の取組に関する政策動向 (厚生労働省老健局高齢者支援課) 3. 伴走支援事例の共有 ① (講師:株式会社ビーブリッド 代表取締役 竹下康平氏) 4. 伴走支援事例の共有 ② (講師:株式会社 Giver Link 最高執行責任者 那須智樹氏) 5. 質疑応答 (株式会社ビーブリッド 代表取締役 竹下康平氏、株式会社 Giver Link 最高執行責任者 那須智樹氏) 6. 事務連絡 (株式会社 NTT データ経営研究所) 7. 閉会

セミナーへの申込者数は第1回 494名、第2回 443名であった。なお、第2回のセミナーより、外部の介護事業所へ伴走支援を行った経験のある企業等に対して同意を取得した上で、有識者情報として都道府県、ワンストップ窓口へ共有した。

図表 5-17 伴走支援を行う企業等に対する研修会のリーフレット(第1回、第2回)

厚生労働省 令和6年度 介護現場の生産性向上に向けた介護ロボット等の開発・実証・普及・広報のプラットフォーム構築 中央管理事業 伴走支援を行う企業等に対する研修会

介護現場における 生産性向上の 伴走支援を行う企業等向け ONLINE SEMINAR

本オンラインセミナーは、各地域で介護現場における生産性向上の取組を支援、または今後支援を行う予定の企業や団体等の皆様方に対して、最新の政策動向、生産性向上ガイドラインを踏まえた介護現場における生産性向上の意義・基本手順、伴走支援の考え方や支援事例の共有を通して、地域における生産性向上の取組の支援力を強化するとともに地域のモデル事業所の育成・横展開が更に活性化されることを目的に開催いたします。

- ▶ 対象 介護現場における生産性向上の取組を支援する企業・団体・個人
- ▶ 開催形式 オンライン (zoom)
- ▶ 参加費用 無料
- ▶ 定員 上限なし

第1回

9/9 13:00-14:30

講師
株式会社TRAPE
代表取締役/CEO/CDW
鎌田大吾 氏

介護サービス事業の生産性向上に関する厚生労働省事業に、2017年の開始以来10年、介護現場の生産性向上の推進に大きな役割を果たすべく、働き方改革、導入人材育成、Well-Being教育などを通じて各方面で介護の業界をリードしている。

プログラム	
プログラム概要	説明
開会	厚生労働省
介護現場の生産性向上の取組に関する政策動向	厚生労働省
介護現場における生産性向上の意義・取組手順の概要説明	株式会社TRAPE 鎌田大吾 氏
伴走支援の考え方や支援事例の紹介	株式会社TRAPE 鎌田大吾 氏
事務連絡・閉会	事務局

お申込はこちら (9/4まで) <https://forms.gle/8YknRPHhBpKCaE7>

事務局 株式会社NTTデータ経営研究所 Email: platform.chuckanri@nttdata-strategy.com

厚生労働省 令和6年度 介護現場の生産性向上に向けた介護ロボット等の開発・実証・普及・広報のプラットフォーム構築 中央管理事業 伴走支援を行う企業等に対する研修会

介護現場における 生産性向上の 伴走支援を行う企業等向け ONLINE SEMINAR

本オンラインセミナーは、各地域で介護現場における生産性向上の取組を支援、または今後支援を行う予定の企業や団体等の皆様方に対して、最新の政策動向、生産性向上ガイドラインを踏まえた介護現場における生産性向上の意義・基本手順、伴走支援の考え方や支援事例の共有を通して、地域における生産性向上の取組の支援力を強化するとともに地域のモデル事業所の育成・横展開が更に活性化されることを目的に開催いたします。

- ▶ 対象 介護現場における生産性向上の取組を支援する企業・団体・個人
- ▶ 開催形式 オンライン (zoom)
- ▶ 参加費用 無料
- ▶ 定員 上限なし

開催日時

**2/18 (火)
13:30-15:00**

登録者決定!

これまで介護現場における生産性向上の伴走支援等を手掛けてきた、2社の経験豊富なコンサルタントの皆様、介護ロボット・ICTの導入・活用等の支援事例をご紹介いただきます。

- ・株式会社ビーブリード 代表取締役 竹下康平氏
- ・株式会社Giver Link 最高執行責任者 那波智穂氏 (登壇順)

プログラム	
プログラム概要	説明
開会	厚生労働省
介護現場の生産性向上の取組に関する政策動向	厚生労働省
伴走支援事例の共有 ①	株式会社ビーブリード
伴走支援事例の共有 ②	株式会社Giver Link
事務連絡・閉会	事務局

お申込はこちら (2/11まで) <https://forms.gle/fS7jxgEgAPZRMTWd6>

※ 本セミナーの対象者は外部の介護事業所に対して、伴走支援を実施している方、または予定している方となります。

事務局 株式会社NTTデータ経営研究所 Email: platform.chuckanri@nttdata-strategy.com

第6章 相談窓口・リビングラボネットワーク連絡会議について

第1節 目的

相談窓口・リビングラボネットワーク連絡会議は、相談窓口とリビングラボネットワークの連携を強化し、その取組をより効果的なものとすることを目的として開催した。

第2節 実施内容

第1項 第1回相談窓口・リビングラボネットワーク連絡会議

(1)会議の開催概要

開催日時/形式	令和6年7月 16 日 (火) 15:35-17:25 対面とWEB のハイブリッド会議
会議議長	社会福祉法人横浜市リハビリテーション事業団 横浜市総合リハビリテーションセンター 副センター長 渡邊愼一 氏
出席組織	<相談窓口> ・ 公益財団法人いきいき岩手支援財団 岩手県高齢者総合支援センター ・ とちぎ福祉プラザモデルルーム 福祉用具・介護ロボット相談・活用センター ・ 社会福祉法人埼玉県社会福祉協議会 介護すまいる館 ・ 公益財団法人介護労働安定センター 福井支部 介護ロボット・ICT 相談窓口 ・ 同 奈良支部 介護ロボット・ICT 相談窓口 ・ 同 鳥取支部 介護ロボット・ICT 相談窓口 ・ 同 山口支部 介護ロボット・ICT 相談窓口 ・ 同 香川支部 介護ロボット・ICT 相談窓口 ・ 同 佐賀支部 介護ロボット・ICT 相談窓口 ・ 同 熊本支部 介護ロボット・ICT 相談窓口 ・ 同 本部 <リビングラボ> ・ 国立大学法人東北大学 青葉山リビングラボ ・ 国立研究開発法人産業技術総合研究所 柏リビングラボ ・ SOMPO ケア株式会社 Future Care Lab in Japan ・ 株式会社善光総合研究所 Care Tech Lab ・ 国立研究開発法人国立長寿医療研究センター 健康長寿支援ロボットセンター ・ 藤田医科大学 ロボティクススマートホーム・活動支援機器研究実証センター

- ・吉備高原医療リハビリテーションセンター
ロボット活動支援機器実証センター
- ・国立大学法人九州工業大学 スマートライフケア共創工房

<ワンストップ窓口> ※名称は会議時点の仮称のものを含む

- ・北海道介護現場業務改善総合相談センター
- ・あおもり介護生産性向上相談センター
- ・宮城県介護事業所支援相談センター
- ・秋田介護業務「カイゼン」サポートセンター
- ・山形県介護生産性向上総合支援センター
- ・介護職場サポートセンターTOKYO
- ・神奈川県介護生産性向上総合相談センター
- ・福井県介護生産性向上総合相談センター
- ・山梨県介護福祉総合支援センター
- ・岐阜県介護生産性向上総合相談センター
- ・あいち介護生産性向上総合相談センター
- ・みえ介護生産性向上支援センター
- ・滋賀県介護現場革新サポートデスク
- ・ひょうご介護テクノロジー導入・生産性向上支援センター
- ・和歌山県介護生産性向上総合相談センター
- ・介護サポートセンターひろしま
- ・愛媛県社会福祉協議会
- ・福岡県生産性向上支援センター
- ・ながさき介護現場サポートセンター
- ・大分県介護 DX サポートセンター
- ・鹿児島県介護実習・普及センター

<都道府県>

- ・北海道 保健福祉部 福祉局 高齢者保健福祉課 介護人材係
- ・岩手県 保健福祉部 長寿社会課
- ・宮城県 保健福祉部 長寿社会政策課
- ・秋田県 健康福祉部 長寿社会課
- ・福島県 高齢福祉課
- ・埼玉県 福祉部 高齢者福祉課
- ・千葉県 健康福祉部 高齢者福祉課
- ・東京都 福祉局 高齢者施策推進部 介護保険課 介護人材担当

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 神奈川県 福祉子どもみらい局 福祉部 高齢福祉課 福祉施設グループ ・ 新潟県 福祉保健部 高齢福祉保健課 ・ 富山県 厚生部 高齢福祉課 介護保険係 ・ 石川県 健康福祉部 長寿社会課/厚生政策課 ・ 福井県 健康福祉部 長寿福祉課 ・ 山梨県 福祉保健部 健康長寿推進課 ・ 静岡県 健康福祉部 介護保険課 ・ 愛知県 福祉局 高齢福祉課 介護人材確保グループ ・ 滋賀県 健康医療福祉部 医療福祉推進課 ・ 京都府 健康福祉部 地域福祉推進課 ・ 大阪府 福祉部 高齢介護室 介護事業者課 整備調整グループ ・ 兵庫県 福祉部 高齢政策課 ・ 岡山県 子ども・福祉部 長寿社会課 ・ 山口県 健康福祉部 長寿社会課 介護保険班 ・ 徳島県 保健福祉部 長寿いきがい課 施設サービス指導担当 ・ 香川県 健康福祉部 長寿社会対策課 ・ 佐賀県 健康福祉部 長寿社会課 サービス指導担当 ・ 鹿児島県 保健福祉部 高齢者 生き生き推進課 介護保険室 ・ 沖縄県 保健医療介護部 高齢者介護課 <p><オブザーバー></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 厚生労働省 ・ 経済産業省 <p><事務局></p> <p>株式会社 NTT データ経営研究所</p>
目的	<ul style="list-style-type: none"> ・ 政策動向、本事業の進捗を共有すること ・ 各拠点(相談窓口、リビングラボ、ワンストップ窓口等)の理解を相互に深め、連携を促進すること
アジェンダ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開会の挨拶 2. 介護現場における生産性向上の推進について 3. 経済産業省におけるロボット介護機器政策について 4. 事業概要・進捗共有 5. グループディスカッション <p>テーマ(例):</p>

	<p>①各拠点の自己紹介、現状</p> <p>②相談窓口・ワンストップ窓口の立ち上げに伴う課題と工夫</p> <p>③相談者(介護事業所、開発企業)の困りごと、関心、必要な支援</p> <p>6. 閉会の挨拶</p>
--	--

第2項 第2回相談窓口・リビングラボネットワーク連絡会議

(1)会議の開催概要

開催日時/形式	令和7年3月5日(水) 13:05-14:55 WEB 会議
会議議長	社会福祉法人横浜市リハビリテーション事業団 横浜市総合リハビリテーションセンター 副センター長 渡邊愼一 氏
出席組織	<p><相談窓口></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 公益財団法人いきいき岩手支援財団 岩手県高齢者総合支援センター ・ とちぎ福祉プラザモデルルーム 福祉用具・介護ロボット相談・活用センター ・ 公益財団法人介護労働安定センター 茨城支部 介護ロボット・ICT 相談窓口 ・ 社会福祉法人埼玉県社会福祉協議会 介護すまいる館 ・ 公益財団法人介護労働安定センター 福井支部 介護ロボット・ICT 相談窓口 ・ 公益財団法人介護労働安定センター 鳥取支部 介護ロボット・ICT 相談窓口 ・ 公益財団法人介護労働安定センター 山口支部 介護ロボット・ICT 相談窓口 ・ 公益財団法人介護労働安定センター 熊本支部 介護ロボット・ICT 相談窓口 ・ 鹿児島県介護生産性向上総合相談センター ・ 公益財団法人 介護労働安定センター <p><リビングラボ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 国立研究開発法人産業技術総合研究所 柏リビングラボ ・ SOMPO ケア株式会社 Future Care Lab in Japan ・ 株式会社善光総合研究所 Care Tech Lab ・ 国立研究開発法人国立長寿医療研究センター 健康長寿支援ロボットセンター ・ 藤田医科大学

	<p>ロボティクススマートホーム・活動支援機器研究実証センター</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 吉備高原医療リハビリテーションセンター ロボット活動支援機器実証センター ・ 国立大学法人九州工業大学 スマートライフケア共創工房 <p><ワンストップ窓口></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 山形県介護生産性向上総合支援センター ・ ふくしま介護生産性向上支援センター ・ 大分県介護 DX サポートセンター <p><オブザーバー></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 厚生労働省 ・ 経済産業省 <p><事務局></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 株式会社 NTT データ経営研究所
目的	<ul style="list-style-type: none"> ・ 介護ロボットに関連する政策動向、および本事業の進捗を共有すること ・ 「介護分野における KPI」の達成に寄与すること
アジェンダ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開会の挨拶 2. 厚生労働省による介護ロボットに関する政策について 3. 経済産業省におけるロボット介護機器に関する政策について 4. 相談窓口の取組報告 5. 中央管理事業の取組報告 6. リビングラボおよびニーズ・シーズマッチング支援事業の取組報告 7. 広報の取組報告 8. 閉会の挨拶

第7章 周知活動

第1節 ホームページの設置・運用

介護サービス事業所や開発企業等の介護ロボットの関係者に向けて相談窓口及びリビングラボの取組や支援内容を周知するため、当事業に関するホームページを設置し、運用を行った。

(1)ホームページの概要

図表 7-1 ホームページの概要

URL	https://www.mhlw.go.jp/kaigoseisansei/pf/
閲覧ターゲット	1. 介護サービス事業所全般 (特に介護ロボットの導入に関心のある介護サービス事業所) 2. 介護ロボットの開発・普及に関心のある企業
開設日	2024年4月1日
掲載情報	・事業概要 ・介護サービス事業所向けの情報 ▶ 【相談窓口】介護ロボットの導入や活用の相談について ▶ 介護ロボットに関する研修会について ▶ 相談事例について ・開発企業向けの情報 ▶ 【リビングラボ】介護ロボットの製品評価・効果検証の相談について ▶ 【相談窓口】研究開発や製品PRの相談について ▶ 相談・支援事例について ▶ 介護テクノロジー利用の重点分野について ・ニーズ・シーズマッチング支援事業について ・お役立ち情報 ▶ 助成金・補助金等について ▶ <分野別>介護ロボットの活用事例について ▶ セミナーに関する情報について ▶ 本事業に関連した取組やコラムについて ▶ その他、関連情報のリンク
URL	https://www.mhlw.go.jp/kaigoseisansei/pf/
閲覧ターゲット	1. 介護サービス事業所全般 (特に介護ロボットの導入に関心のある介護サービス事業所) 2. 介護ロボットの開発・普及に関心のある企業

(2)ホームページの詳細

① トップページ

図表 7-2 事業全体のトップページ(一部、2025年2月12日現在)



②各相談窓口のホームページ

図表 7-3 各相談窓口のホームページの URL

窓口名	URL
(公財)いきいき岩手支援財団 岩手県高齢者総合支援センター	http://www.silverz.or.jp/ikrobo/
(公財)介護労働安定センター茨城支部 介護ロボット・ICT 相談窓口	https://www.kaigo-center.or.jp/shibu/ibaraki/contents/2.html
とちぎ福祉プラザモデルルーム 福祉用具・介護ロボット相談・活用センター	https://robot.normalization.jp/
(福)埼玉県社会福祉協議会 介護すまいる館	https://www.fukushi-saitama.or.jp/site/care-smile/about_5.html
介護テクノロジー・業務改善支援センター福井・石川	https://www.kaigo-center.or.jp/shibu/fukui/info/2024/14228.html
(公財)介護労働安定センター奈良支部 介護ロボット・ICT 相談窓口	https://www.kaigo-center.or.jp/shibu/nara/contents/2.html
(公財)介護労働安定	https://www.kaigo-center.or.jp/shibu/tottori/contents/2.html

センター鳥取支部 介護ロボット・ICT 相談窓口	
(公財)介護労働安定センター山口支部 介護ロボット・ICT 相談窓口	https://www.kaigo-center.or.jp/shibu/yamaguchi/contents/2.html
(公財)介護労働安定センター香川支部 介護ロボット・ICT 相談窓口	https://www.kaigo-center.or.jp/shibu/kagawa/contents/2.html
(公財)介護労働安定センター佐賀支部 介護ロボット・ICT 相談窓口	https://www.kaigo-center.or.jp/shibu/saga/contents/2.html
(公財)介護労働安定センター熊本支部 介護ロボット・ICT 相談窓口	https://www.kaigo-center.or.jp/shibu/kumamoto/contents/2.html
窓口名	URL
(公財)いきいき岩手支援財団 岩手県高齢者総合支援センター	http://www.silverz.or.jp/ikrobo/
(公財)介護労働安定センター茨城支部 介護ロボット・ICT 相談窓口	https://www.kaigo-center.or.jp/shibu/ibaraki/contents/2.html
とちぎ福祉プラザモデルルーム 福祉用具・介護ロボット相談・活用センター	https://robot.normalization.jp/
(福)埼玉県社会福祉協議会 介護すまいる館	https://www.fukushi-saitama.or.jp/site/care-smile/about_5.html
介護テクノロジー・業務改善支援センター福	https://www.kaigo-center.or.jp/shibu/fukui/info/2024/14228.html

井・石川	
(公財)介護労働安定センター奈良支部 介護ロボット・ICT 相談窓口	https://www.kaigo-center.or.jp/shibu/nara/contents/2.html
(公財)介護労働安定センター鳥取支部 介護ロボット・ICT 相談窓口	https://www.kaigo-center.or.jp/shibu/tottori/contents/2.html
(公財)介護労働安定センター山口支部 介護ロボット・ICT 相談窓口	https://www.kaigo-center.or.jp/shibu/yamaguchi/contents/2.html
(公財)介護労働安定センター香川支部 介護ロボット・ICT 相談窓口	https://www.kaigo-center.or.jp/shibu/kagawa/contents/2.html
(公財)介護労働安定センター佐賀支部 介護ロボット・ICT 相談窓口	https://www.kaigo-center.or.jp/shibu/saga/contents/2.html
(公財)介護労働安定センター熊本支部 介護ロボット・ICT 相談窓口	https://www.kaigo-center.or.jp/shibu/kumamoto/contents/2.html

③各リビングラボのホームページ

図表 7-4 各リビングラボのホームページの URL

リビングラボ名	URL
東北大学青葉山リビングラボ	https://srd.mech.tohoku.ac.jp/ja/living-lab/
Care Tech Lab (株)善光総合研究所)	https://zenkou-lab.co.jp/
Future Care Lab in	https://futurecarelab.com/

Japan (SOMPO ケア(株))	
柏リビングラボ (国研)産業技術総合研究所)	https://unit.aist.go.jp/harc/arrt/ARRT.html
藤田医科大学 ロボティクススマートホーム・活動支援機器研究実証センター	https://www.fujita-hu.ac.jp/rsh-aat/
(国研)国立長寿医療研究センター健康長寿支援ロボットセンター	https://platform.ncgg.go.jp/
ロボット活動支援機器実証センター (吉備高原医療リハビリテーションセンター)	https://www.kibirihah.johas.go.jp/003_reha/16_kaigo_robo.html
スマートライフケア共創工房 ((大)九州工業大学)	https://slc3lab.jp/
リビングラボ名	URL
東北大学青葉山リビングラボ	https://srd.mech.tohoku.ac.jp/ja/living-lab/
Care Tech Lab ((株)善光総合研究所)	https://zenkou-lab.co.jp/
Future Care Lab in Japan (SOMPO ケア(株))	https://futurecarelab.com/
柏リビングラボ (国研)産業技術総合研究所)	https://unit.aist.go.jp/harc/arrt/ARRT.html
藤田医科大学 ロボティクススマート	https://www.fujita-hu.ac.jp/rsh-aat/

ホーム・活動支援 機器研究実証セン ター	
(国研)国立長寿 医療研究センター 健康長寿支援ロボ ットセンター	https://platform.ncgg.go.jp/
ロボット活動支援 機器実証センター (吉備高原医療リ ハビリテーションセ ンター)	https://www.kibirihah.johas.go.jp/003_reha/16_kaigo_robo.html
スマートライフケア 共創工房 ((大) 九州工業大学)	https://slc3lab.jp/

④各ワンストップ窓口のホームページ

図表 7-5 各ワンストップ窓口のホームページの URL

介護生産性向上総合相談センター名	URL
北海道介護現場業務改善総合相談センター	http://www.dosyakyo.or.jp/carerobot/
あおもり介護生産性向上相談センター	https://aosyakyo.jp/
宮城県介護事業所支援相談センター	https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/chouju/shien-center.html
あきた介護業務「カイゼン」サポートセンター	https://www.kaigo-center.or.jp/shibu/akita/contents/3.html
山形県介護生産性向上総合支援センター	https://y-kaigoseisan.com/
ふくしま介護生産性向上支援センター	https://fmddsc.jp/
千葉県介護業務効率アップセンター	https://chiba-kaigocenter.com/
介護職場サポートセンターTOKYO	https://www.fukushizaidan.jp/206genbakaikaku/support-center/
神奈川県介護生産性向上総合相談センター	https://carerobot.kanafuku.jp/preadvisor/
新潟県介護職場 DX・業務改善サポートセンタ ー	https://www.kaigo-center.or.jp/shibu/niigata/info/2024/14283.html
とやま介護テクノロジー普及・推進センター	https://toyama-kaitech.jp/

ふくい介護テクノロジー・業務改善支援センター	https://www.kaigo-center.or.jp/shibu/fukui/info/2024/14228.html
山梨県介護福祉総合支援センター	https://sites.google.com/view/yamanashi-kaigosougoushien/
長野県介護・障がい福祉生産性向上総合相談センター	https://www.kaigo-center.or.jp/shibu/nagano/info/2024/14287.html
岐阜県介護生産性向上総合相談センター	https://www.kaigo-center.or.jp/shibu/gifu/
あいち介護生産性向上総合相談センター	https://www.kaigo-center.or.jp/shibu/aichi/contents/2.html
みえ介護生産性向上支援センター	https://mie-seisan.com/
滋賀県介護現場革新サポートデスク	https://www.shigashakyo.jp/kaigosupport/
大阪府介護生産性向上支援センター	https://www.ageless.gr.jp/seisan/
ひょうご介護テクノロジー導入・生産性向上支援センター	https://hyogo-kaigotech.jp/
和歌山県介護生産性向上総合相談センター	https://wakayamakenshakyo.or.jp/~jinzai/?page_id=5908
岡山県介護生産性向上総合相談センター	https://okayama-kaigocenter.com/
介護職場サポートセンターひろしま	https://care-robot.org/
愛媛県介護生産性向上総合相談センター	https://www.pref.ehime.jp/page/72086.html
こうち介護生産性向上総合支援センター(介護労働安定センター高知支部内)	https://www.kaigo-center.or.jp/shibu/kouchi/contents/3.html
福岡県介護DX支援センター	https://www.f-technology-supportcenter.jp/

ながさき介護現場サポートセンター	https://aes-medicalwelfare.com/n-kaigo/
大分県介護 DX サポートセンター	https://oita-kaigorobot.com/
みやざき介護生産性向上総合相談センター	https://www.kaigo-center.or.jp/shibu/miyazaki/contents/2.html
鹿児島県介護生産性向上総合相談センター	https://www.kaken-shakyo.jp/pages/109/
介護生産性向上総合相談センター名	URL
北海道介護現場業務改善総合相談センター	http://www.dosyakyo.or.jp/carerobot/
あおもり介護生産性向上相談センター	https://aosyakyo.jp/
宮城県介護事業所支援相談センター	https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/chouju/shien-center.html
あきた介護業務「カイゼン」サポートセンター	https://www.kaigo-center.or.jp/shibu/akita/contents/3.html
山形県介護生産性向上総合支援センター	https://y-kaigoseisan.com/
ふくしま介護生産性向上支援センター	https://fmddsc.jp/
千葉県介護業務効率アップセンター	https://chiba-kaigocenter.com/
介護職場サポートセンターTOKYO	https://www.fukushizaidan.jp/206genbakaikaku/support-center/
神奈川県介護生産性向上総合相談センター	https://carerobot.kanafuku.jp/preadvisor/
新潟県介護職場 DX・業務改善サポートセンター	https://www.kaigo-center.or.jp/shibu/niigata/info/2024/14283.html
とやま介護テクノロジー普及・推進センター	https://toyama-kaitech.jp/
ふくい介護テクノロジー・業務改善支援センター	https://www.kaigo-center.or.jp/shibu/fukui/info/2024/14228.html
山梨県介護福祉総合支援センター	https://sites.google.com/view/yamanashi-kaigosougoushien/
長野県介護・障がい福祉生産性向上総合相談センター	https://www.kaigo-center.or.jp/shibu/nagano/info/2024/14287.html

岐阜県介護生産性向上総合相談センター	https://www.kaigo-center.or.jp/shibu/gifu/
あいち介護生産性向上総合相談センター	https://www.kaigo-center.or.jp/shibu/aichi/contents/2.html
みえ介護生産性向上支援センター	https://mie-seisan.com/
滋賀県介護現場革新サポートデスク	https://www.shigashakyo.jp/kaigosupport/
大阪府介護生産性向上支援センター	https://www.ageless.gr.jp/seisan/
ひょうご介護テクノロジー導入・生産性向上支援センター	https://hyogo-kaigotech.jp/
和歌山県介護生産性向上総合相談センター	https://wakayamakenshakyo.or.jp/~jinzai/?page_id=5908
岡山県介護生産性向上総合相談センター	https://okayama-kaigocenter.com/
介護職場サポートセンターひろしま	https://care-robot.org/
愛媛県介護生産性向上総合相談センター	https://www.pref.ehime.jp/page/72086.html
こうち介護生産性向上総合支援センター(介護労働安定センター高知支部内)	https://www.kaigo-center.or.jp/shibu/kouchi/contents/3.html
福岡県介護DX支援センター	https://www.f-technology-supportcenter.jp/
ながさき介護現場サポートセンター	https://aes-medicalwelfare.com/n-kaigo/
大分県介護 DX サポートセンター	https://oita-kaigorobot.com/
みやざき介護生産性向上総合相談センター	https://www.kaigo-center.or.jp/shibu/miyazaki/contents/2.html
鹿児島県介護生産性向上総合相談センター	https://www.kaken-shakyo.jp/pages/109/

⑤ホームページの更新内容

令和6年度におけるホームページの更新内容は次のとおりである。

図表 7-6 ホームページの更新日と更新内容(2025年2月12日現在)

更新日	更新内容(概要)	
2024年	4月1日	ホームページ開設
	4月11日	「介護現場の生産性向上に向けた介護ロボット等の開発・実証・普及広報のプラットフォーム事業」および「ニーズ・シーズマッチング支援事業」のホームページ URL が変更された旨を周知
	6月3日	相談窓口8拠点の新設を周知
	6月5日	生産性向上の取組の普及・拡大に向けた介護事業所向けセミナー、生産性向上の取組の定着セミナーの周知
	6月21日	「ニーズ×シーズ マッチングセミナー2024～現場で活用される介護テクノロジーを作り出すために～」の参加者の募集を周知
	6月21日	茨城窓口主催「生産性向上の取組を成功させる！～テクノロジーの活用～業務の効率化と介護の質を向上させるためのセミナー～」の研修会情報を公開
	6月21日	栃木窓口主催「第2回介護 ICT・ロボット導入研修会」の研修会情報を公開
	6月21日	香川窓口主催「介護ロボット導入普及のための研修会」の研修会情報を公開
	6月21日	山口窓口主催「介護現場の課題を可能性に変える！生産性向上の取組みセミナー ～テクノロジー活用を成功させるために押さえるポイント～」の研修会情報を公開
	7月24日	鳥取窓口主催「介護現場におけるテクノロジーを活用した生産性向上の取り組みセミナー」の研修会情報を公開
	8月1日	「ロボット技術の介護利用における重点分野」の改訂を周知
	8月15日	「令和6年度介護ロボットの試用貸出リスト」、「介護ロボットの試用貸出リスト【概要版】」を公開
	8月26日	「介護現場における生産性向上の伴走支援を行う企業等向け ONLINE SEMINAR」の情報を周知
	9月5日	国際福祉機器展(HCR2024)への出展を周知
	9月27日	熊本窓口主催「介護ロボットICT機器の導入・活用普及のための研修会(第2回)」の研修会情報を公開
	9月27日	「介護現場の生産性向上に関するダッシュボード」の公開を周知
10月9日	栃木窓口主催「第3回介護 ICT・ロボット導入研修会「介護テクノロジ	

		一定着支援事業の概要と導入プロセス」の研修会情報を公開
	10月21日	「保健医療科学」への寄稿を周知
	10月21日	国際福祉機器展(HCR2024)への出展報告を公開
	11月28日	厚生労働省のホームページにおける「介護テクノロジー利用の重点分野」ページの公開を周知
	12月9日	「2024年度介護現場における生産性向上推進フォーラム」の情報を周知
	12月19日	介護ロボットの試用貸出について周知

第2節 事業パンフレットの作成・配布

相談窓口やリビングラボをはじめ、イベント等での配布や関係団体等への周知を目的に、事業パンフレットを作製した。各相談窓口やリビングラボには、各拠点で自由に増刷できるように、紙媒体に加えデータ版のパンフレットも併せて配布した。

パンフレットの構成は以下の通りである。

図表 7-7 事業パンフレットの構成

ページ	掲載内容(概要)
表紙	・ 本事業の概要
中面	<ul style="list-style-type: none"> ・ 相談窓口の取組について <ul style="list-style-type: none"> ➤ 相談窓口とは ➤ 相談窓口の取組 ・ リビングラボの取組について <ul style="list-style-type: none"> ➤ リビングラボとは ➤ リビングラボの取組 ・ 介護ロボットのニーズ・シーズマッチング支援事業 <ul style="list-style-type: none"> ➤ 相談窓口とリビングラボ活用の流れ
裏表紙	・ 相談窓口 11 拠点、リビングラボ 8 拠点、ワンストップ窓口 26 拠点(令和 6 年 8 月末時点)

図表 7-8 事業パンフレットのデザイン

令和6年度 介護現場の生産性向上に向けた 介護ロボット等の開発・実証・普及広報のプラットフォーム

介護ロボットの現場への導入相談や体験・試用をしたい

介護ロボットの開発や実証に関する助言が欲しい

**全国の介護現場、介護ロボットの開発企業の皆様
介護ロボットの实証開発普及を支援する
プラットフォーム^(*)を運営しております。**

* 厚生労働省「介護現場の生産性向上に向けた介護ロボット等の開発・実証・普及広報のプラットフォーム事業」(以下、本事業)

プラットフォーム事業とは?

本事業は、地域における相談窓口の設置、介護ロボットの評価・効果検証を実施するリビングラボ(開発の促進拠点)を含む関係機関とのネットワークの形成、実証フィールドの整備等を行うことで、全国版プラットフォームを構築し、介護ロボットの開発・実証・普及の流れを加速化することを目標としています。

相談窓口

本事業の相談窓口は、介護現場のニーズを把握し、導入や開発に関する相談や実証に関する助言を行います。

リビングラボ

介護ロボットの開発・実証を行うための拠点です。開発企業と介護現場が連携し、実証を行うことができます。

実証フィールド

介護ロボットの開発・実証を行うための現場です。開発企業と介護現場が連携し、実証を行うことができます。

介護現場の生産性向上に向けた介護ロボット等の開発・実証・普及広報のプラットフォーム

相談窓口

各都道府県に相談窓口を設置し、介護現場のニーズを把握し、導入や開発に関する相談や実証に関する助言を行います。

リビングラボ

各都道府県にリビングラボを設置し、介護現場と開発企業が連携し、実証を行うことができます。

実証フィールド

各都道府県に実証フィールドを設置し、介護ロボットの開発・実証を行うための現場です。

本事業の関連情報

- 本事業の詳細情報について
- 本事業のお問い合わせ先

ホームページ
URL: <https://www.mhlw.go.jp/kaigoseisensei/pl/index.html>
事務局 株式会社NTTデータ経営研究所
Email: plat2020@nttdata-strategy.com

ひと、くらし、みらいのために
厚生労働省 Ministry of Health, Labour and Welfare

NTT DATA 株式会社NTTデータ経営研究所

相談窓口の取組について

相談窓口とは

各地域において、介護ロボットに関する介護現場(ニーズ)と開発企業(ニーズ)双方からの相談の受付等を行う一元的窓口です。現在、全国で11箇所を設置されています。

相談窓口の取組

介護現場への支援

- 各種相談への対応**
介護ロボットの導入方法や活用方法に関する、介護現場からの相談に対応します。具体的には、介護ロボットを活用した介護現場の業務改善方法の紹介、導入事例、介護ロボットの製品情報や補助金・基金の紹介等を行います。
- 介護ロボットの試用貸出**
介護ロボットを試用してみたいという介護現場から、介護ロボットの試用貸出依頼を受け付け、試用貸出企業へ取り次ぎを行います。
- 体験展示**
現場での活用をイメージできる場として、介護ロボットに触れ、体験することが出来る展示場を用意しています。中には、各種相談への対応と体験展示を兼ねる場所を実施している相談窓口もあるため、個別にお問合せ下さい。

開発企業への支援

- 各種相談への対応**
介護ロボットの研究開発や製品のPR等に関する相談に対し、介護ロボットの開発にあたっての補助金の紹介や出展可能なイベントの紹介等を行います。また、開発企業より製品開発・効果検証に関する要望があった場合は、リビングラボネットワークへ取り次ぐことが可能です。

リビングラボの取組について

リビングラボとは

リビングラボは、実際の生活空間を再現し、新しい技術やサービスの開発を行うことで、介護現場のニーズを踏まえた介護ロボット等の開発を促進するための拠点です。「現場での介護ロボットの実証評価をしたい」「実際の介護現場で使えるのかどうか検証したい」といった開発企業の要望を支援します。

本事業に参画するリビングラボは現在全国で8施設です。これらのリビングラボが本事業を通じてネットワークを構築し、それぞれの強みを生かしながら開発企業の皆様をサポートしていきます。

リビングラボの取組

開発企業への支援

- 介護ロボットの製品評価・効果検証**
開発企業からの要望に応じて、製品化にあたって開発中のロボットの安全性や使用効果の評価・検証を実施します。
- 効果検証に係る助言**
開発企業からの要望に応じて、介護現場での実証に当たり、実証時の評価・データ分析方法への専門的・技術的助言を実施します。

介護サービスの質の向上・効率的なサービス提供に向けた対応

介護サービスの質の向上・効率的なサービス提供に向けた介護現場での大規模実証等を実施します。

相談窓口とリビングラボ活用の流れ

相談窓口・リビングラボの活用の流れ

- お住まいの地域の相談窓口へアクセス(電話・メール等での予約または、直接訪問も可)※事前予約を行っていただくシステムはご案内内です
- 相談窓口にて各種サービスの概要及び必要な手続きを案内
- 相談内容に応じて介護ロボットに関する各サービス(相談対応、試用貸出、体験展示)を利用
- 開発企業の方は相談窓口より取り次ぎを受けた上で、リビングラボの各サービス(製品評価・効果検証、効果検証に係る助言)を利用

相談窓口

リビングラボ

実証フィールド

本プラットフォームを利用した試用貸出や実証において発生する事故・トラブル等に備えて、民間の賠償責任保険への加入や使用状況の記録等の詳細について介護施設等と開発企業等で直接取り決めていただきますようお願いいたします。

パンフレットの配布先は次のとおりである。

図表 7-9 事業パンフレットの配布先

配布先	部数(枚)
(公財)いきいき岩手支援財団 岩手県高齢者総合支援センター	750
(公財)介護労働安定センター茨城支部 介護ロボット・ICT 相談窓口	750
とちぎ福祉プラザモデルルーム 福祉用具・介護ロボット相談・活用センター	450
(福)埼玉県社会福祉協議会 介護すまいる館	225
介護テクノロジー・業務改善支援センター福井・石川	1500
(公財)介護労働安定センター奈良支部 介護ロボット・ICT 相談窓口	1500
(公財)介護労働安定センター鳥取支部 介護ロボット・ICT 相談窓口	750
(公財)介護労働安定センター山口支部 介護ロボット・ICT 相談窓口	450
(公財)介護労働安定センター香川支部 介護ロボット・ICT 相談窓口	450
(公財)介護労働安定センター佐賀支部 介護ロボット・ICT 相談窓口	225
(公財)介護労働安定センター熊本支部 介護ロボット・ICT 相談窓口	450
東北大学青葉山リビングラボ	150
Care TechLab((株)善光総合研究所)	30
Future Care Lab in Japan(SOMPO ケア(株))	150
柏リビングラボ ((国研)産業技術総合研究所)	150
藤田医科大学 ロボティックススマートホーム・活動支援機器研究実証センター	180
(国研)国立長寿医療研究センター 健康長寿支援ロボットセンター	150
ロボット活動支援機器実証センター(吉備高原医療リハビリテーションセンター)	75
スマートライフケア共創工房 ((大)九州工業大学)	450

第3節 国際福祉機器展への出展

介護サービス事業所及び開発企業等に向けて本事業の周知を図るため、第 51 回国際福祉機器展(以下、H.C.R.)に出展した。H.C.R.の出展概要は次のとおりである。

図表 7-10 H.C.R.の出展概要

主催者	一般財団法人 保健福祉広報協会 (共済:社会福祉法人 全国社会福祉協議会)
出展場所	1. リアル展示ブース 2. 出展社プレゼンテーション 3. ウェブ展
主な来場者	福祉施設職員、ケアマネジャー、ホームヘルパー、福祉団体・ボランテ

(見込み)	ィア関係者、医師、看護師、PT、OT、リハビリに携わる方、保育士、栄養士、建築・設計関係者、製造業、販売業、行政、福祉・介護・医療・工学系学生、エンドユーザー、一般 ※H.C.R.のホームページを参照
入場料	無料

(1)リアル展示ブース

本事業の出展に関する概要は次のとおりである。

図表 7-11 リアル展示ブースの概要

日時	2024年10月2日(水)～4日(金)
場所	東京国際展示場「東京ビックサイト」 東展示ホール ブース番号:東5-07-07
対象	介護サービス事業所、開発企業、一般の方等
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 介護ロボットプラットフォーム事業の紹介 ・ ニーズ・シーズマッチング支援事業の紹介 ・ 関連事業のポスター展示 ・ 本事業に関連する事業におけるガイドライン、手引き、報告書等の配布
来場者数	延べ 123 名 (※ブースにおいて実際に名刺を交換した人数で読み換え)

図表 7-12 リアル出展ブースの様子



(2)出展社プレゼンテーション

主に介護ロボットの開発に携わる企業に向けて本事業を広く周知することを目的としたプレゼンテーションを対面形式で行った。概要は次のとおりである。

図表 7-13 出展社プレゼンテーションの概要

日時	2024年10月4日(金) 10:30~11:30
場所	東京国際展示場 東5ホール 会場B
対象	<ul style="list-style-type: none"> ・ 介護サービス事業所の経営者・介護従事者の方々、自治体における関係者(生産性向上に係る関係部署の方) ・ ワンストップ窓口、団体等の関係者 ・ 介護ロボット分野に新規参入しようとしている企業(要素技術を持つ企業を含む)、既に介護ロボットの開発に取り組んでいる企業 <p>※大企業・中小/ベンチャー企業の両方を対象とする</p>
内容	<p>【講演】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 介護ロボット等の開発・実証・普及広報のプラットフォーム事業・介護ロボットのニーズ・シーズ マッチング支援事業の紹介 ・ 介護分野の生産性向上に関する政策動向について ・ ワンストップ窓口の紹介 <p>【パネルディスカッション】</p> <p>介護テクノロジーの活用で生産性向上の課題をどう解決するか？ ~相談窓口・介護生産性向上総合相談センターの支援とは~</p>
講演者	<p>【講演・パネルディスカッション】</p> <p>株式会社 NTT データ経営研究所 厚生労働省 大分県介護生産性向上総合相談センター</p>
来場者数	70名

図表 7-14 出展社プレゼンテーションの様子



(3)ウェブ展

昨年度に引き続き、ウェブ上での出展も行った。本事業の概要は次のとおりである。

図表 7-15 ウェブ展の概要

日時	2024年9月2日(月)～11月1日(金)
場所	H.C.R.で用意されたホームページ上
対象	介護サービス事業所、開発企業、一般の方等 ※リアル展示と同様
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 介護ロボット等の開発・実証・普及広報のプラットフォーム事業の概要 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 相談窓口の概要 ➢ リビングラボの概要 ➢ ニーズ・シーズマッチング支援事業の概要 ➢ 介護ロボットの試用貸出リストの概要 ・ 資料 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 介護現場の生産性向上に向けた介護ロボット等の開発・実証・普及広報のプラットフォーム事業のパンフレット ➢ ニーズ・シーズマッチング支援事業のパンフレット ➢ 令和6年度試用貸出リスト(概要版)

	・ 出展社情報、問い合わせ先
アクセス数	延べ 193 名 (資料ダウンロード:28 件、製品訪問者数:72 名、来訪者数 93 名)

図表 7-16 ウェブ展のホームページ(トップページ)

国際福祉機器展 9月28日・11月1日

出展社検索 | 製品検索 | 出展社プレゼンテーションアーカイブ | H.C.R.セミナーアーカイブ | 国際シンポジウムアーカイブ | 国際福祉機器展公式ウェブサイトはこちら

介護ロボットの開発・実証・普及のプラットフォーム事業
厚生労働省委託事業者：NTTデータ経営研究所

小冊子 5-07-01

介護現場の生産性向上に向けた介護ロボット等の開発・実証・普及広報のプラットフォーム事業

本事業は、介護ロボット等の開発・実証・普及広報を支援するプラットフォームを運営しています。地域における相談窓口の設置、介護ロボットの実証・効果検証を実施するリビングラボ（開発の促進施設）を各7期間地域のネットワークの形成、実証フィールドの整備等を行うことで、全国版プラットフォームを構築し、介護ロボット等の開発・実証・普及広報の進捗を加速化することを目的としています。

資料ダウンロード

出展社情報・お問い合わせ

製品紹介

相談窓口

介護現場と開発企業からの相談を受け付けています！

リビングラボ

介護現場のニーズを踏まえた介護ロボットの開発を促進します！

ニーズ・シズマッチング実証事業

全国の介護現場が抱えている課題（ニーズ）と、開発企業が保有する製品やサービス

試用貸出リスト

「介護ロボットの活用」リスト（令和6年度 福祉用具・介護ロボット実用一企業が保有する製品やサービス）

資料ダウンロード

介護現場の生産性向上に向けた介護ロボット等の開発・実証・普及広報のプラットフォーム構築レポート

perpshir_202406.pdf

ニーズ・シズマッチング実証事業 パンフレット

kiyo-no-004.pdf

【開発】令和6年度介護ロボット実証事業リスト

【活用】令和6年度介護ロボット実証事業リスト_002_20240815.pdf

出展社プレゼンテーションパンフレット

和HCR国際福祉機器展プレゼンテーションパンフレット.pdf

出展社情報・お問い合わせ

出展社名 介護ロボットの開発・実証・普及のプラットフォーム事業 厚生労働省委託事業者：NTTデータ経営研究所

住所 東京都千代田区平河2-7-9JM共済ビル2DF

TEL 090-1123-1921

FAX 03-3221-7022

URL <https://www.mhcr.go.jp/kagyoisaisan/>

お名前*

会社名・団体名

部署

メール*

件名*

内容*

お問い合わせ送信

出展社プレゼンテーションはこちら

問い合わせ先

【H.C.R.事務局】
一般財団法人 保健福祉情報協会
〒230-8580
東京都中央区京橋3-3-2 新橋情報ビル5F
Email: info@hcr-japan.org

H.C.R. Official SNS:

プライバシーポリシー | サイトマップ

© 2024 Health and Welfare Information Association. All rights reserved.

このウェブサイトは、アクセスを分析するためにCookieを使用します。このウェブサイトのご利用に関する詳細は、下の「お問い合わせ先」または「プライバシーポリシー」をご覧ください。各社のパートナーと共有します。詳細は「プライバシーポリシー」をご覧ください。

図表 7-18 ウェブ展のホームページ(リビングラボ)

国際福祉機関展 9月2日(金)~11日(日)

出展企業 | 製品発表 | 出展社プレゼンテーションアーカイブ | H.C.R.セミナーアーカイブ | 出展社インタビューアーカイブ | 国際福祉機関展公式サイトはこちら

介護ロボットの開発・実証・普及のプラットフォーム事業
厚生労働省委託事業者：NTTデータ経営研究所

リビングラボの取組について

リビングラボとは
 リビングラボとは、実際の生活環境を再現し、新しい介護サービスの実証を行うこと。介護現場のニーズを踏まえた介護ロボットの開発を促進するための取組です。「現場の課題(介護現場)×製品開発(企業)×実証(介護現場)×実証(企業)」という関係性を構築し、介護現場の課題を解決するための取組です。
 ※本事業に参画するリビングラボは、地域を単位として、このリビングラボの取組を進め、介護現場での実証を行います。そのため、地域ごとに取組を進め、全国的な取組を進めています。

リビングラボの取組

- 1) 開発企業への支援
 介護現場での実証を通じて、製品開発に必要となる介護現場での実証環境を整えます。
- 2) 開発現場への参入促進
 開発現場での実証を通じて、介護現場での実証に必要となる介護現場での実証環境を整えます。
- 3) 介護サービスの質の向上・効率的なサービス提供に向けた対応
 介護現場での実証を通じて、介護現場での実証に必要となる介護現場での実証環境を整えます。

リビングラボ

介護現場のニーズを踏まえた介護ロボットの開発を促進します！

リビングラボは、実際の生活環境を再現し、新しい技術やサービスの開発を行うなど、介護現場のニーズを踏まえた介護ロボットの開発を促進するための取組です。現在本事業に参画するリビングラボは、全国で実施中です。

出展、福祉情報提供

福祉・介護・福祉IT・福祉関係者向け・福祉・福祉情報、福祉情報提供webサイト

製品情報

サポート窓口

製品仕様 **製品PR**

介護ロボットの製品評価、効果検証、実証環境に係る取組、介護サービスの質の向上・効率的なサービス提供に向けた対応

「現場での介護ロボットの製品評価をしない」「実際の介護現場で使えるかどうか検証したい」といった介護ロボットの開発企業の期待の支援をいたします。

製品紹介サイト

<https://www.mhiv.go.jp/kajiseisaku/jp/livinglab/>

出展社情報・お問い合わせ

出展社名 介護ロボットの開発・実証・普及のプラットフォーム事業 厚生労働省委託事業者：NTTデータ経営研究所

住所 東京都千代田区平河町2-7-5JA共同ビル10F

TEL 090-1123-1921

FAX 03-3221-7022

URL <https://www.mhiv.go.jp/kajiseisaku/>

お名前*

会社名・団体名

部署

メール*

件名*

内容*

お問い合わせ送信

出展社ページはこちら

出展社プレゼンテーションはこちら

お問い合わせ先

H.C.R.事務局
 一般財団法人 福祉福祉情報協会
 〒100-0005
 東京都千代田区千代田2-2-2 新丸の内ビルディング
 Email: info@hcrjapan.org

H.C.R. Official SNS:

社会福祉法人 全国社会福祉協議会 [>](#)

一般財団法人 福祉福祉情報協会 [>](#)

プライバシーポリシー | サイトポリシー

© 2024 Health and Welfare Information Association All rights reserved.

本ウェブサイトは、アクセスを促進する目的でクッキーを使用します。このウェブサイトが利用される場合は、サイト利用が前提として、お同意の上でクッキーを使用させていただきます。詳細はプライバシーポリシーをご覧ください。

同意する

図表 7-20 ウェブ展のホームページ(試用貸出リスト)

介護ロボットの開発・実証・普及のプラットフォーム事業
厚生労働省委託事業者：NTTデータ経営研究所)

介護ロボットの試用貸出リスト

試用貸出リスト

「介護ロボットの試用貸出リスト(令和6年度「福祉用具・介護ロボット実用化支援事業」公益財団法人テクノエイド協会)」です。本リストには、実用化している介護ロボットの関係企業等に対して試用貸出への申請を募り、同意を得ることができた企業及び製品名等が掲載されています。掲載窓口では、本リストを中心に、実際のロボットの貸出を行っています。

相談窓口では、本リストを中心に、介護ロボットを試してみたいという介護現場から、介護ロボットの試用貸出成績を受け付け、活用貸出企業へ取り次ぎを行います。

出版、福祉情報情報

福祉・介護・IT・ロボット・福祉用具情報・福祉・福祉誌、新聞、放送通信、福祉情報 福祉情報webサイト

機能分類

ロボット実用

製品仕様 **製品PR**

移乗支援/移動支援/歩行支援/見守り/コミュニケーション/入浴支援/介護業務支援

本リストの掲載内容は、重点分野に該当する介護ロボットを基本とし、原則的には関係企業から提供された情報となっております。(試用貸出リスト「はじめに」より)

介護ロボットを介護現場で試してみたいという方は、ぜひ各地域の相談窓口までご相談ください。

製品紹介サイト

<https://www.technoaid.or.jp/2024meta/lloriginal.pdf>

出展社情報・お問い合わせ

出展社名 介護ロボットの開発・実証・普及のプラットフォーム事業 厚生労働省委託事業者：NTTデータ経営研究所)

住所 東京都千代田区千代田2-7-9JA共済ビル30F

TEL 090-1123-1921

FAX 03-3221-7022

URL <https://www.mhiv.go.jp/kaiposiansou/>

お問い合わせ先

社名 名称
会社名・団体名 株式会社○○○○
部署 広報課
メール* ○○○@○○○○.co.jp
件名* 福祉について
内容* 福祉について詳しく教えてください。

お問い合わせ先

H.C.R. Official SNS:

社会福祉法人 全国社会福祉協議会
一般財団法人 全国福祉情報協会

お問い合わせ先
〒230-0880
東京都千代田区千代田3-2 新館4階15F
Email: info@hcrp.org

プライバシーポリシー | サイトポリシー
© 2014 Health and Welfare Information Association All rights reserved.

本ウェブサイトは、アクセスを分析する為にクッキーを使用します。本ウェブサイトのご利用に際する情報は、サイト訪問者があらかじめ同意書確認から個人情報をとくに、情報のパートナーに共有します。詳細はプライバシーポリシーをご覧ください。

閉じる

(出典:H.C.R.ホームページより)

第4節 ニーズ・シーズマッチングセミナーの開催

介護分野における商品・事業企画の進め方や、介護ロボットの上市事例を紹介することで、介護ロボットの開発を加速すること、および多数の企業のエントリーにつなげることを目的として、マッチングセミナーを実施した。セミナーの概要およびリーフレットを以下に示す。

図表 7-21 ニーズ×シーズ マッチングセミナーの概要

セミナー名	ニーズ×シーズ マッチングセミナー 2024 ～現場で活用される介護テクノロジーを作り出すために～
開催日時/形式	2024年7月1日(月)15:00～17:00 zoom ウェビナー形式
プログラム	<p>講演① 介護現場における生産性向上と介護テクノロジー関連の政策について (講師:厚生労働省老健局高齢者支援課 介護業務効率化・生産性向上推進室 介護ロボット政策調整官 佐藤 修一 氏)</p> <p>講演② 経済産業省におけるロボット介護機器政策について (講師:経済産業省 商務・サービスグループ ヘルスケア産業課 医療・福祉機器産業室 平井 那奈 氏)</p> <p>講演③ 介護テクノロジーの企画・開発・販売のポイント ～介護現場のニーズをふまえた製品・サービスをつくるために～ (講師:社会福祉法人善光会 サンタフェ総合研究室 研究員/ 株式会社善光総合研究所 Care Tech ZENKOUKAI Lab 所長 滑川 永 氏)</p> <p>講演④ 介護テクノロジーの創りかた・使われかた (講師:SOMPO ケア株式会社 Future Care Lab in Japan 副所長 主任研究員 芳賀 沙織 氏)</p> <p>講演⑤ 見守りシステム開発にかけた情熱～現場ニーズに寄り添って～ (講師:株式会社 秋田テクノデザイン 代表取締役 伊藤 毅 氏)</p> <p>【事業概要説明】ニーズ・シーズマッチング支援事業 (株式会社 NTT データ経営研究所)</p> <p>閉会</p>

図表 7-22 ニーズ×シーズ マッチングセミナーのリーフレット



MATCHING 2024 厚生労働省委託事業

参加費
無料

ニーズ×シーズ マッチングセミナー2024

～現場で活用される介護テクノロジーを作り出すために～

定員先着
400名

厚生労働省 介護現場の生産性向上に向けたロボットの開発・実証・普及広報のプラットフォーム事業

- ▶ **対象：**介護ロボット開発に興味がある/取り組んでいる企業・団体の皆様
- ▶ **形式：**Zoomウェビナー ▶ **定員：**先着400名
- ▶ **日程：**2024年7月1日（月）15:00～17:00（開場 14:45）
- ▶ **プログラム（予定）**

15:00	～	15:20	<p>講演① 介護現場における生産性向上と介護テクノロジー関連の政策について 厚生労働省 老健局 高齢者支援課 介護業務効率化・生産性向上推進室 介護ロボット政策調整官 佐藤 修一 氏</p>
15:20	～	15:40	<p>講演② 経済産業省におけるロボット介護機器政策について 経済産業省 商務・サービスグループヘルスケア産業課 医療・福祉機器産業室 平井 那奈 氏</p>
15:40	～	16:00	<p>講演③ 介護テクノロジーの企画・開発・販売のポイント ～介護現場のニーズをふまえた製品・サービスをつくるために～ 社会福祉法人善光会 サンタフェ総合研究室 研究員 株式会社善光総合研究所 Care Tech ZENKOUKAI Lab 所長 滑川 永 氏</p>
16:00	～	16:20	<p>講演④ 介護テクノロジーの創りかた・使われかた SOMPOケア株式会社 副所長 主任研究員 芳賀 沙織 氏</p>
16:20	～	16:40	<p>講演⑤ 見守りシステム開発にかけた情熱～現場ニーズに寄り添って～ 株式会社 秋田テクノデザイン 代表取締役 伊藤 毅 氏</p>
16:40	～	16:55	<p>【事業概要説明】ニーズシーズマッチング支援事業 株式会社NTTデータ経営研究所</p>
16:55～17:00 閉会			

申込方法

- ・ 右記のリンクもしくはQRコードよりお申し込みください。
- ・ 先着順での受付となります。**参加確定者のみ、メールにて参加リンクのご案内**をいたします。
- ・ 講演内容、講師等は予告なく変更となる場合がございます。ご了承いただけますと幸いです。

主催：株式会社NTTデータ経営研究所

本セミナーに関するお問い合わせ：株式会社NTTデータ経営研究所 ライフ・バリュー・クリエイションユニット
介護ロボットのニーズ・シーズマッチング支援事業 事務局（ns-plat@nttdata-strategy.com）

参加申込は [こちら](#)



セミナーへの申込者数は 124 名であった。また、「介護現場における生産性向上と介護テクノロジー関連の政策について」「経済産業省におけるロボット介護機器政策について」「介護テクノロジーの企画・開発・販売のポイント」「介護テクノロジーの創りかた・使われかた」「見守りシステム開発にかけた情熱～現場ニーズに寄り添って～」については、セミナー終了後にホームページ上にて公開した。

第5節 セミナー・メディア等における当事業の周知実績

セミナー、メディア等における当事業の周知実績は次のとおりである。

図表 7-23 セミナー、メディア等における周知実績

周知場所	周知内容(概要)
東京ケアウィーク'25 専門セミナー (ブティックス株式会社)	本事業について講演を行った。
電子情報通信学会誌小特集「ロボット 介護機器の展開に向けた環境整備」 (電子情報通信学会)	本事業の紹介について論文の執筆を行った。
介護ロボット全国フォーラム 2024 (公益財団法人テクノエイド協会)	本事業について講演を行った。次第の詳細は次の図の通りである。
介護テクノロジー等活用ミーティング (公益財団法人テクノエイド協会)	本事業について講演を行った。
第 51 回国際福祉機器展 H.C.R.2024 (全国社会福祉協議会 保健福祉広 報協会)	リアル展及びウェブ展へ出展を行い本事業の周知を実施。また、出展社プレゼンテーションにて、本事業の紹介を行った。
「保健医療科学」 (国立保健医療科学院)	本事業の紹介について執筆を行った。
スペイン大使館での講演 (スペイン大使館)	日本の介護現場の視察のため来日しているスペイン介護関連団体を対象に、本事業について講演を行った。
「介護ニュース Joint」 (介護ニュース Joint)	本事業の紹介についてコラムの執筆を行った。

図表 7-24 介護ロボット全国フォーラムの次第

介護ロボット全国フォーラム ～開催プログラム～	
10:30 受付開始	
11:00 開場	
WESTホール ▶ 最新機器の展示、体験、デモ、相談 (11:00-16:30) 高齢者や障害者の自立や介助、介護者の業務を支援する介護ロボットを中心に、製品化された実機の展示・説明・相談ほか(40社の実機を展示)	
	
<small>※上記のうち出展のない分野もあります。詳しくは協会HPをご覧ください。</small>	
EASTホール ▶ シンポジウム (13:00-16:10) 介護ロボットに係る重点政策及び、事業の成果、先進事例の報告等を行います。(入退室自由)	
13:00	開会 挨拶 公益財団法人テクノエイド協会 常務理事 黒岩 嘉弘 司会 公益財団法人テクノエイド協会
13:10-13:50 (各20分)	「テクノロジー等を活用した介護現場における生産性向上に関する最新動向」 厚生労働省 老健局 高齢者支援課 課長 峰村 浩司 氏 「経済産業省における福祉機器の施策動向」 経済産業省 商務・サービスグループ 医療・福祉機器産業室 室長 渡辺 信彦 氏
13:50-14:00	<休 憩>
14:00-14:40 (各20分)	「福祉用具・介護ロボット実用化支援事業の実施について」 公益財団法人テクノエイド協会 企画部 伊東 由恵 「介護ロボット等の開発・実証・普及広報のプラットフォーム事業の取組状況」 株式会社NTTデータ経営研究所 太刀川 遼 氏
14:40-14:50	<休 憩>
14:50-16:10 (各20分)	テクノロジーを活用した介護現場の生産性向上の実践 「介護施設向けタイムスタジアプリのモニター報告について」 パラマウントベッド株式会社 小林 有華 氏 「介護施設における薬の仕分け、配薬ミス削減・生産性向上に資する製品・システムの社会実装」 エトリア株式会社 徳植 義人 氏 テクノロジーを活用した新たな介護システムの提案、事例 ※活用ミーティング推薦 「スタッフが本来の業務に集中できる環境づくりとその効果」 株式会社プレイフル ナーシングホームLIBひらか 藤井 裕太 氏 「『業務棚卸』をキーワードに介護現場のDX化を推進する」 株式会社あきた創生マネジメント 阿波野 聖一 氏
16:10	閉会 公益財団法人テクノエイド協会
16:30 閉会	

第8章 まとめ

第1節 事業成果

第1項 介護ロボットの普及と広報

(1)相談窓口

今年度、新たに開設した相談窓口は8拠点、昨年度からの継続の相談窓口は3拠点だった。その結果、令和6年度末現在、全国で 11 の県に相談窓口が設置された。今年度新たに開設した相談窓口は、期初より概ね 2 か月間の準備期間を経て、6月から運営を開始した。なお、これらの一部の県では令和7年度にワンストップ窓口の設置を予定している。

これらの相談窓口において相談対応、体験展示、試用貸出、研修会、モデル事業所に対する伴走支援等の取組を行った。それぞれの取組の実績は以下の通りである。今年度は新たな相談窓口が 8 拠点設置され、全相談窓口の約 7 割を占めた。これまで相談窓口が設置されていなかった県においても各種取組を実施したことで、当該地域における生産性向上およびテクノロジーの導入活用を図った。

【全国の相談窓口における主な取組の実績】

- ・相談対応・・・延べ 556 件の相談に対応した
- ・体験展示・・・延べ 4,569 件の来場があった
- ・試用貸出・・・延べ 216 件の試用貸出と行った
- ・研修会等・・・延べ 37 回の研修会等を開催した
- ・伴走支援・・・延べ 37 事業所を伴走支援した

相談業務におけるニーズ側からの相談内容の内訳は、「介護ロボット等の導入・活用」に関する内容が全体の 64%を占め最も多く、次いで「生産性向上、改善活動の手法」に関する内容が 22%であった。また、令和 6 年度介護報酬改定で新設された介護テクノロジーの活用促進の加算に関する相談では、「生産性向上推進体制加算」に関するものが約 9 割を占めた。これは、取得要件の整理や取得に必要な取組の進め方等の支援ニーズが高いことを示している。相談者の属性は、ニーズ側が 68%、シーズ側が 32%であった。ニーズ側のサービス種別は、施設系サービスが 57%と最も多く、次いで医療系サービスが 16%、居宅系サービスが 14%であった。

また試用貸出で貸し出された介護ロボット等の分野は、移乗支援分野が 50%と最も多く、次いで見守り・コミュニケーション分野が 42%、排泄支援分野が 5%であった。

地域のベンチマークとなる事業所(モデル事業所)の創出を目指し、専門家による伴走的な支援を行った。今年度は、全国で 37 事業所がモデル事業所として、介護テクノロジーの導入活用等に取り組んだ。モデル事業所のサービス種別は、施設系サービスが 57%(21 事業所)、居宅系サービスが 22%(8 事業所)、医療系サービスが 19%(7 事業所)であった。厚生労働省は、令和5年度より「介護職員の働きやすい職場環境づくり内閣総理大臣表彰・厚生労働大臣表彰」を通じて、介護テクノロジーの導入活用を含む生産性向上の取組を推進している。令和6年度に選出された 69

の介護事業所の中には、本事業(令和5年度事業)で伴走支援を受けた事業所も含まれている。

このように、生産性向上の取組をさらに普及させるには、今後も他の事業や取組と連携・協調し、機運を高めていく必要がある。また、介護現場における生産性向上、業務改善の取組を伴走的に支援できる人材・組織の育成も急務である。この点については、第2節の「今後必要と考えられる取組」で詳述する。

(2)大阪・関西万博における展示ブースのデザインおよび展示機器選定

今年度事業では、大阪・関西万博における介護ロボット等テクノロジーの展示ブースデザイン、および展示機器の選定を行った。

介護ロボットの開発および活用に詳しい有識者からなるワーキンググループを組成し、展示ブースのコンセプトを「いつでも自分らしく生きる」Live Fully, Pursue Happiness に定めた。これを踏まえ、展示ブースのデザインは、二人の架空の主人公の人生を表現するものとした。

また、展示機器については 46 製品の応募があり、リビングラボネットワークの有識者による採点を経て、8製品を展示することとした。

第2項 介護ロボットの開発と実証

(1)リビングラボネットワーク

今年度は、全国8か所のリビングラボにおいて、147 社の開発企業等に対し、延べ 261 件の支援を実施した。支援の内訳は以下の通りである。

【全国のリビングラボにおける主な企業支援の実績】

- ・ 相談対応・・・延べ 238 件の相談に対応した
- ・ ラボ検証・・・延べ 14 件のラボ検証を実施した
- ・ 実証・・・・・・・延べ 10 件の実証を実施した

リビングラボによる支援を受けた製品の分野は、その他(食事介助、服薬支援・配薬確認、ウェアラブル端末等)が全体の 30%と最も多く、次いで見守り・コミュニケーション(施設)分野が全体の 19%、介護業務支援分野および移乗支援(装着)分野が 14%、見守り・コミュニケーション(在宅)分野が 11%だった。また、介護業界への参入有無は「参入している」が 68%、「参入していない」が 32%だった。機器の開発状況は、企画(ニーズ調査)が最も多く全体の 23%、次いで開発(研究室レベルでの実証)が 21%、企画(コンセプト企画)が 18%だった。

リビングラボへの相談目的は、「実環境での実証支援」が最も多く全体の 41%、次いで「現場ニーズ伝達」が 31%、「販売・マーケティング支援」が 24%だった。また、リビングラボへの期待は、「有効性評価」が最も多く全体の 41%、次いで「ニーズに対する助言」および「現場に近い環境での検証」が 38%だった。

これに対するリビングラボの対応内容は、「実証支援」が最も多く全体の 34%、次いで「その他」が 33%、「コンセプト設計」が 23%だった。

これらの結果が示すとおり、本年度事業では、開発企業が特に求めている介護現場のニーズを正しく捉えること、開発した機器が有効であるか評価することに対して、リビングラボが支援を提供することができた。一方で、開発企業が次いで求める、製品を効果的に販売することについては、リビングラボの支援能力を強化する、もしくはニーズ・シーズマッチング支援事業等、他の枠組みでリビングラボの支援能力を補完することが必要である可能性が示唆された。

また、昨年度の企業支援実績と比較すると、相談対応件数は 16%増、ラボ検証件数は 48%減、実証は 41%減であった。この要因の一つとして、昨年度よりも新製品開発に関する相談の割合が高まった結果、開発の初期段階である相談対応の件数が増加し、開発の中・後期段階にあたるラボ検証、実証の件数が減少した可能性が考えられる。今年度は介護テクノロジー利用の重点分野が改訂され、新たな製品を開発する機運が高まったと推測される。また、AIの活用が一層進んだことも、新製品開発の意向を強めているのではないかと考えられる。

実際に、リビングラボに相談された製品の分野について、昨年度は「見守り・コミュニケーション（施設）」が最も多かったが、今年度は「その他」が最も多い状況となっている。また、開発フェーズが「企画・調査段階」「上市后」の割合は昨年度がそれぞれ 20%、43%であったのに対し、今年度はそれぞれ 23%、35%となっている。

令和7年度からは改訂後の重点分野が適用されることを踏まえると、新たな分野の製品に関する相談は一層増加すると考えられる。さらに、開発の進捗に伴ってこれらの機器に対するラボ検証、実証の件数が増加すると見込まれる。このことから、リビングラボにおける設備面、知見面での拡充が重要であると考えられる。

(2)ニーズ・シーズマッチング支援事業

今年度のニーズ・シーズマッチング支援事業では、介護現場や介護ロボット等の開発に関する専門知識を有するマッチングサポーター全 35 名（ニーズ側：18 名、シーズ側：17 名）を配置した。その上で、開発企業が、自社に適した支援者を探しやすくなるように、ホームページにおけるマッチングサポーターとリビングラボの検索軸について、従来の「介護現場またはロボット技術の専門性」に加えて、「助言が可能な開発段階」および「助言が可能な介護ロボットの分野」を追加した。

介護現場のニーズリストについては、新たにワンストップ窓口からニーズを収集できる仕組みを構築した。これにより、相談窓口がワンストップ窓口に移行した後も、地域の介護施設の最新のニーズを開発企業が把握できるようになった。今年度は、この仕組みを活用し、ワンストップ窓口から 14 件のニーズが得られた。また、過年度公開していたニーズについては、リビングラボとマッチングサポーターの協力のもと、開発企業が製品コンセプトを企画しやすくなるように更新し、ホームページに公開した。

さらに、介護分野への新規参入を検討する企業向けに、介護分野特有の制度や開発方法を有識者が解説するビデオコンテンツを制作し、ホームページで一般公開した。今年度は、株式会社

善光総合研究所 Care Tech Lab、SOMPO ケア株式会社 Future Care Lab in Japan 等の協力のもと、5つのコンテンツを追加・更新した。

事業周知の面では、過年度協力を得た業界団体等に加えて、新たに一般社団法人日本福祉用具供給協会、一般社団法人日本衛生材料工業連合会等の協力を得て、それぞれの関係企業に広く広報、周知した。

その結果、今年度は 52 団体のエントリーがあった。エントリーした団体の属性を見てみると、大企業が 19%、中小企業が 27%、小規模企業が 38%となった。また介護分野への参入状況で分類すると、参入済の企業が 73%、未参入の企業が 25%だった。さらに、参入済の企業の内訳は「介護分野向けに機器を自社開発し、上市している」が最も多く 44%、次に「他社の介護ロボットや福祉用具を販売している、またはアフターサービスを提供している」が 25%、「介護分野向けに機器を開発している企業に要素技術を提供している」が 12%となった。

製造業全体における中小企業の割合が 99%程度、そのうち小規模企業が 84%であることを考慮すると、本事業において、幅広い規模の企業に支援を行うことができたといえる。また、自社開発を行う企業のみでなく、販売・アフターサービスを行う企業、要素技術を提供する企業に対しても支援を行うことで、介護ロボット市場の拡大、オープンイノベーションの促進にも寄与することができたと考えられる。

第3項 ワンストップ窓口の設置

(1)ワンストップ窓口の設置状況

令和6年度は、全国で新たに 26 自治体にワンストップ窓口が新設された。これにより、令和7年3月末現在、全国に 31 のワンストップ窓口が設置された。これらのワンストップ窓口において相談対応、体験展示、試用貸出、研修会、モデル事業所に対する伴走支援等の取組を行った。それぞれの取組の実績は以下の通りである。

センター向け月次アンケートの結果によると、ニーズ側における相談業務における相談内容の内訳は「介護ロボット等の導入・活用に関する相談」に関する内容が最も多く、325 件であった。次に「生産性向上・改善活動の手法に関する相談」に関する内容が 200 件であった。なお、令和6年度に改訂された「介護報酬に関する相談」は 48 件であり、最も少なかった。また、相談者の属性は、介護老人福祉施設が 107 件と最も多く、次いで介護老人保健施設が 71 件、さらに次いで通所介護が 51 件という結果だった。

また試用貸出について、介護現場に貸し出された介護ロボット等のうち最も多かった分野は移乗支援(非装着型)で 44 件であった。以降、全体に占める割合が多い順に移乗支援(装着型)41 件、見守り・コミュニケーション(施設系サービス)37 件であった。

なお、本分析に用いたアンケートは任意回答としていたため、全てのセンターで回答しているわけではない。また、年間を通じて順次センターが立ち上がったため、各データを割合で示すことが困難であった。そのため、各数字は令和6年4月から令和7年2月の間に行ったセンター向け月次アンケートの結果を積み上げで示していることに留意されたい。

(2)令和7年度設置に向けた自治体の準備状況と課題

自治体におけるワンストップ窓口の設置準備状況を把握するため、自治体担当者を対象とした連絡会議、アンケート、ヒアリング調査を実施した(中央管理事業)。その結果、令和7年3月末現在、全国に31のワンストップ窓口が設置され、令和7年度には残りの16自治体の大半で設置される見通しであることが明らかになった。

加えて、ワンストップ窓口開設および運営における課題等も把握した。

1)ワンストップ窓口の開設準備における課題

- ・ ワンストップ窓口設置予算の確保が困難
- ・ ワンストップ窓口の運営主体を担うことができる機関および人材が見当たらない
- ・ 地域の介護現場を支援するための、ワンストップ窓口を軸としたネットワークの構築が困難
- ・ 介護現場における生産性向上の取組を適切に伴走支援できる人材・機関が見当たらない
- ・ ワンストップ窓口の開設および運営に関する全般的な情報の不足

2)ワンストップ窓口の運営における課題

- ・ 地域におけるワンストップ窓口の認知度が低く相談対応件数が伸び悩んでいる
- ・ 補助金に関する相談が多く、補助金申請の終了以降は相談数が低迷
- ・ 現在の担当者に専門性が不足しており、より専門性を求められる相談や開発企業からの技術的な相談への対応が困難
- ・ 専門機関との連携・ネットワークが脆弱なため、相談内容に応じた他機関への適切な取次や連携が困難

第2節 今後必要と考えられる取組

第1項 ワンストップ窓口設置・運営に関する支援体制のさらなる充実

中央管理事業において、ワンストップ窓口の設置・運営に関する様々な課題が明らかになった。ワンストップ窓口の設置においては、予算の確保、運営主体・業務アドバイザー等の確保、ワンストップ窓口開設に関する全般的な情報の不足等、立ち上げ時に自治体や運営主体の負荷が大きくなっている。また、ワンストップ窓口設置後は、広報・周知、人材の育成、取次先とのネットワーク構築等の課題がある。本事業で事務局は試行錯誤を繰り返し、得られたノウハウを可能な限りツールや手引きとして形式知化してきた。今後の中央管理事業では、これらの支援ツールと、これまでに培った支援ノウハウを活用し、ワンストップ窓口のより円滑な開設・運営を支援する必要がある。具体的には、以下の取組が考えられる。

【ワンストップ窓口設置・運営の支援として考えられる取組】

- ・ 自治体担当者やワンストップ窓口の開設主体を対象とした実態把握、および課題解決に向けた国等に求められる支援等の把握
- ・ 国と自治体、自治体間の意見交換および情報共有の場の設定
- ・ ワンストップ窓口設置時を中心としたフォロー体制の構築
- ・ ワンストップ窓口拡大期におけるコンテンツの水平展開およびパッケージ化
- ・ 介護事業所における生産性向上の取組支援の成功事例の共有・ケーススタディ、有識者を交えた意見交換等における人材育成の場の設定
- ・ 本事業が有するネットワークとの連携促進

第2項 相談窓口、リビングラボ、生産性向上総合相談センター（ワンストップ窓口）を介した介護現場の現状をモニタリングする仕組みの構築

本事業で展開する相談窓口、リビングラボ、ワンストップ窓口の各拠点は、介護現場および開発企業に向けられた“アンテナ”といえる。各拠点に持ち込まれた相談内容を通して、生産性向上の取組や介護テクノロジーの開発・活用における現場課題を把握できる。したがって、今後は、適切なモニタリング項目を設定し、ワンストップ窓口を含めた情報集約・分析、各拠点へのフィードバックのスキームを確立する必要がある。具体的には、各取組の状況や効果、相談内容を把握するためのモニタリング項目を予め設定し、グループウェア等を通じて各拠点から月1回程度、情報を集約する。事務局は、それらの情報を地域軸や時系列で分析し、連携会議や各種勉強会、ブロック会議等で各拠点にフィードバックする。この仕組みにより、各地域の特徴や傾向、各拠点のノウハウや知見を可視化し、個々の拠点だけでなく、本事業全体の対応力を強化できる。

第3項 介護現場を伴走的に支援する人材・組織の育成とネットワーク化

今年度の中央管理事業における調査では、介護現場を伴走的に支援する人材・組織の育成とネットワーク化に関する課題が明らかになった。介護分野における生産性向上の捉え方や考え方は近年整理された比較的新しい概念であるため、介護現場の取組を伴走的に支援できる専門性を持つ人材や組織は多くない。したがって、相談窓口やワンストップ窓口の担当者を含め、介護現場の生産性向上や介護テクノロジーの導入活用の取組を支援できる人材・組織の育成およびネットワーク化が急務である。今年度は、本事業の業務アドバイザー、コンサルティング企業、介護テクノロジーの導入活用を支援する開発企業等を対象とした勉強会を2回開催した。今後は、勉強会の参加者数を増やす取組や、参加者とワンストップ窓口が連携する仕組みを構築することが重要である。

第4項 モデル事業所の活用による生産性向上と介護テクノロジーを活用した取組の普及

今年度の各ワンストップ窓口における伴走支援では、モデル事業所が創出された。各モデル事業所は、業務アドバイザー等による伴走支援を受け、生産性向上に向けた取組を成功体験として組織内に蓄積した。多くの事業所では、この経験を基に、次の新たな取組を自力で進めるものと考えられる。しかし、取組の普及という観点からは、これらのモデル事業所を地域のベンチマークとして、取組を普及していく活動が求められる。具体的には、地域の介護事業所を対象とした成果報告会での発表や、施設見学の受け入れ協力等が挙げられる。今年度は、各ワンストップ窓口で伴走支援によるモデル事業所の創出と成果報告会の開催を一体的に実施し、普及の観点を取り入れた事例もあった。例えば、都道府県やワンストップ窓口のホームページにモデル事業所の取組を掲載し周知している。来年度以降、ワンストップ窓口においても、同様に伴走支援によるモデル事業所の創出が見込まれる。その際には、こうした普及の観点を取り入れた取組にも注目する必要がある。

なお、従来からモデル事業所を活用した取組の普及に積極的な自治体では、成果報告会や事業所見学会に加えて、自治体独自の認定・認証・表彰制度と連携した取組も実施しており、一定の成果を上げている。

第5項 スタートアップ企業を含めた小規模事業者に焦点を当てた支援の拡充

昨年度より、スタートアップ企業等からの支援依頼が増えることが見込まれており、実際に今年度のニーズ・シーズマッチング支援事業には、中小企業および小規模企業のエントリーが多く見られた。また、介護テクノロジー利用の重点分野の改訂および適用についても、スタートアップ企業等の介護分野への新規参入を促進するきっかけになると考えられる。

これらのことから、今後、スタートアップ企業を含めた中小企業による本事業の活用がさらに進むと考えられる。そのため、これらの企業に焦点を当てた支援の拡充が必要となる。具体的には、これらの企業は、ニーズの収集、プロトタイプの実証を行うことができる介護現場や有識者とのネットワークが限定的であると考えられる。そのため、本事業の強みである介護現場のニーズ伝達、実証支援等を継続する必要がある。さらに、これらの企業は、一般的に研究開発資金の不足、量産や販売・アフターサービスを行うパートナー企業とのネットワーク不足といった課題を抱えている。したがって、本事業としては、投融資に詳しいサポーターの拡充、企業間マッチング支援の強化が必要となる。

第6項 生産性向上総合相談センター（ワンストップ窓口）で得られた介護現場のニーズを開発企業に周知する仕組みの強化

本事業で支援した複数の開発企業から「介護現場とのネットワークが限られており、想定しているニーズがどの程度普遍的であるかわからない」といった課題が挙げられた。また、リビングラボからも「開発企業は、捉えるニーズを一般化できておらず、事業性のあるコンセプト企画を作ることができていない。」といった意見が出た。

この課題を解決するために、ニーズリストをさらに強化することが有効であると考えられる。具体的には、掲載されているニーズの普遍性(市場規模)や新規性等を、実証フィールドへの簡易的な調査等を通じて把握・分析し、掲載することが考えられる。これは、前項に示した、ニーズの調査手段が限られるスタートアップを含む中小企業等にとって特に有効なものとなると想定される。

第7項 大阪・関西万博を通じ我が国の介護を世界に発信

大阪・関西万博では、介護テクノロジーおよびそれを活用した我が国の介護を、特に海外からの来場者に発信することができる絶好の機会となる。これは、国内の介護のさらなる生産性向上、介護テクノロジー開発企業の活性化のきっかけになり得る。

我が国の介護の優位性を世界に示すことができれば、国内の介護テクノロジー産業への投資促進、テクノロジーの輸出等、産業活性化にもつながる可能性がある。

したがって、今年度決定した展示ブースのデザイン、展示機器等を踏まえ、我が国の介護を効果的に発信するための詳細な展示ブース設計、現地でのオペレーション設計等を行う必要がある。

参考：これまでの介護ロボットプラットフォーム事業の取組から見るセンターの利用者像

以下に、本事業の実績の一部を記載する。今後のセンター設置に向け、利用者像をイメージするための一助となれば幸いである。なお、介護事業所に関するデータは、令和6年4月から令和7年2月の間に行ったセンター向け月次アンケートの結果を積み上げで示している(年間を通じて順次センターが立ち上がったため、各データを割合で示すことが困難であった)。

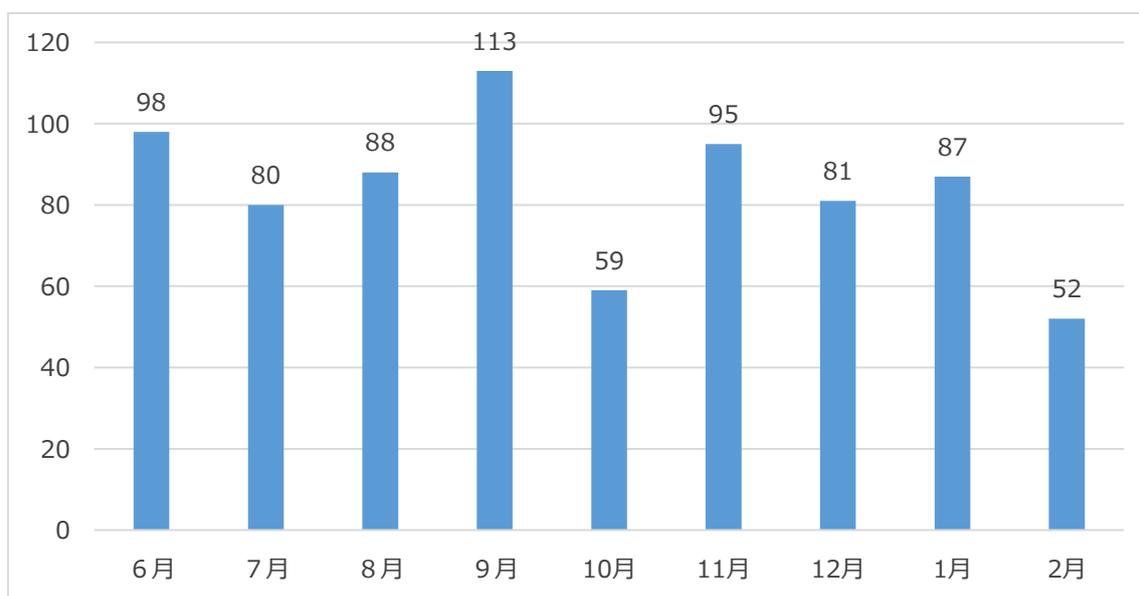
(1)介護事業者

1)月別の相談件数

センターにおける相談件数を月別に見ると8月・9月が比較的多い。これは、都道府県の実施する補助金の公募が同時期に多いことから、補助金を申請するにあたっての情報収集と相談支援の需要が増えるためと考えられる。しかしながら、それ以降相談件数は減少傾向になっている。来年度以降は、本傾向に鑑みたくて、例えば補助金をフックとしてセンターの周知を行う等の方策等が、センターの認知向上に向けて有効と考えられる。

図表 8-1 月別の相談件数

n=110

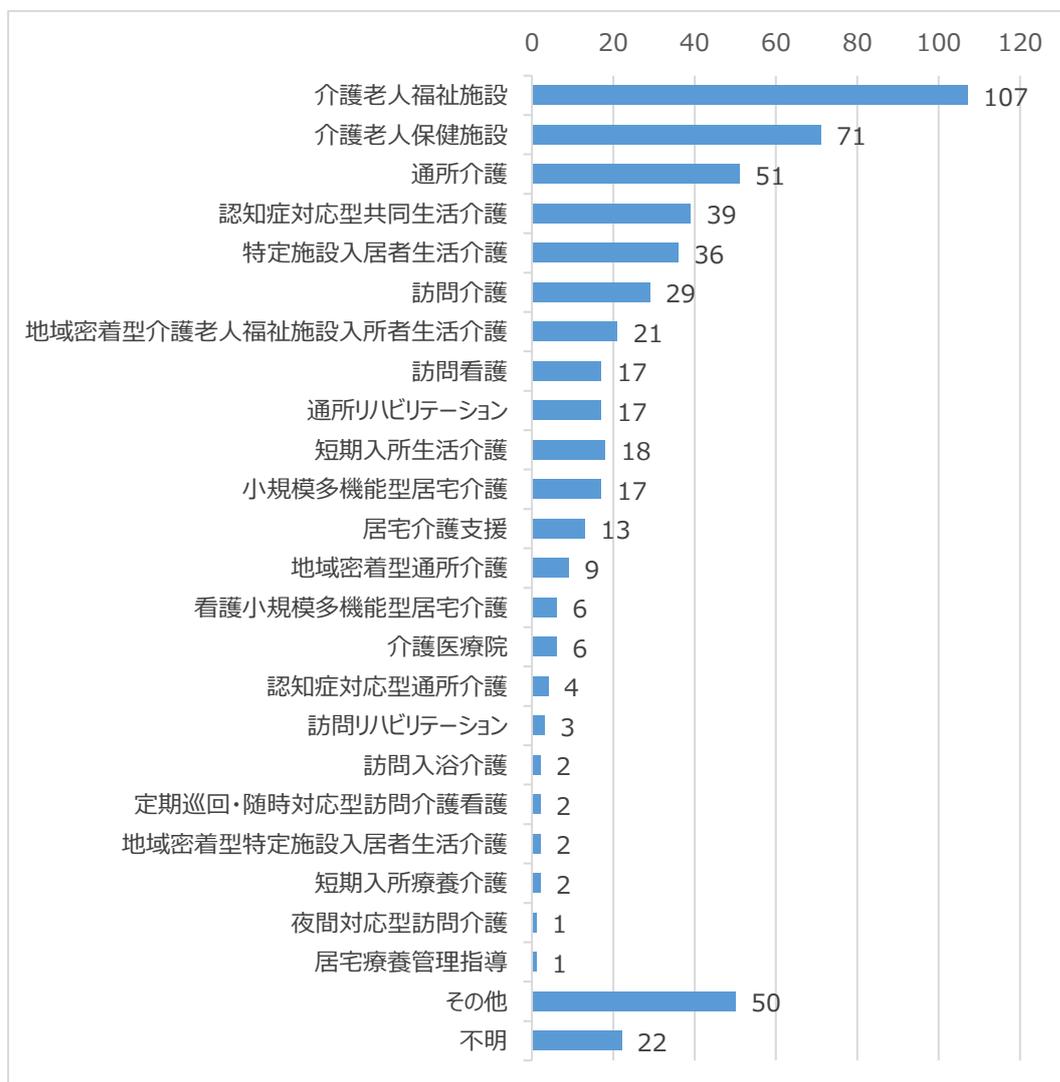


2) 介護サービス事業所の種別

センターの相談者が所属するサービス種別は、介護老人福祉施設が 107 件と最も多く、次いで介護老人保健施設が 71 件、さらに次いで通所介護が 51 件と多かった。過年度までの傾向では、施設系サービス事業所からの相談が多い状況であったが、今年度は通所介護が 3 番目に多い結果となった。しかし、依然として居宅系サービス事業所からの相談割合は低い傾向にあるため、今後は、これらの事業所へ対して窓口の利用を促す取組が必要になる。

図表 8-2 相談者が所属する介護サービス事業所の種別

n=110



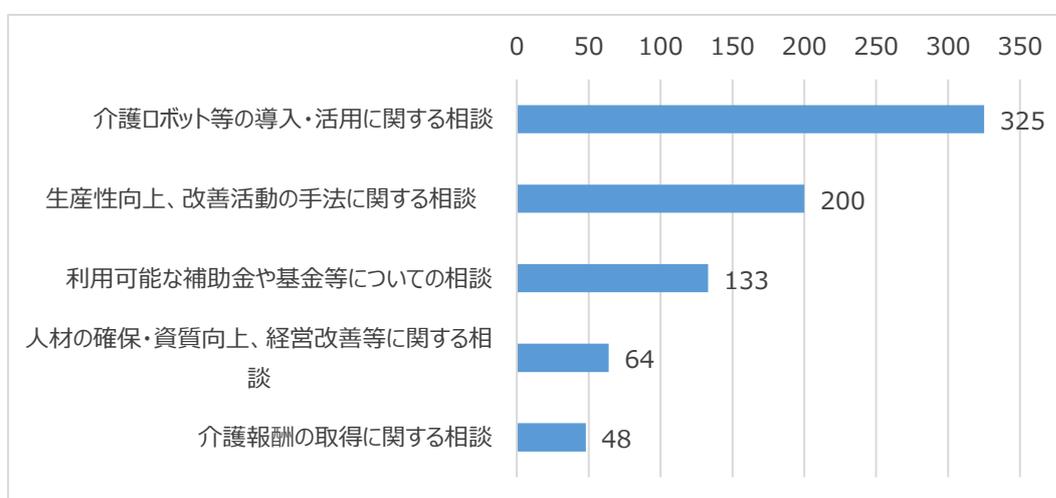
3) 相談内容

センターにおける相談内容の内訳は、「生産性向上、改善活動の手法に関する相談」が175件と最も多い状況である。本来は、改善活動の手法を検討した結果、打ち手の一つとして介護ロボットに行き当たる流れが想定される。そのため「生産性向上、改善活動の手法に関する相談」の方が、「介護ロボット等の導入・活用に関する相談」よりも相談件数が多くなることも有り得るが、アンケート調査の結果では、逆の傾向になっている。

今後、センターを周知する際や、研修会の講演内容等を通じて、テクノロジーの活用は改善活動の打ち手の一つであることを訴求することが必要と考えられる。

図表 8-3 相談内容の内訳

n=110(複数回答)



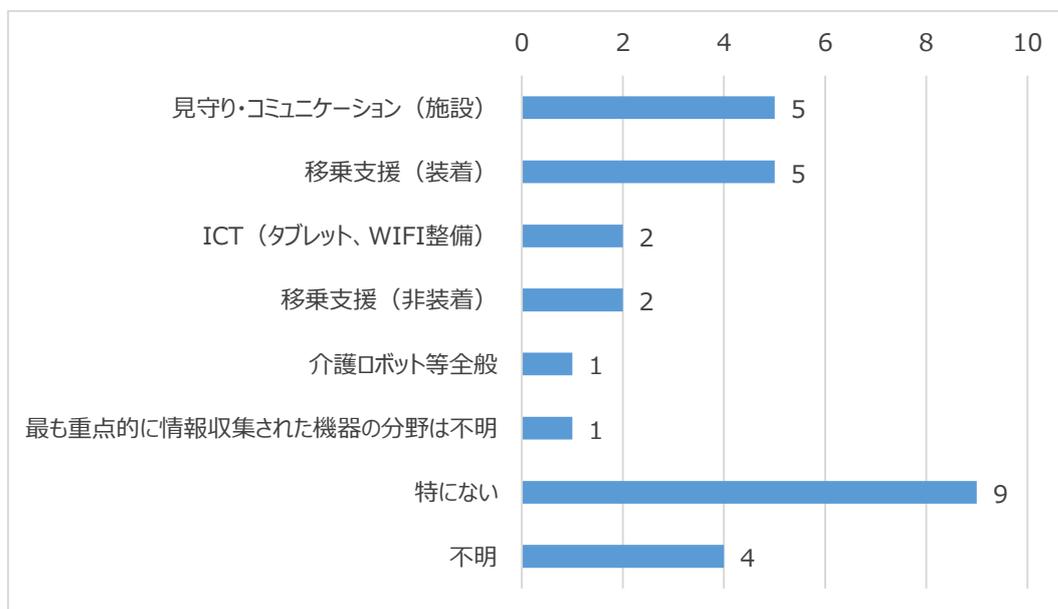
4) 機器展示において相談者が重点的に収集した機器の分野

機器展示において相談者が重点的に収集した機器の分野は、見守り・コミュニケーションと移乗支援(装着)が最も多かったことから、昨年度から傾向は変わらず、腰痛予防や要介護者の見守りといった分野への需要が高いことが把握できた。

※本項目のみ、令和6年7月から令和7年1月までのデータを用いているため、回答者数が少なくなっている。

図表 8-4 機器展示において相談者が重点的に収集した機器の分野

n=68



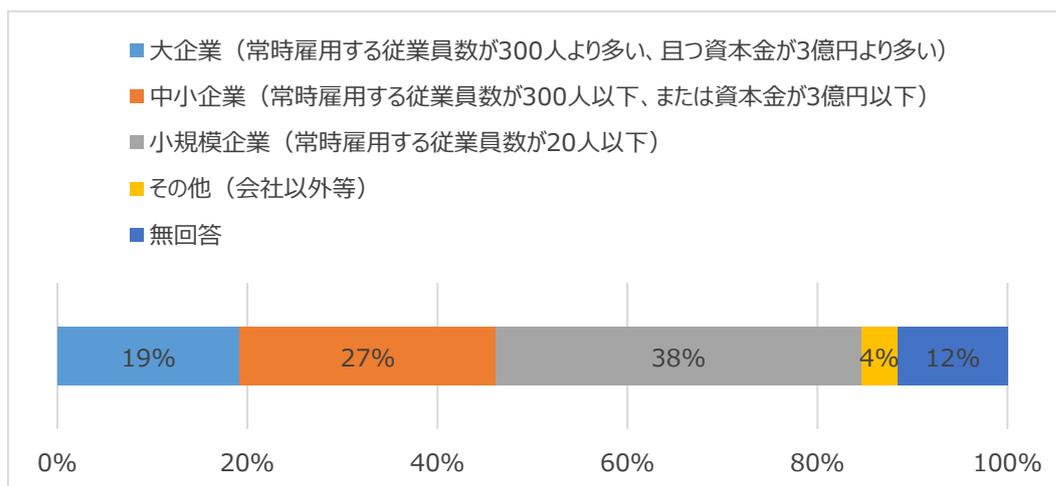
(2)開発企業

1)企業規模

本年度、ニーズ・シーズマッチング支援事業にエントリーした企業の企業規模の分布は以下のとおり。大企業、中小企業、小規模企業のいずれも本事業を利用した。

図表 8-5 ニーズ・シーズマッチング支援事業にエントリーした企業の企業規模

n=52

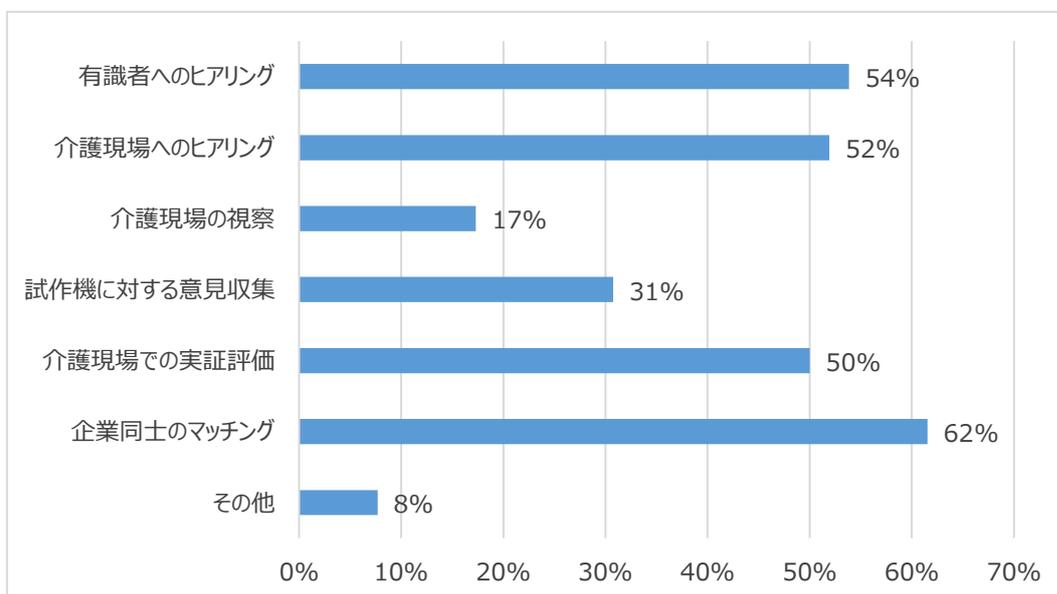


2)開発企業の希望

本年度、ニーズ・シーズマッチング支援事業にエントリーした企業が希望した支援は以下のとおり。「企業同士のマッチング」「有識者へのヒアリング」「介護現場へのヒアリング」「介護現場での実証評価」を希望する企業の割合が高かった。

図表 8-6 ニーズ・シーズマッチング支援事業にエントリーした企業が希望する支援の種類

n=52(複数回答)

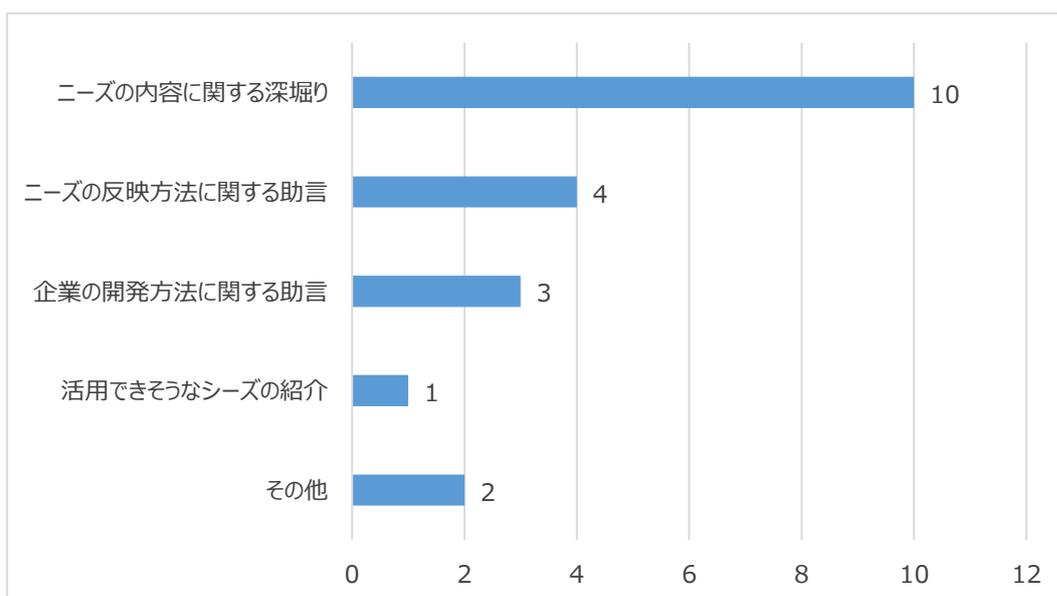


3) 開発企業の相談内容と有益であった助言

本年度、ニーズ・シーズマッチング支援事業にエントリーした企業が、マッチング支援①においてマッチングサポーターに相談した内容は以下のとおり。「ニーズの反映方法に関する助言」「ニーズの内容に関する深堀」を求めて相談を行った企業の割合が高かった。

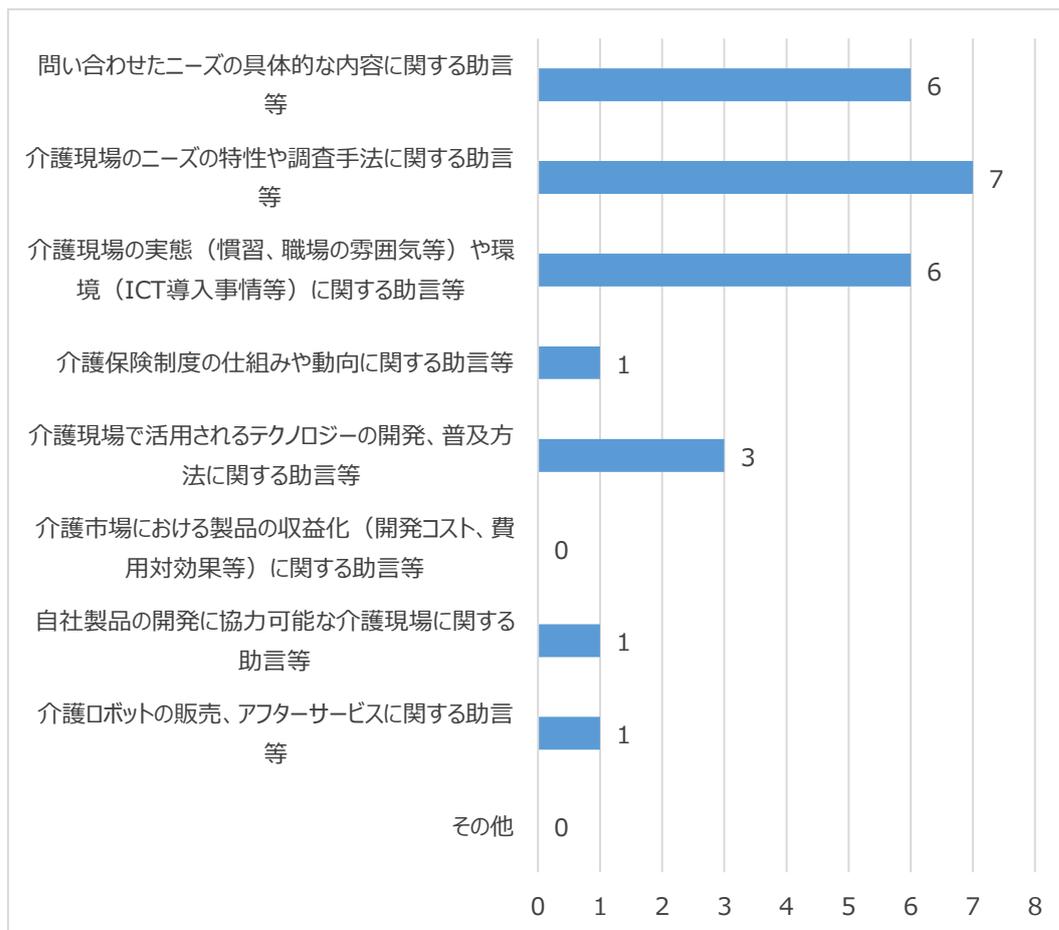
図表 8-7 ニーズ・シーズマッチング支援事業 マッチング支援①における相談内容

n=11(複数回答)



また、上記の企業が有益だと感じたマッチングサポーターの助言は以下のとおり。「介護現場のニーズの特性や調査手法に関する助言等」「介護現場の実態(慣習、職場の雰囲気等)や環境(ICT導入事情等)に関する助言等」を有益だと感じた企業が多かった。

図表 8-8 ニーズ・シーズマッチング支援事業 マッチング支援①を実施した企業が有益だと感じた助言
n=9(複数回答)

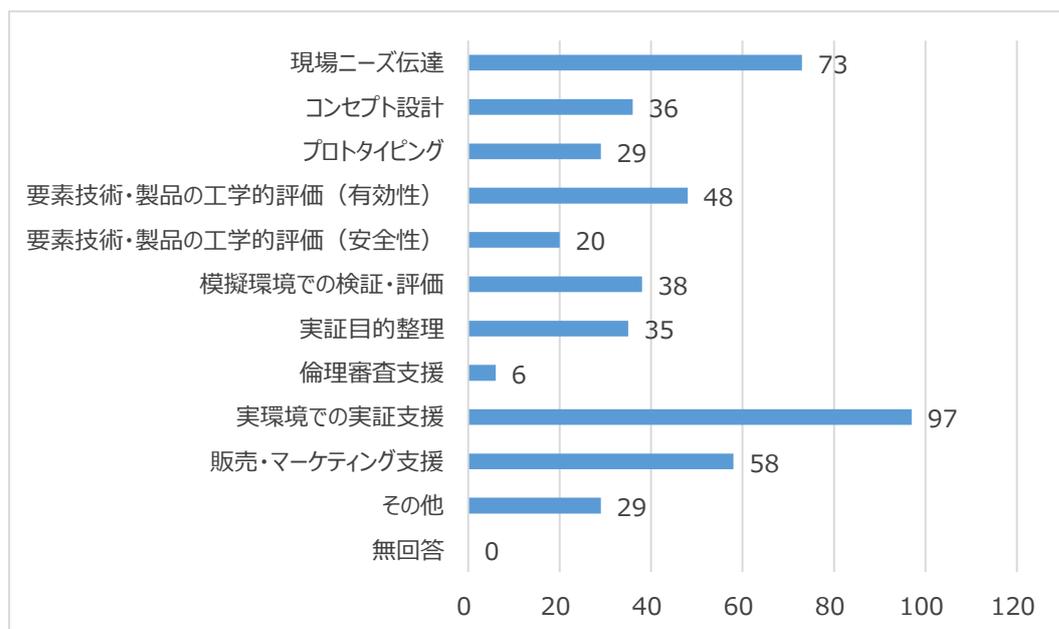


4) 開発企業の相談目的とリビングラボの対応内容

本年度、リビングラボの相談対応数に対する相談目的の内訳は以下のとおり。「実環境での実証支援」「現場ニーズ伝達」「販売・マーケティング支援」を目的とした相談が多かった。

図表 8-9 リビングラボへの相談目的の割合

n=283(複数回答)



また、本年度、リビングラボにて実施した対応内容は以下のとおり。「その他」を除いては、「実証支援」「コンセプト設計」の対応を行った割合が高かった。

図表 8-10 リビングラボでの対応内容の割合

n=238(複数回答)

